ISSN 1344-476X

公益財団法人

東洋文庫年報

2013年度

公益財団法人 東洋文庫

公益財団法人　**東洋文庫年報**　2013年度

目　次

Ⅰ　2013年度の東洋文庫 …… 1

Ⅱ　図書事業 …… 5
1. 資料の収集 …… 5
2. 資料の整理 …… 6
3. 資料の利用と複写サービス …… 8
4. 書庫資料の見学と研修 …… 11
5. 資料の保存整理と複製 …… 13
6. 書誌情報の公開 …… 13
7. 書庫内資料と書架スペース …… 16
8. 電子図書館情報システム …… 16

Ⅲ　研究事業 …… 21
1. 調査研究 …… 21
A. 超域アジア研究 …… 21
B. アジア諸地域に関する歴史・文化研究 …… 27
C. 資料研究 …… 42
D. 地域研究プログラム …… 43
E. 日本学術振興会科学研究費による調査研究 …… 45
F. 東洋文庫研究員・研究課題一覧 …… 57
2. 研究資料出版 …… 64
3. 研究情報普及 …… 66
A. 講演会 …… 66
B. データベース公開 …… 74
C. 研究者の交流および便宜供与のサービス …… 74
D. 国際交流 …… 77
4. 研究員等の研究業績 …… 77

Ⅳ 普及・展示事業 …… 134
1. 展示 …… 134
2. 広報普及 …… 136

Ⅴ 業務報告 …… 140
1. 総務報告 …… 140
2. 人事報告 …… 141
3. 会計報告 …… 143

Ⅵ 役職員名簿 …… 159
1. 役員 …… 159
2. 評議員 …… 160
3. 東洋学連絡委員会委員 …… 160
4. 名誉研究員 …… 161
5. 職員・研究員 …… 162
6. 客員研究員 …… 166

Ⅰ　2013年度の東洋文庫

2013年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

民法改定により当財団は特例民法人となっており、2013年11月までに新法に基づく財団に移行する必要があったが、4月1日に新公益財団法人への移行登記を完了した。これにより、改めて選任された評議員(従来の評議員と同一)の方々が4月1日で新公益法人の評議員に就任された。又、理事・監事はそれぞれ従来の理事・監事が継続就任した。6月の評議員会にて、長尾真評議員が辞任され、新たに大滝則忠氏(国立国会図書館館長)が評議員に選任された。理事は、任期満了7名がいずれも再選された。又、引き続く理事会にて、代表理事には槇原稔理事長が、又、業務執行理事に、田仲一成図書部長、平野健一郎普及展示部長、濱下武志研究部長がそれぞれ再任された。尚、槇原稔理事長は、2014年1月に英国政府より、名誉大英勲章KBE(Honorary Knight Commander of the Order of the British Empire)を叙勲された。

職員では、牧野元紀主幹研究員がハーバード・エンチン研究所の Visiting Scholarとして9月より約1年間ボストンにて研究を行っている。又、長谷川茂広参事が永年勤続の表彰を受けた。

図書部関係では、当文庫のデータベースへのアクセス数が月間約25万件のレベルで推移した。本年度の当文庫の図書の増加は、購入3,444冊、受贈6,355冊、合計9,830冊であった。
又、国際草の根交流センターよりジョン万次郎がアメリカに渡った時の米国捕鯨船の航海日誌の寄託を受けた。

東洋学講座は、「東洋文庫と本の世界」という共通テーマの下、春期は、坪井祐司研究員(立教大学非常勤講師)「ラッフルズと海の東南アジアの“近代”」、清水信行研究員(青山学院大学教授)「軒瓦文様の伝播—唐から東へ—」、吉田光男研究員(放送大学副学長)「最近の韓流歴史ドラマと韓国の歴史認識—史料と史実のあいだ—」を開催した。

秋の講座は、籾山明研究員「長城のまもり—労榦と居延漢簡—」、石川透氏(慶應義塾大学教授)「東洋文庫所蔵の奈良絵本・絵巻について」、内山雅生氏(宇都宮大学名誉教授)「戦前戦中期の調査資料から見る日本人の中国認識」を開催した。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物10冊の刊行に加え、論叢6冊を発刊した。又、各種研究会・講演会を計93回開催し、合計参加人数は1,452人であった。受入れ外来研究者6名、外国人研究者への便宜供与は、中国、イラン、台湾、チュニジア、ベトナムより16名であった。日本学術振興会特別研究員PDとして7名を受け入れた。

昨年度にひき続き、資料研究の講習会「アジア資料学研究シリーズ」を9月および10月に延べ5日間開催した他、3月には「総合アジア圏域研究国際シンポジウム」を2日間に渡って開催した。

当文庫の一般向けの活動を更に強化すべく、一般向けの有料講座「東洋文庫アカデミア」を開催した。本年度は「チベット仏教の世界」等24講座を開講し、延べ受講者117名であり、初年度として、本講座の定着を図る事が出来たと思われる。更なる規模の拡大に努めたい。

ミュージアムでは、

(1) 「マリー・アントワネットと東洋の貴婦人—キリスト教をつうじた東西の出会い—」(2013年3月20日～7月28日)

(2) 「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅—西洋生まれの東洋学—」(2013年8月7日～12月26日)
本展は永青文庫、学習院大学史料館と同時開催の東洋学展示の一環。

(3) 「仏教—アジアをつなぐダイナミズム—」(2014年1月11日～4月13日)

を開催し、それぞれの図録を「時空を超える本の旅」シリーズで発刊した(「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅—西洋生まれの東洋学—」展は、永青文庫、学習院大学と共同の図録を作成)。又、これらの展示に関連した講演会を合計17回開催した。

11月には公益財団法人日本医師会と協力して、3日間に渡り、当文庫所蔵の藤井文庫をはじめとする医学図書の特別展示会を講演室で開催した。又、

12月5日には、日英交流400周年を記念して「ザ・ブリティッシュ・デイ」を開催した。12月5日は当文庫所蔵の重要文化財である『ジョン・セーリス航海日誌』のジョン・セーリスが平戸から帰国の途についた日からちょうど400年となる。平野健一郎普及展示部長、ポール・スノードン氏(杏林大学副学長)の講演並びに澤和樹氏(東京藝術大学副学長)他による英国室内楽演奏会を開催した。3月には六義園ゆかりの特別展示「六義園をめぐる歴史」を実施した。

本年も、月刊のメールニュースの配信、『東洋見聞録』の刊行を行った。又、ミュージアムについては、日経・読売・毎日等の各紙、NHK等のTV番組、『マンスリー三菱』等で種々報道された。又、六義園の染井門前に当文庫のポスターを恒常的に掲載できる事となった。

ハーバード・エンチン図書館・研究所とは、研究協力協定の一環として、当文庫は東大・京大と並んで、毎年研究員の派遣応募の資格を得ているが、本年度の応募者は残念ながら書類選考もれとなった。

国際交流の面では、ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)図書館との協力覚書が締結された。又、従来より加入していたヨーロッパ・アジア研究コンソーシアム(ECAF)はフランス法人化する事となり、当文庫はGIP ECAFの発起人となった。

本年度も、英国大使、ドイツ大使をはじめ、数多くの各国駐日大使の来訪を受けた他、細川護熙元首相をはじめとする多数のVIP訪問があった。

規程関係では、給与規程の一部変更(住宅ローン金利の取り扱い)、組織運営規程・附則1(役職ポスト・オフ制度)、特定資産「修繕引当資産取扱要領」の一部改定・附則、を定めた。

先の施設の建替、ミュージアム開設に関連し、次の各賞を受賞した。
(1)　日本展示学会賞
(2)　東京建築賞
(3)　グッド・デザイン賞

財政面では、本年度は年間収支13百万円の赤字予算を組んでいたが、ミュージアムの入場者数が予定を下回った事、電気代が引き続き掛かった事等により、約20百万円の収支赤字となり、運営調整積立資産を取り崩した。

以上

Ⅱ　図　書　事　業

1．資料の収集

A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は21,453,335円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 （うち非図書）	洋書 （うち非図書）	計
超域・総合アジア圏域研究	4	4	8
超域・現代中国研究	140	0	140
超域・現代イスラーム研究	0	655	655
東アジア研究	395	4	399
内陸アジア研究	37（4）	46	83（4）
インド・東南アジア研究	1	106（27）	107（27）
西アジア研究	0	462	462
共通（継続・大型資料）	1,315	275	1,590
計	1,892（4）	1,552（27）	3,444（31）

※単位：冊（非図書資料はマイクロフィルム1リール、CD1枚を1冊に換算）

主な購入図書としては以下のものがある。

The World in Miniature: South Sea Islands.　2冊
東亜「新満洲文庫」全12冊、続篇全2冊　14冊
アラビア語新聞　*al-Hilal.* 1892-1921　100冊
徐家匯蔵書楼明清天主教文献続編　34冊
御伽婢子十三巻　絵入　5冊
英国国家図書館蔵敦煌西域蔵文文献　第3、4冊　2冊
Studies in Indian Epigraphy: Journal of the Epigraphical Society of India.　33冊
二十世紀三十年代国情調査報告　第134-266冊　133冊
英国国家図書館蔵敦煌遺書（漢文部分）第11-30冊　20冊
河口慧海著作集全17巻別巻3巻補巻3巻　25冊
中国金融檔案　大陸銀行巻　全30冊

また、本年度人間文化研究機構地域研究プログラムによる資料購入費の支

出総額は 2,795,789 円で、冊数は和漢書 39 冊、洋書 422 冊である。

B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区　分	受　　贈*			寄　　贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計 (冊)
単　行　本	3,498	348	3,846	1,098	653	1,751
定期刊行物	1,848	583	2,431	3,308	2,056	5,364
非図書資料	76	2	78	0	0	0
計	5,422	933	6,355	4,406	2,709	7,115

＊　科学研究費による購入はここに含む

主な受贈資料としては、以下のものがある。

Donald J. Munro氏寄贈　康有爲先生手札	3 通
ウッドハウス瑛子氏寄贈　モリソン関係資料	8 冊
中村元哉氏寄贈　中国新聞マイクロフィルム	69 リール
野沢豊氏旧蔵書・資料	和漢書 1,617 冊
鹿地亘・允子氏旧蔵書・資料	和漢書 291 冊
マルアシー・ナジャフィー図書館寄贈資料	20 冊

C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は 1,011,456 冊で、和漢書 573,995 冊、洋書 407,661 冊、複写資料 29,800 冊である。

2．資料の整理

A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	5,953 冊	
欧米語図書	597 冊	（イスラーム地域研究資料室の 63 冊を含む）
アジア諸言語図書	3,252 冊	（イスラーム地域研究資料室の 761 冊を含む）

整理した主な図書

(1)　新編中華人民共和国地方志　7 冊
(2)　民国画報彙編北京巻 66 冊、上海巻 100 冊　166 冊
(3)　美国哈佛大学哈佛燕京図書館蔵中文善本彙刊　37 冊
(4)　East India Company Factory Records, Part 5: Calcutta, 1690-1708.　9 リール
(5)　ドーソン『モンゴル史』(欧文)ポール・ペリオ旧蔵書書入本　4 冊
(6)　出島図(モンタヌス『オランダ東インド会社日本遣使録』ドイツ語版所収　彩色)　1 枚
(7)　新疆維吾爾自治区第三次全国文物普査成果集成　28 冊

B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 84 タイトル、欧文 2 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	352	120	1,848	583
購入	200	14	1,261	68
小計	552	134	3,109	651
計	686		3,760	

C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 29 種、欧文 1 種を受入れた。

3．資料の利用と複写サービス

A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は130名で、内訳は教職員56名(外国人12名)、研究機関関係者7名(外国人2名)、大学院生29名(外国人12名)、大学生33名(外国人1名)、その他5名(外国人1名)であった。

閲覧開館日は279日、利用者数は2,496名(うち新規利用者628名)、利用資料数は30,336冊で、詳細は後掲の表のとおりであった。利用者数は前年比で263名減少した。また2013年5月7日より、閲覧室での電子資料(CD-ROM等)の利用を開始した。

なお東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ993名、2,688冊であった。

(1) 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比(△印は減)
	(日)	(人)	(人)	(人)
2013年4月	24	193	9	18
5	23	203	9	△ 51
6	24	225	10	△ 51
7	25	206	9	△ 47
8	26	269	11	△ 41
9	22	195	9	△ 30
10	25	212	9	1
11	23	239	11	16
12	20	211	11	14
2014年1月	21	164	8	△ 10
2	22	179	9	△ 13
3	24	200	9	△ 69
計	279	2,496	9	△ 263

(2) 閲覧カウンター出納冊数

	和　書		漢　書		洋　書		合　計		日平均	昨年同月比(△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2013年4月	125	803	256	1,326	127	268	508	2,397	100	859
5	177	331	264	1,348	71	185	512	1,864	82	△ 460
6	171	391	322	1,557	53	151	546	2,099	88	△ 1,378
7	106	292	285	1,640	81	173	472	2,105	85	△ 1,152
8	240	801	340	2,038	139	314	719	3,153	122	141
9	131	254	338	1,793	56	113	525	2,160	99	△ 467
10	135	296	233	1,303	96	219	464	1,818	73	50
11	178	597	281	1,878	90	928	549	3,403	148	1,581
12	101	362	243	1,617	95	1,033	439	3,012	151	1,174
2014年1月	97	170	304	1,472	52	1,481	453	3,123	149	1,308
2	128	351	335	2,006	30	59	493	2,416	110	241
3	150	359	366	2,267	52	160	568	2,786	117	△ 741
計	1,739	5,007	3,567	20,245	942	5,084	6,248	30,336	109	1,156
比率	16.50%		66.74%		16.76%		100.00%			

(3) 貴重書閲覧予約申請受理件数

申請受理件数は、203件であった。

B. 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

(1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
125	2,295	3,958	46

(2) 電子複写

申込件数	提供枚数
1,039	35,074

C. レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて846件であった。

D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は6件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	横浜ユーラシア文化館開館10周年記念特別展「マルコ・ポーロの見たユーラシア—『東方見聞録』の世界—」	公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団横浜ユーラシア文化館、横浜市教育委員会	2013.4.27～6.30	公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団横浜ユーラシア文化館	『永楽大典』巻一九四一八 全1点1冊
2	平成25年度企画展示「時代を作った技—中世の生産革命—」	大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館、広島県立歴史博物館	国立歴史民俗博物館:2013.7.2～9.1、広島歴史博物館: 2013.9.13～11.4	大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館、広島県立歴史博物館	『禅林類聚』全1点1冊
3	平成25年夏休み特別展「☆ザッツ エンターテイメントショー☆マジックの時間」	名古屋市博物館、日本経済新聞社、テレビ愛知	2013.7.20～9.1	名古屋市博物館	『名陽見聞図絵』全1点4冊
4	名古屋城特別展「巨大城郭　名古屋城」	名古屋城特別展開催実行委員会	2013.10.12～11.24	名古屋城天守閣	『名古屋城城郭図』ほか 全3点25枚66冊
5	特別展「光悦—桃山の古典—」	公益財団法人五島美術館	2013.10.26～12.1	公益財団法人五島美術館	『歌仙絵入』ほか 全2点全2冊
6	文京ミューズフェスタ2013	文京区、文の京ミュージアムネットワーク	2013.12.18～19	文京シビックセンター	『チベット大蔵経ナルタン版』ほか 全3点

4．書庫資料の見学と研修

主な見学は次のとおりである(60件490名)。なお、このほかに34件195名の見学があった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
	2013年				
1	4月22日	高橋秀樹	文部科学省教科書調査官	9	書庫及び所蔵資料見学
2	4月24日	徳原靖浩	国立公文書館アジア歴史資料センター資料情報専門官松尾弘子氏	1	〃
3	4月24日	瀧下彩子	日本カメラ博物館・運営委員白山眞理氏、NPO法人デジタルヘリテージデザイン・アーキビスト竹内涼子氏	2	〃
4	4月26日	斯波義信	ハーバード大学ハーバード・エンチン図書館館長鄭炯氏	1	〃
5	5月 1日	遠藤光暁	中央研究院近代史研究所ピーター・ラベル氏	1	〃
6	5月15日	古屋昭弘	山西大学副教授王為民氏	1	〃
7	5月15日	澤田達一	イラン・アルムスタファー国際大学学長一行	8	〃
8	5月24日	青木　敦	青山学院大学学生	15	〃
9	6月12日	徳原靖浩	リッチモンド大学研究員花岡美海氏	1	〃
10	6月13日	林佳世子	東京外国語大学外国語学部学生	10	〃
11	6月14日	原山隆広	チュニジア・マヌーバ大学教授マフムード・タルシューナ氏一行	2	〃
12	6月17日	三菱重工業株式会社	三菱重工業株式会社取締役社長宮永俊一氏一行	6	〃
13	6月20日	相原佳之	国際基督教大学教授菊池秀明氏、国際基督教大学学生	12	〃
14	6月24日	渡邉顕彦	学校法人学習院一行	6	〃
15	6月26日	岸本美緒	お茶の水女子大学等大学院生	11	〃
16	7月11日	相原佳之	明治大学学生	9	〃
17	7月11日	坂口正治	岡山県高梁市長近藤隆則氏一行	3	〃
18	7月29日	臼井佐知子	東京外国語大学学生	9	〃
19	8月 1日	小助川貞次	中世ラテン語文献・韓国漢文文献口訣資料・日本訓点資料研究者	12	〃
20	8月 2日	星　　泉	チベット研究者一行	6	〃

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
21	8月 5日	徳原靖浩	2013年度卒論を書くための情報リテラシーセミナー受講生	17	書庫及び所蔵資料見学
22	8月 5日	相原佳之	学習院大学文学部史学科学生	10	〃
23	8月16日	山川尚義	三菱史料館一行	3	〃
24	8月21日	佐藤　誠	茨城県高等学校教育研究会歴史部一行	23	〃
25	8月23日	小林義之	日中若手歴史研究者セミナー参加者	22	〃
26	8月24日	妹尾達彦	中央研究院歴史語言研究所研究員黄寛重氏一行	8	〃
27	8月26日	池田雄一	中国古代史学会一行	27	〃
28	9月 2日	大木　康	平成25年度漢籍整理長期研修受講生	10	〃
29	9月 6日	笠原愛古	中村元記念館館長一行	5	〃
30	9月 9日	コッラード・モルティーニ	イタリア大使ドメニコ・ジョルジ氏一行	2	〃
31	9月13日	石塚晴通	龍谷大学紙質調査研究者	3	〃
32	9月13日	伊藤真恵	トルコ・ベイオール区長一行	6	〃
33	9月20日	窪添慶文	武漢大学教授魏斌氏ほか	4	〃
34	9月28日	廣田康人	三菱商事総務部一行	62	〃
35	10月 1日	徳原靖浩	国立国会図書館関西館アジア情報課西願博之氏	1	〃
36	10月17日	嶋尾　稔	ベトナム人研究者一行	4	〃
37	10月18日	石塚晴通	東洋のコディコロジー「非漢字文献」受講者	10	〃
38	10月22日	八代光正	三菱グループ各社総務担当者	22	〃
39	10月28日	大和裕幸	東京大学副学長大和裕幸氏一行	4	〃
40	10月29日	中村元哉	津田塾大学学芸学部学生	3	〃
41	11月22日	上田裕之	筑波大学助教上田裕之氏、筑波大学学生	5	〃
42	11月27日	正木　博	浙江大学芸術与考古博物館一行	6	〃
43	11月27日	山川尚義	成蹊学園一行	5	〃
44	11月27日	櫛来亜矢子	国立国会図書館平成25年度職員基礎研修(第II期)研修生	4	〃
45	12月 4日	濱下武志	中央研究院近代史研究所檔案館一行	2	〃
46	12月 6日	高村武幸	三重大学准教授高村武幸氏、三重大学学生	4	〃
47	12月16日	尾崎　康	浙江工商大学教授王宝平氏	1	〃
48	12月17日	川島　真	東京大学大学院生	29	〃

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
49	12月24日	弁納才一	無錫市檔案館館長湯可可氏	1	書庫及び所蔵資料見学
50	12月25日	内山雅生	南開大学中国社会史研究中心李金錚氏ほか	3	〃
	2014年				
51	1月15日	中見立夫	モンゴル人研究者一行	2	〃
52	1月16日	青木　敦	慶應義塾大学文学部学生	2	〃
53	1月17日	斯波義信	国際基督教大学学生	14	〃
54	1月29日	徳原靖浩	イラン・宗教大学東方宗教研究科一行	6	〃
55	2月　3日	原山隆広	カイロ・アメリカン大学教授ハーレド・ファフミー氏ほか	2	〃
56	2月15日	岡崎礼奈	アート・ドキュメンテーション学会参加者	26	〃
57	2月25日	尾崎文昭	華東師範大学教授許紀霖氏	1	〃
58	2月25日	山川尚義	成蹊学園一行	2	〃
59	3月17日	中見立夫	内蒙古大学教授白拉都格其氏、北京市社会科学院副研究員哈斯巴根氏	2	〃
60	3月26日	尾崎文昭	華東師範大学教授羅崗氏、復旦大学副教授倪偉氏	2	〃

5．資料の保存整理と複製

2006年度末をもって、製本室並びに撮影室が閉鎖され、原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化などの作業を行わないことになった。

実施した作業項目と内容は次のとおりである。

雑誌合冊製本(外注)　368冊

6．書誌情報の公開

2013年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の44種である。

このうち2013年度新規公開分は※印で示す。各データベース名の後の(　)は収録件数である。

01	中国語逐次刊行物	(5,057 件)
02	日本語逐次刊行物	(2,796 件)
03	欧文逐次刊行物	(2,638 件)
04	朝鮮・韓国語逐次刊行物	(843 件)
05	漢籍資料オンライン検索	(78,275 件)
06	越南本漢籍検索	(439 件)
07	朝鮮本漢籍検索	(3.901 件)
08	岩崎文庫(和書貴重書)	(7,966 件)
09	續修四庫全書	(6,230 件)
10	拓本検索	(3,104 件)
11	ラテン文字資料	(92,880 件)
12	欧文資料分類検索	(96,957 件)
13	辻直四郎文庫	(7,218 件)
14	キリル文字資料	(12,818 件)
15	モリソン文庫資料検索	(17,302 件)
16	モリソン文庫資料分類検索	(16,636 件)
17	モリソンパンフレット検索	(8,301 件)
18	中国語図書の検索	(61,465 件)
19	中国語図書分類検索	(61,432 件)
20	日本語図書の検索	(66,622 件)
21	研究部近代中国研究班収集日本文図書分類検索	(18,603 件)
22	韓国・朝鮮語図書の検索	(4,145 件)
23	藤井尚久文庫オンライン検索	(1,431 件)
24	モンゴル語資料検索	(1,606 件)
25	西アジア諸言語図書分類検索	(52,291 件)
26	アラビア語図書の検索	(16,049 件)
27	ペルシャ語図書の検索	(14,383 件)
28	現代トルコ語図書の検索	(11,260 件)
29	オスマントルコ語図書の検索	(1,628 件)
30	イスラーム地域研究資料室収集資料 (アラビア語・ペルシア語・オスマントルコ語資料)	(2,376 件)
31	キルギス語図書全リスト(PDF)	(約 20 件)*
32	ウイグル語図書全リスト(PDF)	(約 1,100 件)*
33	カザフ語図書全リスト(PDF)	(約 240 件)*

34	チベット語文献(河口慧海将来蔵外文献)		(約 500 件)*
35	チベット語文献(米国議会マイクロフィッシュ版)		(約 4,000 件)*
36	スィンディー語図書		(188 件)
37	南アジア諸語(アラビア文字)図書検索		(3,691 件)
38	ビルマ語図書の検索		(665 件)
39	インドネシア語・マレーシア語図書の検索		(333 件)
40	タイ語資料検索		(933 件)
※ 41	ベトナム語図書の検索	2014 年 1 月 23 日　新規公開	(377 件)
※ 42	電子資料の検索	2013 年 7 月 19 日　新規公開	(105 件)
43	南方史資料		(4,199 件)
44	榎文庫		(9,894 件)

注 1：ホームページ上の目録データベースのうち「漢籍統合データベース」は、05 漢籍資料オンライン検索、06 越南本漢籍検索、07 朝鮮本漢籍検索の横断検索用であるため、本リストからは除外。また、2010 年度まで公開の「新収蔵漢籍検索」は、05 漢籍資料オンライン検索に併合のため、同様に除外。

注 2：同「榎文庫NDC8 による分類検索」は、44 榎文庫と公開件数が同一のため、本リストからは除外。

注 3：「イスラーム地域研究資料室収集資料」の公開件数が 2012 年度より減少したのは、データベースリニューアルのためである。

注 4：件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2012 年度年報の数字を用い、*で示した。

7．書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧

<table>
<tr><th>階</th><th colspan="3">排架内容</th></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">Old Book(大型本)，MS(大型本)，漢籍稀覯書，漢籍：経部・子部・集部・叢書部(各部線装本)，岩崎文庫，銅版画，古地図，梅原考古資料，自筆稿本，檔案(満洲語檔案など)</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">欧文図書(モリソン文庫を除く，大型本)，アジア諸語図書(アラビア語・ペルシア語・トルコ語ほか)，個人文庫(辻文庫・梅原文庫・榎文庫・岩見文庫・モリソンⅡ世文庫・ベラルデ文庫・山本文庫)</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">和書，漢籍：子部・集部・叢書部(各部普通本)，漢籍大型本，中・朝雑誌，近代中国研究委員会収集資料(和・中・欧文図書，雑誌)</td></tr>
<tr><td>3</td><td>3階書庫1</td><td>3階書庫2</td><td>2階・中2階・3階ミュージアム</td></tr>
<tr><td></td><td>漢籍：経部(普通本)・史部(線装本，普通本)</td><td>朝鮮本，越南本，満洲語，蒙古(モンゴル)語，チベット語，サンスクリット語図書，拓本資料，電子資料</td><td>モリソン書庫(大型本を除く)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B1</td><td colspan="2" rowspan="2">逐次刊行物(和・中・朝・欧文新聞，和・欧文雑誌)</td><td>マイクロ保管庫</td></tr>
<tr><td>マイクロ資料</td></tr>
</table>

8．電子図書館情報システム

2013年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルティメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

このうち※で示した2013年度新規公開分は、画像データ：風景5件266コマ、浮世絵・美人画1件11コマ、奈良絵本・挿絵など12件723コマ、中国祭祀演劇関係写真資料データ・ベース28,692件、全頁データ：岩崎文庫総合45件9,354頁、洋古書(宣教師文書)5件2,621頁、洋古書(旅行記)14件7,297頁、東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー138件8,062頁、『柏原英一(1914～2009)写真帳』7冊383頁、『亜東印画輯』16冊2,642頁、『北支』51冊2,760頁、動画データ2種である。

A. 画像データ

(1) 地図

①中国関係　　中華帝国図ほか　　222 件　(274 コマ)

②日本関係　　江戸内府図ほか　　72 件　(787 コマ)

※(2) 風景　　28 件　(1,332 コマ)

※(3) 浮世絵・美人画　　31 件　(209 コマ)

※(4) 奈良絵本・挿絵など　　117 件　(6,567 コマ)

(5) モリソン文庫―香港銅版画・水彩画等　　392 件　(416 コマ)

(6) 梅原末治考古資料画像データベース　　15,343 件

※(7) 中国祭祀演劇関係写真資料データ・ベース

2014 年 2 月 11 日　新規公開　28,692 件

B. 全頁データ

(1) 岩崎文庫　古籍善本　　55 件　(7,618 頁)

※(2) 岩崎文庫　総合　2013 年 7 月 29 日　新規公開　　45 件　(9,354 頁)

※(3) 洋古書(宣教師文書)　　21 件　(11,469 頁)

※(4) 洋古書(旅行記)　　19 件　(8,999 頁)

(5) モリソンパンフレット　　529 件　(9,605 頁)

※(6) 東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー(現代中国研究資料室)

489 件　(39,916 頁)

※(7)『柏原英一(1914 ～ 2009)写真帳』(現代中国研究資料室)

2013 年 8 月 16 日　新規公開　　7 冊　(383 頁)

※(8)『亜東印画輯』(現代中国研究資料室)

2014 年 3 月 31 日　新規公開　　16 冊　(2,642 頁)

※(9) 雑誌『北支』昭和 14 年 6 月～昭和 18 年 8 月

2014 年 3 月 20 日　新規公開　　51 冊　(2,760 頁)

C. 動画データ

(1) 香港の祭祀と演劇(概観)

①広東系　　約 50 分

Ⅰ巡遊

Ⅱ儀礼

Ⅲ-1「六国封相」(武戯)

Ⅲ-2 粤劇 :「双仙拝月亭」(文戯)

Ⅲ-3 粤劇：「再生紅梅記」(文戯)

②海陸豊系　約 75 分

Ⅰ巡遊

Ⅱ儀礼

Ⅲ-1 海陸豊劇：「呂布」(武戯)

Ⅲ-2 海陸豊劇：「蕭光祖」(文戯)

Ⅲ-3 海陸豊劇：正字戯「宛城の戦」(『三国演義』第 16 回)

Ⅲ-4 海陸豊劇：正字戯「李碧蓮搜宮」

※Ⅲ-5 海陸豊劇：海陸豊劇：白字戯「秦雪梅訓子」

2013 年 12 月 16 日　新規公開[うち約 5 分]

③潮州系　約 120 分

Ⅰ巡遊

Ⅱ儀礼

Ⅲ-1「楊門女将」(文戯)

Ⅲ-2「楊門女将」(武戯)

Ⅲ-3「宝蓮燈」(文武戯)

Ⅲ-4「守揚州」(文武戯)

※Ⅳ潮劇：「蘭英刺虎」1979 年旧暦三月廿七日、香港大埔墟天后廟祭祀

2013 年 6 月 13 日　新規公開[うち約 40 分]

(2) 香港広東正一派道士の儀礼

①龍躍頭太平清醮儀礼　約 50 分

②粉嶺太平洪朝儀礼　約 50 分

③「八門功徳」　約 6 分

(3) 中国(江西)の儺舞・儺戯

①萍郷県の儺舞　約 60 分

②万載県の儺舞　約 40 分

③婺源県の儺舞・儺戯　約 50 分

④南豊県石郵村の儺舞　約 30 分

⑤南豊県水南村の儺舞　約 30 分

(4) 目連戯

①浙江省紹興前良村調腔目連戯　約 50 分

②祁門県栗木村目連戯　約 50 分

③福建仙遊目連戯　約 50 分

④湖南省湘西目連戯　約 10 分

⑤莆田木身目連戯　約 30 分

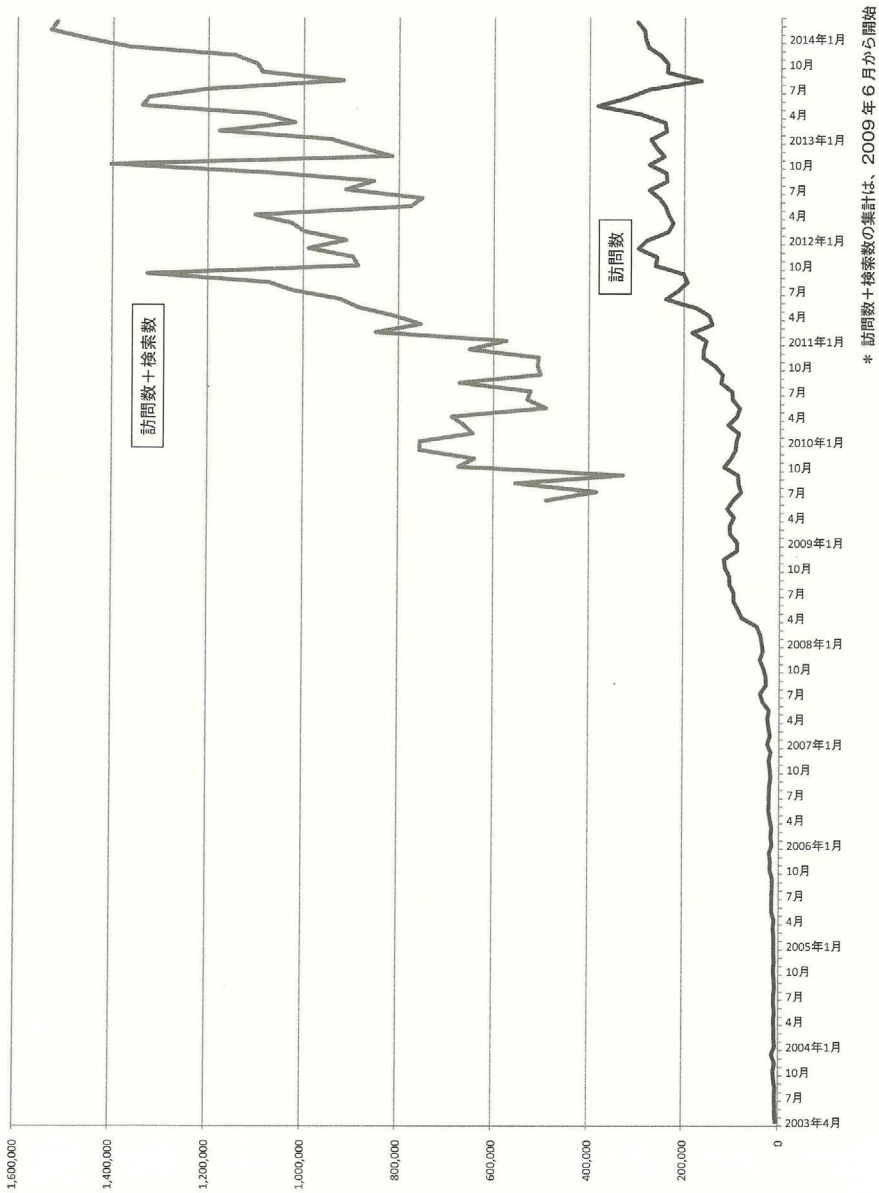
(5) 元宵祭祀

①萍郷県元宵花灯会　約 30 分

(6) 莆仙劇

①「白蛇伝」　約 20 分

注　2011 年度まで「全頁データ：モリソン文庫　洋書稀覯本」として公開していたデータは、B-(3)洋古書(宣教師文書)とB-(4)洋古書(旅行記)とに項目を分割して公開



＊訪問数＋検索数の集計は、2009年6月から開始

データベースアクセス総数

Ⅲ　研　究　事　業

東洋文庫は、アジア諸地域の歴史と文化の発展に関する基礎資料を90年近くにわたって組織的かつ継続的に収集してきた(斯波義信「財団法人東洋文庫の80年」財団法人東洋文庫編集・発行『東洋文庫80年史Ⅰ—沿革と名品—』2007年、5－36頁)。研究事業の主たる目的は、これらの資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。アジアの全域を対象にして基礎資料を体系的に収集・整理し、それにもとづく総合的な基礎研究の推進は、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫以外にはなしえない。

東洋文庫はこの事業をさらに効果的に推進するために、2003年度から(1)アジア研究の組織的な編成と若手研究員の積極的な採用、(2)現代アジアの重要課題に関する総合的研究の推進、(3)欧文の成果発信を拡充することによる国際的な活動の強化、および(4)資料・研究情報の公開と共同利用を促進すべく、研究部と図書部を一丸とした電子情報システムの構築に着手した。この改革を機に、研究分野は＜超域アジア研究＞と＜アジア諸地域に関する歴史・文化研究＞(以下、＜歴史・文化研究＞)、＜資料研究＞とから構成され、各分野はそれぞれ、一次資料にもとづく現代アジアの学際的な実証研究、各ディシプリンを生かした歴史・文化的な基礎研究、東洋文庫をはじめとするアジア諸地域の現地研究機関の資料群の探索と研究を主要な課題としている。

1．調査研究

A. 超域アジア研究

これまで東洋文庫における調査研究は、超域アジア研究と歴史文化研究に分たれ、そのそれぞれがイスラーム圏域、中国圏域に、またアジア各地域研究部門へと専門化されてきたが、2012年度から3年間の計画で、各年度に主要な検討地域に焦点を当て、それをアジアの地域間交流や地域を跨いだ共通の課題に複数の研究班で取り組む体制と運用を試みている。従来からの個

別専門研究の長期的な蓄積に基づき、現在のアジアの変動に見られるように、変動の原因とその範囲がアジアの内部においてのみならずグローバルに影響し合っているという状況下にあっては、歴史としての現代という視覚からの研究が求められると考えられる。これらの理由から総合アジア圏域研究への取り組みを強化した。

“アラブの春”といわれるイスラーム圏の変動は、権威主義的政治体制が、一見安定的に見えても、その内実ではグローバル化する社会関係の変動に対応することが出来ていないことを露呈した。また、中国圏においても、これらの“アラブの春”に内在する諸問題に対応する取り組みが急がれており、経済発展の次に来る社会生活の充実が緊急の課題であることを示している。その状況の中で、より歴史的に長期の視点から現在と将来を検討すべきという議論がなされ、グロバリゼーションが進む中で、中国研究は如何にあるべきか、また、アジアの歴史的な流れの中で現在をどのように位置付け、今後の方向を考えるか、という長期的視野に関する課題が一気に浮上している。この動きは、1)全アジア的視野に立ち、2)世界的な動きの中でアジアを位置づけつつ、さらに、3)どのように個別地域のうごきと連動させて検討するか、という3層にわたる研究課題を結びつけることが求められる。この新たな研究領域は、アジア社会の長期変動に関する主題であり、これまで長年にわたる資料収集と地域研究に基づいたアジア研究を進めてきた東洋文庫の研究班すべてを連携する総合アジア圏域研究において初めて対応が可能である。

この課題に応えるため、2012年度からは、「一つの圏域に焦点を当てながら関連するアジアのすべての圏域について考える。また、アジアのすべての圏域から一つの圏域について考える」という相互にフィードバックを可能とする研究体制と研究方法を新たに設定した。具体的には、「超域アジア研究部門」のなかに、「総合アジア圏域研究班」を設置し、新たな取り組みを開始した。この「総合アジア圏域研究班」の目的と役割は以下のとおりである。1)アジア規模の問題群を設定し、東洋文庫のすべての研究グループを有機的に結び付けて分析検討する、2)イスラーム圏と中国圏というこれまでの2つの超域研究のテーマを相互に関連させながら、かつまたそれぞれが独自に持つアジア規模の問題への広がりを検討する。さらに、3)東洋文庫が進めてきたアジア諸地域に関する歴史・文化研究ならびに資料研究を多様に組み合わせて、総合アジア圏域研究の活動に結び付けていく。そのために国際的な研究交流や共同研究を進め、それらの検討成果を継続的にワーキングペーパーや欧文電子ジャーナルなどを活用して広く発信する。

以上の活動を推進するため、書誌学的にも通暁した人材を育成し、アジア資料学の構築を目指す東洋文庫独自の若手人材育成という課題に取り組んだ。

・中国圏とイスラーム圏の現在

1980年代以降のアジア諸地域は、大きな変動を経験するとともに、経済的な急成長をとげたことにより、21世紀の世界情勢の展望にとってアジアの占める位置と役割は著しく高まりつつある。中国は1979年の改革・開放後に急速な変容と発展を遂げ、今や中国情勢は、国内問題にとどまらず、隣接アジアを包摂した課題として総合的・多面的な実証研究を不可避としている。

また、イスラームのグローバル化とその先鋭化も近年の著しい現象であり、いわゆる“アラブの春”という動きは、世界的に大きな影響を与えている。現代世界の理解のためには、中東や中央アジア、中国・東南アジアなどのイスラームの現実を基礎データにもとづいて多面的に解析することが必要である。

以上のような状況をふまえ、現代のアジア圏域ならびに中国圏域およびイスラーム圏域に関するアジア規模の研究を組織し、これを政治学・経済学・宗教学・歴史学などを融合した学際型、内外研究機関横断的な共同研究として実施した。これらの現代研究は、基礎資料の収集と解析にもとづき、長期的な視野の下に息の長い実証研究として進めることが必要であるが、2013年度はインド・東南アジアをめぐるアジア規模のまたグローバル規模の検討を加えるべく東洋文庫の2研究班による研究を行ない、それらを集約する国際研究シンポジウムを開催した。

〈超域アジア研究部門〉

(1) 総合アジア圏域研究班

「総合アジア圏域研究」

総　括	斯波義信◎
	濱下武志◎、田仲一成◎、平野健一郎◎
現代中国	毛里和子、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	八尾師誠、池田美佐子、粕谷　元、湯浅　剛
前近代中国	太田幸男、斯波義信◎*、山本英史、清水信行

近代中国	内山雅生
東北アジア	六反田豊、松村　潤、石橋崇雄
日　本	今西裕一郎
中央アジア	梅村　坦、小松久男、土肥義和
チベット	吉水千鶴子
インド	辛島　昇
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦　徹
東アジア資料	斯波義信◎*

(◎は専従者、*は重複を示す。以下同じ)

基本的な研究方法は、年度ごとに重点地域を定め、それをアジア規模の視野から多角的に検討するとともに、周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を検討する。範囲は、基礎資料研究、現地研究、主題研究などに跨り、多分野にわたる国際的な比較研究を行なう。また、資料、検討過程並びに研究成果は、欧文にてオンラインにより発信する。このような総合的アジア研究は、アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫においてのみ可能であると考える。

東洋文庫のすべての研究班の参加によって行われる重点研究としてこの「総合アジア圏域研究」があるが、基本的な検討項目は、各年度において選択した1つの地域のアジア圏域間における位置と役割、地域間移民ネットワーク、ディアスポラ、トランスナショナル問題を検討する。ワークショップを開催して議論を重ね、現地調査・資料調査によって現代の諸問題を歴史的背景を含め提示する。これらの討論過程を、ワーキングペーパーや電子ジャーナルにおいて発信し、さらに議論を広げていくことを目指す。

[研究実施概要]

a) 昨年度に引き続き、東洋文庫所蔵の貴重書を用いた講習会「アジア資料学研究シリーズ」を開始した。今年度は、「西洋古典籍書誌講習会—西洋書籍と東洋研究」として3日間、「東洋のCodicology —文理融合型東洋写本・版本学Ⅱ　非漢字文献」として2日間、のセミナーを開催した。内外の書誌学研究者、研究資料館からの応募があり、このうち先着で35名の参加を得た。

b) インド研究班、東南アジア研究班がコーディネーターとなり、インド・東南アジア圏域シンポジウム"State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia" (The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks) を開催した。シンポジウムは2日間行われ、のべ113名の参加者を得て、活発な討論が行なわれた。

c) 若手研究者の国際的な研究成果発信を支援するため、昨年度に引き続き、国立シンガポール大学出版のポール・クラトスカ氏を招き、セミナー"Scholarly Publishing in English: What Editors Expect"を開催した。東洋文庫に籍を置く若手研究員および日本学術振興会特別研究員が参加し、クラトスカ氏より英文研究論文の作成について指導をうけた。

(2) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究(2)」

総　括	毛里和子*
政　治	毛里和子*、天児　慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐　　亮、平野　聡
経　済	中兼和津次*、加藤弘之、厳　善平、丸川知雄、梶谷　懐、寶劔久俊、唐　　成
国際関係・文化	村田雄二郎*、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、田中明彦、川島　真、貴志俊彦、黄　東蘭、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、土田哲夫、尾形洋一、大澤　肇
資　料	斯波義信◎*、矢吹　晋、貴志俊彦*、新村容子、城山智子、村上　衛

現代中国は、政治、経済、社会の大改革を行ない、その影響力は東アジアから広く世界に及びつつある。この動態を、歴史・文化の要因をも視野に収めながら、総合的に捉える研究体制(資料、政治、経済、国際関係・文化の各グループで構成)を構築した。資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点としつつ、学際的研究と公開利用に向けて拡充と再編をはかる。その際、台湾中央研究院や中国社会科学院、ハーバード・エンチン研究所との学術交流など、海外・国内の研究機関との連携をいっそう強化し、政治、経済、国際関係・文化グループは研究会の開催を継続実施し、次年度以降における成果の刊行

に備える。

［研究実施概要］

a) 資料グループは、2011年度に刊行した『モリソンパンフレットの世界』(東洋文庫論叢第75)をもとに、引き続き東洋文庫が所蔵する近代中国関係資料の中心をなすモリソンパンフレットを整理し、系統的な調査・研究を進めた。

b) 政治グループは、政治・経済・行政・社会・法律各分野の専門家で陳情に関心を持つ中堅・若い研究者をメンバーとする「綜合研究―陳情」研究会を三ヶ月に一回開催した。また本年度末にシンポジウム「日中関係の源流を探る―1970年代の再検証」を「新しい日中関係を考える研究者の会」などと協力して開催した。

c) 経済グループは、中国から周黎安氏、秦暉氏の参加を得て、国際ワークショップ「毛沢東時代の経済制度と政策の評価」を開催し、1950年代中国の経済政策について検討した。

d) 国際関係・文化グループは、「1950年代政治」「汪精衛文書」「図画像資料」の3セクションに分かれ、四半期に一度程度の研究会を開催した。

(3) 現代イスラーム研究班

「現代イスラームの超域的基礎研究
―議会主義の展開と立憲体制に関する一次資料の収集と比較分析研究―」

総　括	八尾師誠*
アラブ	池田美佐子*、長沢栄治、小杉　泰、関本照夫、松本　弘、鈴木恵美
イラン	八尾師誠*、松永泰行、黒田　卓、鈴木　均
トルコ	粕谷　元*、小松久男*、設樂國廣、江川ひかり、大河原知樹、秋葉　淳、澤江史子
中央アジア	湯浅　剛*、小松久男*、宇山智彦

世界の近現代イスラーム研究において、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書(アラビア語、ペルシア語、トルコ語)を収集・整理・分析し、それぞれの地域(国家)に誕生した議会主義の政治思想と立憲

体制の実態を比較・検討する。2009年度からは、新たに中央アジア諸国を比較の対象に加え、基本資料の収集と整理・分析を行なう。これによって中東・中央アジアなどのイスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を一次資料にもとづいて総合的に考察する。他方、イスラーム関係資料の収集と整理、データベース化を推進し、日本における資料センターとしての充実をはかる。

［研究実施概要］

現代イスラーム研究班の活動は、資料の性格に対応してアラブ、イラン、トルコ、中央アジアの4グループに分かれて実行され、2009年度以来進めてきた議会文書研究の成果として、『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』を刊行した。また、年度末には合同研究会を開き、次年度以降の研究計画と2014年度に予定されている国際シンポジウムについて検討した。

B. アジア諸地域に関する歴史・文化研究

歴史・文化研究は、アジア諸地域の基礎的な資料を収集し、それらを解読・研究・分類編集・出版することによって、アジア諸地域・諸民族・諸文化の歴史・文化に関する理解を深める役割をになう。これらの基礎的な研究は、総合的なアジア圏域研究の推進に資するものであり、東洋文庫における研究蓄積が国際的なアジア研究を支える基礎になっている。総合アジア圏域研究は、アジア規模の視野から、歴史・文化研究を位置づけることを課題としている。

〈東アジア研究部門〉

(1) 前近代中国研究班

①「中国古代地域史研究―『水経注』の分析から―(2)」

総　括　　太田幸男*
松丸道雄、藤田　忠、飯尾秀幸、籾山　明、塩沢裕仁、
多田狷介、窪添慶文、池田雄一、金子修一、川合　安

本研究班では地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的な方法による研究に挑んでいる。また流域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせて検討することで、歴史的自然環境・社会的実態を具体的に理解し、流域の地域社会の構造の変化を明らかにしていく。刊行を予定している『水経注疏訳注』洛水・伊水篇訳注もこれらの成果を反映させたい。渭水下流域及び洛水・伊水流域は「黄河文明」の中心地である。ここを「地域史」という観点から分析することは中国古代史研究においては新鮮な視点であり、『水経注』の研究という範疇を超えて、内外における中国古代史研究の新たな展開となる研究を目指している。

[研究実施概要]

a) 陳橋驛復校『水経注疏』(江蘇古籍出版社刊)をテキストとし、洛水・伊水篇(巻15)の講読を隔週の研究会において実施した。洛水は陝西省東南部に発して東北流して河南省洛陽を経、偃師県において河南省内を東北流してきた伊水を合わせた後、同省鞏県東北の洛口において黄河に入る。すでに公刊された渭水篇訳注上・下巻に続いて、洛水・伊水篇訳注の刊行をめざしている。

b) 『水経注』洛水・伊水篇訳注を刊行するため、洛水・伊水流域の地誌的記述及び考古学的調査・発掘報告の収集を実施している。2013年12月25日から2013年12月29日の間、洛水・伊水とそれらに流入する小河川の河道を調査した。同時に、それらの河川沿岸の史跡を調査し、洛水と伊水の合流点、黄河と洛水の合流点を検分した。

c) 『張家山漢簡「二年律令」の研究』(東洋文庫論叢第77)を刊行した。

②「東アジア都城の考古学的調査・研究(3)」

総　括　　清水信行*
田村晃一、早乙女雅博、飯島武次、妹尾達彦、井上和人、小嶋芳孝

本研究班では、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行な

い、その研究成果として2004年度に『東アジアの都城と渤海』(全394頁)を、2006年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊した。2011年には上京龍泉府の踏査、2012年には上京龍泉府、虹鱒漁場墓地遺跡、三霊屯遺跡等の中国所在の渤海遺跡を踏査、資料収集を行った。現在、中国では上京龍泉府、西古城、八連城など都城及び古城跡の調査が進行し、それら遺跡の報告書も刊行され、渤海遺跡に関する資料が増大した。そのため、これら遺跡資料の机上における整理と調査・研究が重要となっており、現地における調査とともに継続していくことが今後の活動の中心となる。

［研究実施概要］

上京龍泉府、西古城、虹鱒漁場墓地遺跡ほか中国で出版された渤海遺跡の発掘調査報告書の精査、検討を行った。また、朝鮮半島における百済、新羅の都城に関する最新の情報を収集し、それらの整理、検討を行なった。

③「中国社会経済史用語解集成の作成とその電子辞典化」

総　括　　斯波義信◎*
　　梅原　郁、千葉　煚、渡辺紘良、妹尾達彦*

本グループがこれまでに作成・公刊した『宋史食貨志訳註(一)～(六)』(東洋文庫刊、1960年～2006年)、および『宋会要輯稿・食貨篇・社会経済用語集成』(東洋文庫刊、2008年)における訳註および用語の収集の成果をベースとして、整理と増補を加え、広範囲かつ多方面の利用者の便宜に適合するような冊子体およびCD-ROMの用語解説集を作成し、研究活動のいっそうの発展に資するプロジェクトである。

［研究実施概要］

2011年度に刊行した『中国社会経済史用語解』をもとに、今回の編集において収録するに至らなかった司法史関係用語等の原稿について検討し、2014年度以降における修訂版のための準備作業を行なった。

④「前近代中国民事法令の変遷」

総　括　　山本英史*

南　宋	大澤正昭、青木　敦
元　代	鈴木立子
明　代	鶴見尚弘
明清代	岸本美緒、濵島敦俊、寺田浩明、西　英昭、高遠拓児

宋代以降の戸婚・田土・銭穀などを扱う「民事」法令を分析し、どのように変遷してきたかを明らかにする。中国の各時代の様々な法についての研究の中でも、近20年の特徴のひとつとして、法令の有効性、厳格性などを版牘文や契約文書によって検討する研究がなされてきたことがあげられる。契約文書や多くの条例、版牘文などが発見され、また中国国内にあるものが利用しやすくなったことにもよろう。本研究班も過去5年間、この方向で研究活動をしてきた。この5年間の研究をとおして、あらためて法令そのものに視点をあてることが必要であることに到った。民事的な法令に限ったのは、社会状況を反映しやすく、社会の実態の変化を分析するに適していると見ているためである。一度できた法は常に現実社会に適合しにくくなってゆくが、時代を通して考察することにより、漢族社会の大きな変容をつかむことができると考える。

［研究実施概要］

a) 2012年度に引き続き、宋～清の条例の収集を進めた。

b) 収集した条例の整理、解読を行なうべく定期的に研究会（メンバー以外の研究者も含める）を開き、その研究成果として2014年2月に『中国近世の規範と秩序』を刊行した。

(2) 近代中国研究班

「20世紀前半日本の中国調査」

総　括	内山雅生*
経　済	久保　亨、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎
政　治	本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志
文化・社会	飯島　渉、佐藤仁史、浅田進史、山本　真、瀧下彩子◎

本研究は、1910年代から40年代前半に日本の諸研究調査機関が中国で実

施した調査活動に関する資料収集とその分析を行なうもので、その重点は華北におくが、地域的特質を検討するために華中南を含め、日本側および中国側の資料の活用について新たな視点から再整理をはかり、20世紀前半期の中国社会の全体像を考察する。2012年度に引き続き、「華北」認識の問題を中心テーマとする。

［研究実施概要］

a) 研究成果として『華北の発見』(東洋文庫論叢76)を刊行した。その成果の一部は、2013年度秋期東洋学講座で「戦前戦中期の調査資料から見る日本人の中国認識」として発表した。
b) 日本及び中国における資料調査・収集を引き続き行なった。
c) 『近代中国研究彙報』第36号を刊行した。
d) 次年度以降の研究体制の確立のために、旧近代中国委員会及び近中班の過去の研究活動を整理し研究会で検討した。さらに次年度以降に、華中および華南を研究対象とするため、当該地域の研究者を招聘し、研究状況を検討した。
e) 科学研究費補助金基盤研究(A)「近現代中国農村における環境ガバナンスと伝統社会に関する史的研究」グループと共催で、2013年12月に公開シンポジウム「近現代中国農村と村落檔案史料」を、2014年2月に研究会を開催した。

(3) 東北アジア研究班

①「日本所在近世朝鮮文献資料研究(2)」

総　括　　六反田豊*
吉田光男、糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、山内弘一、山内民博

当班では2004年度以来、京都大学附属図書館や天理大学附属天理図書館今西文庫をはじめ、日本国内の各機関・個人が所蔵している近世朝鮮の記録類の調査を進めてきた。本課題はそれをさらに継続し、第2次調査を行なうことにより、解題目録の完成を期す。すでに近世朝鮮の古典籍類(いわゆる「朝鮮本」)については総合的な調査が進められ、その全貌がある程度解明されて

いるが、これに対し地方官庁や民間で作成され、「成冊」などと呼ばれる帳簿類をはじめとする各種の記録類については、これまで全体的な調査がなされることがほとんどなかった。2004年度からの第1次調査では、もはや現地では所在が確認されていない資料を発見し、その内容分析を行なうなどの成果もあげており、第1次調査と今回の第2次調査によって、日本における当該資料類の悉皆的な調査の達成をめざす。

［研究実施概要］

前年度に引き続き、東京大学総合図書館、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所等において、当該機関が所蔵する近世朝鮮の記録類の調査および目録作成作業を実施した。上記調査の結果を整理し、『日本所在近世朝鮮記録類解題Ⅱ』刊行のための準備を進めた。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究(2)」

総　括　　松村　潤*
満洲語檔案　加藤直人、中見立夫、楠木賢道、細谷良夫、柳澤　明、杉山清彦

清代の第一公用語である満洲語は、清初ばかりでなく、清朝一代にわたって用いられた言語である。18世紀の乾隆帝代より、京師に暮らす旗人たちは、日常語として漢語をもちいるようになっていったが、文章用語としての満洲語は、民国にいたるまで継続して利用された。現在、北京・中国第一歴史檔案館には、約1千万件の文書資料が保存されているが、そのかなりの部分は、満洲語(または漢語とのいわゆる合璧)によって記されたものである。このことは、清代の文書伝達体系全体において、満洲語の利用が不可欠であったことを示している。とくに入関前(1644年以前)および清初の時期の文書・書籍、ならびに旗人、藩部をはじめとする辺境地方、そして対外関係等の文書において、多くの場合満洲語が用いられている。本研究は、これら満洲語で記された、または場合によっては印刷された清代の文献資料について、清初期を中心として総合的に検討を加えようとするものである。

［研究実施概要］

清初の「内国史院」関係文献と『鑲紅旗満州衙門檔案』の研究を実施した。

2012年度に出版した『内国史院檔　天聰五年Ⅱ』に続き、太宗崇徳年間分の檔案研究を行うとともに『鑲紅旗檔』研究編(TBRL: *The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko*)の編集作業を継続してすすめた。

③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析(2)」

総　括　　石橋崇雄*
岸本美緒*、C.A.ダニエルス、柳澤　明*、武内房司

中国ではこの数年にみられる内外政治・経済・民族を中心とする国家事業が急進するなか、長期間に亙って内在していた政治・経済・民族・文化問題が表面化している。チベットやウイグルをめぐる自治区の問題はその端的な事例であり、その影響は広く中央アジア・北アジア領域世界にも及んでいる。そこには、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を進展させた清朝の最大版図が直接に現代中国と繋がるなか、その一体化から生じた政治・経済・民族・文化の問題も現代中国に直結していた反映と捉えられる特徴が多々窺える。新たに用いられ始めている「中華民族」の呼称はその顕著な例として捉えうる。本研究班では、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を独自に進展させた清朝の国家領域構造と対外関係の問題を総合的に研究・分析してきた。刊行予定の英文論文集にこれまでの成果を反映させると共に、引き続き清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、清朝の国家領域構造と対外関係を分析する上で不可欠な檔案(公文書)類のうち、保存収蔵状況が未詳な檔案類を中心に体系的に蒐集、整理、デジタル化し、向後の研究に貢献することを目的とする。

［研究実施概要］

a) 前年度に引き続き、清朝政治史、清代中国社会経済史、清代中国近代政治史、清代モンゴル・露清関係史、清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、既成の領域世界・時代区分の枠を越えて海外における図書館・檔案館・研究機関などに所蔵されている檔案文献史料類の史料調査・現地調査を実施し、旧来のマイクロ=フィルム方式や新たなデジタル化方式による蒐集・整理・分析作業を行うと共に、中国で新たに影印されている大部の檔案文献史料類の蒐集を試みた。ただ、近年における日中関

係の悪化が影響し、従来進めてきた中国における資料調査ならびに現地調査の事前調整が暗礁に乗り上げた状態のままにあり、その解決方法を模索する状況におかれている。

b) 上記の文献史料類について、目録作成を進めると共に、デジタル化によって幅広い利用ができるようにするための基礎準備を行なった。同時にまたこれらの新規蒐集史料と東洋文庫収蔵の文献資料類とを活用し、研究会などの開催を通して、上記の課題に関する研究を推進し、その研究成果を個別論文・論文集・史料集などの形で公開する計画については、日中関係の悪化を背景とする諸般の事情から先送りすることとし、かわって、東洋文庫所蔵の祭祀儀礼資料類を総合分析することによって、従来みられた清朝の国家支配構造をめぐる研究アプローチとは全く異なる、デジタル手法の導入による資料検証ならびに清朝宮廷儀礼の復元作業を、新たな長期研究課題として設定し、その基礎作業の一部を公開した。

(4) 日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究(2)」

総　括	今西祐一郎*
語　学	柳田征司、石塚晴通
文　学	深沢眞二、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、杤尾　武、宮崎修多
思想・文化	斉藤真麻理、和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2006年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題(Ⅰ～Ⅴ)を公刊したことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

[研究実施概要]

2012年度刊行の『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』に引き続き、Ⅷ輯刊行の準備として、岩崎文庫の近世初期絵入り本について書誌調査を行なった。

〈内陸アジア研究部門〉

(1) 中央アジア研究班

①「サンクトペテルブルグ所蔵古文献の研究―ウイグル文を中心として―」

総　括　　梅村　坦*
ウイグル　　P.ツィーメ、橋堂晃一、小田壽典、松井　太
コータン　　熊本　裕

東洋文庫が入手したサンクトペテルブルグの東洋学研究所のマイクロフィルムのうち、ウイグル語とソグド語については『東洋文庫所蔵St.Petersburgウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録［第1稿］』として、初期の現地での実見データの一部を取り込んだフィルム番号整理一覧を、2002年に刊行した。その後、引き続きマイクロフィルムのデジタル化と整理を行なった。ほぼ完成に至った目録の改訂版を原稿とし、冊子かデジタルデータの形で編集し直して刊行することは、内外研究者の要望に沿うことになる。ただし、東洋文庫と東洋学研究所の初期の契約の制約があるため、その刊行方法については慎重に検討を行なうものとしたい。ついては、ウェブ上に未公開のものを含む大英図書館蔵のウイグル文字文献の一覧表などと合わせて刊行する可能性も検討したい。その中から、文書研究の成果についての論文をこれに付すこととする。

［研究実施概要］
昨年度に引き続き、以下の研究を実施した。

a) 上記目録改訂版の増補をベースとして文献研究を進めた。
b) 古ウイグル文を中心とする古文献の研究文献一覧を増補し、また写本断片の内容に関する補綴を進めた。
c) 漢文との合璧ないし表裏別記の文献を中心として、2-(1)-③「漢語文献」グループとの協同研究を進め、写本断片の合併に関するデータを集積した。
d) 以上をふまえて、『サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル古文献目録(増補版)』の原稿作成を進めた。

②「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと政治権力」

総　括　　小松久男*
梅村　坦*、新免　康、長縄宣博、濱田正美、濱本真美、
堀川　徹

ソ連解体(1991年)以後、中央ユーラシア近現代史研究は、大きく可能性が開かれた。これまでアクセスが不可能であった多種多様な史料が公開され、また現地の研究者との共同研究や外国人研究者による現地調査も可能になったことは、決定的な意味をもっている。こうした中で、本研究は次の2点を課題とする。

第一に、8世紀以降の中央アジア史を考えるとき、その政治と社会、文化においてイスラームが果たした役割を無視することはできないが、ソ連時代は無神論イデオロギーのためにイスラームに関わる諸問題は不当に軽視されてきた。いま新たな中央アジア史を再構成しようとするならば、この点を克服することが不可欠である。

第二に、ペレストロイカ以降、中央ユーラシア地域においてはイスラームの復興が顕著であり、イスラーム国家の樹立を目標とする急進派は、世俗主義を掲げる政権との間に鋭い緊張関係を作り出している。このような現代のイスラーム復興主義は、中央ユーラシア史の文脈においてどのように考えるべきだろうか。それには、近現代史におけるイスラームと政治権力との相互関係を実証的に検討することが不可欠である。

[研究実施概要]

a) 引き続き海外における史料収集を行なった。タシュケント(ウズベキスタン)、カザン、サンクトペテルブルク(ロシア)などの図書館や研究機関のほか、各地の民間に所蔵されている史料の収集を現地の研究者や所蔵者の協力を得て行なった。
b) a)の史料のうち、とくに定期刊行物についてはデジタル化によって幅広い利用ができるようにし、文書史料については目録作成を進めた。
c) 新規収集史料と東洋文庫の蓄積してきた豊富な文献資料とを活用し、研究会の開催などを通して、上記の課題に関する研究を推進した。たとえば、2013年10月11日にはIlya Zaytsev氏(北海道大学スラブ研究センター特任外国人教員／ロシア科学アカデミー東洋学研究所)を迎えて研究会を開

催し、"Russian" Islam in the Eighteenth Century: Historical Review on the Adoption of Islam by "Ethnic" Russians と題する報告を受けて討論を行なった。

③「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」

総　括　　土肥義和*
梅村　坦*、片山章雄、妹尾達彦*、荒川正晴、
氣賀澤保規、關尾史郎、池田　温、岡野　誠、石塚晴通*

2002年に東洋文庫が世界にさきがけて入手した東洋学研究所の内陸アジア出土文書マイクロフィルム(全363リール、約25万齣)には、4、5世紀から15世紀に及ぶコータン・サカ語、西夏語、チベット語、ウイグル・ソグド語、漢語、チャガタイ・トルコ語、サンスクリット語、アラビア語、ペルシア語、満洲語、モンゴル語の11言語の文書が含まれている。このフィルム資料の目録をデータベース化してそれを公開することは、わが国だけでなく、諸外国の研究機関・研究者の希求するところ切なるものがある。

本研究は、上記フィルムの中からとくに漢語文献を抽出してそのフィルム目録のデータ化を図るとともに内陸アジア出土漢語文献の特性を明らかにすることを目的とする。

［研究実施概要］

a) 敦煌出土文献Reels256～363のうち、漢語文献のある40リール(266～277、279～286、292、334～337、349～363)についてリールに付された各文献整理番号とその齣数とを対照させた仮目録を作成し、文庫の閲覧に供するべく各文書に付された文献番号の「索引」作りを進めた。

b) 上記文献中、『俄蔵敦煌文献』(上海古籍出版社、1993)で未収録とされる漢語文献約700件について、前年度に引き続き内容を検討した。その中の20件については録文を作成し出典を確定することができた。

c) サンクトペテルブルク所蔵ウイグル・ソグド文字文献全31リールのうち、21リールに含まれる漢語文献約1100件余りについて、文献番号とそのmicrofilm齣数とを対照した「仮目録」を作成するとともに、できる限りその録文と出典を示した目録の作成に着手した。

d) 本研究班における研究成果として、2014年度には『敦煌・吐魯番出土漢語文献の様式・特性の研究』(仮)の出版を計画している。そのために、前年度に引き続き定期的に「内陸アジア出土古文献研究会」を行なうとともに、「8〜11世紀内陸アジア出土漢語文書輪読会」を開催した。

(2) チベット研究班

「チベット蔵外文献の書誌的研究(2)」

総　括	吉水千鶴子*
仏教思想	川﨑信定
敦煌文献	武内紹人
ポン教	御牧克己
宗義文献	松濤誠達
歴　史	山口瑞鳳
密教図像	立川武蔵
言　語	星　　泉

チベット研究班においては、新たに発見された写本を中心とするチベット語資料を収集・保管し、歴史・文化・宗教の各分野にわたるチベット語文献の体系的網羅的なコレクションの充実をはかることを目的とする。収集した資料については目録化を行ない、データベースとして公開すると同時に、敦煌チベット語文献、河口慧海将来文献などとともに東洋文庫所蔵チベット語蔵外文献として写本校訂と訳注研究を行ない、データベースあるいはシリーズ刊行物として公開する。以上の3点により、世界的なチベット学の研究拠点として高い貢献を目指すものである。

[研究実施概要]

a) 資料収集：近年中国で新たに発見された10〜13世紀のチベット語写本の影印版の収集、チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を購入し、コレクションの体系的な充実をはかった。

b) a)によって収集した資料の分析と目録作成を行なった。

c) チベット人研究協力者の協力のもとに、次の研究を行なった。

① 筆記体写本の校訂：古いチベット語写本の多くは手書きの筆記体で書

かれており、一般研究者には解読が難しいものがある。それらをチベット人協力者の指導を得て校訂し、活字体テキストデータベースを作成した。

② ①のデータベースをもとに文献の分析・研究を進めた。

d)『西蔵仏教宗義研究 第10巻　トゥカン「一切宗義」ボン教の章』を刊行した。

〈インド・東南アジア研究部門〉

(1) インド研究班

「インド刻文史料の蒐集と研究」

総　括	辛島　昇*
	小名康之
ウルドゥー	萩田　博
ドラヴィダ	太田信宏、水野善文、石川　寛
アーリヤ	三田昌彦

インド(南アジア)の刻文研究は、これまでわが国でごく僅かな研究者しかいなかったが、近年、ドラヴィダ系言語について石川寛、太田信宏、アーリヤ系言語について三田昌彦、古井龍介といった若手研究者が育ってきた。刻文は、「史書なきインド」の古代・中世史研究においての根本史料であるにもかかわらず、そのようなこれまでの状況から、わが国においては、テキストおよび研究書の蒐集が充分とは言えない。

他方、インド自体での刻文研究は、テキストの出版が遅れていることと、若手研究者が育たないことによって、危機的な状況にあるとさえ言いうる。また、世界的にも、インド刻文の研究者数は、極めて少ない。

そのような状況に鑑み、わが国の研究機関において、未出版のものをも含めてインドの刻文史料を蒐集し、それを国際的に公開しながら、わが国の新しい研究者の力を結集して、インド古代史・中世史の研究進展を図ることは、わが国のインド研究に課せられた急務と言えよう。

［研究実施概要］

a) 東洋文庫に所蔵のない刻文資料、とくに、インド独立後の各州政府考古学局刊行の資料を購入し、未出版の刻文テキストは、マイソールのインド考古学局刻文部でコピーして蒐集する計画を立てていたが、2013年度は、年度末に東南アジア研究班と共同で、国際シンポジウムを行なうことになったので、インドでの蒐集活動は行なわず、その準備に集中した。

b) 上記国際シンポジウム"State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia"（The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks）については準備を周到に進め、2014年3月8日(土)・9日(日)に開催した。インド人研究者他6名の外国人研究者に参加してもらい、活発な議論を行なった。総括の辛島はコーディネーターを務め、研究員もそれぞれに基調報告やセッションの司会を務め、大変有意義なシンポジウムを行なうことが出来た。

c) 上記シンポジウムの報告集と *Report on Indian Epigraphical Studies: The Toyo Bunko* の刊行に関し、2014年度にむけて準備を進めた。

(2) 東南アジア研究班

「近現代東南アジアに関する史料研究」

総　括　　弘末雅士*
嶋尾　稔、北川香子、坪井祐司、島田竜登、東條哲郎、山口元樹、牧野元紀◎

近代日本と東南アジアは、明治期の後半から緊密な関係を有し始め、第二次世界大戦期に日本は東南アジアを軍事占領した。また戦後日本は、東南アジアと緊密な経済関係を形成するに至っている。こうしたなかで日本の東南アジア研究も、この40年間に飛躍的な研究の発展をとげた。ただし日本の東南アジア研究は、第二次世界大戦後にいきなり始まったわけではない。すでに大正期より東洋史の東西交渉史の一分野として南洋史が注目を浴び、また南洋ブームの高まりとともに経済関係の文献も出版されていた。そして第二次世界大戦期には、翻訳本も含め多数の東南アジア関係の文献が出版された。これらの文献は、一部の実証研究を除いて、学術的にあまり注目を浴びてこなかった。しかしそれらは、日本の東南アジア観を検討するためのみな

らず、東南アジア社会を考察する上においても、重要な資料となりうる。本研究は、従来力点が置かれた日本の東南アジア関与という観点からのみならず、当時の東南アジアの社会統合に果した日本人の役割の視点からその記述を検討し、日本人をはじめ中国人やインド人さらにはアラブ人や欧米人など多様な人々が居住した近代東南アジア社会の特質について研究する。

［研究実施概要］

a）近代東南アジアの都市の社会統合に果たす日本人の役割に関する文献資料の収集と整理を行なった。合わせて、第二次世界大戦後に出版された戦前・戦中期の日本の東南アジア関係の文献の目録作成作業を進めた。

b）オランダで史料調査を行い、植民地期インドネシアの主要都市における日本人を含む外来系住民の社会統合に果たす役割を検討した。

c）インド研究班と合同で、"State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia"（The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks）を開催し、国内外の研究者との交流を推進した。

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究(2)」

総　括　　三浦　徹*
トルコ　　永田雄三、磯貝健一、林佳世子
契約観念　　後藤　明
トルコ・ペルシア
　　清水宏祐、堀川　徹*、守川知子、矢島洋一
アラブ　　佐藤健太郎、高野太輔、原山隆広◎

ワクフ(宗教的寄進)は、都市や農村の宗教施設を建設するだけでなく、経済基盤となり、政治権力者、名士、民衆の結びつきをつくった。ワクフに関わる、法学書、年代記、地理書などの叙述史料とワクフ寄進文書や調査台帳などの文書史料を収集し、諸地域における実態と歴史的変容を解明する。

［研究実施概要］

a) 第一期からの継続課題であるヴェラム文書(モロッコの皮紙契約文書、東洋文庫所蔵)について、文書解読のための研究会を月例で開催し、文書のアラビア語テキストの校訂を行ない、モロッコやライデン大学(オランダ)において関連資料の収集や調査を行なった。

b) ワクフ文書の総合的研究にむけ、国内外で研究会を開催し、研究者ネットワークを築いた。

c) 『イマーム・レザー廟ワクフ文書集』(TBRL、ペルシア語)の校訂と研究を進めた。

C. 資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班

「東アジア資料の研究」

総　括	斯波義信◎*
総括補助者	田仲一成◎*
日　本	浅野秀剛、片桐一男、延廣眞治、吉田伸之
中　国	丘山　新、小川裕充、佐藤慎一、鈴木博之、戸倉英美、濱下武志◎*、矢吹　晋*、平勢隆郎、片山　剛、尾崎文昭
朝　鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情　報	廣瀬紳一

中国、台湾、香港、東南アジア華人社会などに所蔵される文献資料の探索、各国図書館との国際的情報交換・資料交換・人的交流を目指す。

［研究実施概要］

a)「中國祭祀演劇関係写真資料データベース」を作成し東洋文庫ホームページにおいて公開した。

b）台湾中央研究院、上海図書館、中国社会科学院図書館等との研究交流と資料交換を推進した。

D. 地域研究プログラム

(1) イスラーム地域研究資料室

「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

室　長　　三浦　徹*
堀川　徹*、近藤信彰、大河原知樹*、磯貝健一*、
秋葉　淳*、柳谷あゆみ、原山隆広◎*、徳原靖浩

本研究では、イスラーム地域の現地語史資料について、書誌情報や文献情報の体系化を進めることによって研究の基盤を作り、同時に史資料の体系的な収集や利用のための環境を構築する。史料群を地域社会全体を表す縮図と捉え、これを体系的・俯瞰的に研究することによってイスラーム地域の重層的な像を解明することを目的とする。

[研究実施概要]

a）現地の出版状況や、現地及び海外の研究動向を踏まえ、現地語史資料および欧文研究書等の収集と整理を行った。「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」は、データの更新と検索語の表記ゆれに対応するシステム改修を行ない、登載文献数は5万件を超えた。本拠点が第一期から蓄積した史資料収集と文献情報システムに関わるノウハウを、拠点関係者の共同執筆により一般向けに書き下ろした『イスラームを学ぶ：史資料と検索法』(「イスラームを知る」シリーズ)を刊行したことは今年度の大きな成果といえる。目録作成のノウハウの蓄積や、文献情報の発信の取り組みの成果として、PCN2013NIHU企画セッションにて発表を行ない、毎年恒例のアラビア文字資料司書連絡会では、資料整理のノウハウの共有だけでなく、大学・研究機関間でのリソースの共有といった課題が提出され、東洋文庫拠点が更なる役割を果たすことが期待されている。拠点ホームページのリニューアルにより、研究成果や研究動向をより迅速かつ容易に発信できるようにした。学生と直に接して文献の

検索方法や文献リストの作成方法を教える情報リテラシーセミナー(通算3回目)を開催し、研究の基礎となる文献検索スキルの向上を図った。

b) 史料研究では、昨年度に引き続きオスマン民法典の翻訳を目的とした「シャリーアと近代」研究会を計4回行ない、多分野の研究者や法実務家の共同作業によって「賃約の書」の最後(611条)までの訳文を完成させた。同じく多分野の参加者からなるオスマン史研究会、近代中央ユーラシア比較法制度史研究会、中央アジア古文書セミナー、オスマン文書セミナーも開催した。これらのセミナーは学生が普段触れることのできない文書史料の読み方を学べる貴重な機会として定着し、学部生の参加も増え、史資料研究の裾野の広がりが見られる。本年度より「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」研究会との連携も行ない、扱う史資料もより多彩になっている。さらに、ラホール国際会議でのセッションに加え、国際セミナー「ワクフとイスラーム経済」の開催、北米中東学会のラウンドテーブルの共催など、国際的な史資料のネットワーク形成にも努めた。

(2) 現代中国研究資料室

「日本における現代中国資料の情報・研究センターの構築：
資料の長期的系統的分析による現代中国変容の解明」

室　長　　土田哲夫*
高田幸男*、内田知行、大澤　肇*、貴志俊彦*、
久保　亨*、小浜正子*、田中　仁、中村元哉、
内山雅生*、瀧下彩子◎*、相原佳之

中国研究に関するウェブやデータベースに関する情報を交換し、研究者の知見を広めるために、国内外の研究者・実務家を招いての国際シンポジウム及び小規模なワークショップを開催する。また東洋文庫所蔵及び新規収集の一次資料に基づいた共同研究会を継続して開催し、資料の読解能力を高め、若手研究者の養成をはかる(年数回)。また、データベースや文献資料以外に、現代史研究に必要な資料の史料学的研究を進めるセミナーなどを開催する。

[研究実施概要]

a) 資料利用環境の整備および国内外諸機関との連携については、国立情報学研究所との連携によりNACSIS-CATへの書誌登録を継続して行なった。本年度中に約5,400タイトルの東洋文庫近代中国研究委員会(現・近代中国研究班)収集資料が登録され、登録タイトル数は49,000件あまりとなった。

b) 電子図書館についても、引き続き拡充に努めた。画像をインターネットで完全公開している資料は489タイトルに増加した。また目次から検索できるシステムの整備など、利用環境の向上を継続した。

c) 資料研究活動については、5つの研究班のもとで活発に行なった。研究班体制の二年度目として、初年度の実績をもとに、他機関・他大学との共催も含めて計25回の研究会・シンポジウムを開催した(江南地域社会班5回、図画像資料班5回、ジェンダー資料班8回、政治史資料班3回、1950年代史料班4回)。

d) 活動の成果として、近代中国の知識人が残した手書き日記の一部を活字化し注釈をつけた「王清穆『農隠廬日記』(3)」を『近代中国研究彙報』に公表した。また「柏原英一(1914～2009)写真帳」、「『亜東印画輯』データベース」の二つの画像データベースを公開した。さらに、来年度以降に向け、英文著作の翻訳出版、基本史料の解題出版、大学における講座の開催、データベースの拡充などの形態で成果を公表する準備作業を行なった。東洋文庫研究部との協同で行なっている所蔵資料「汪政権駐日大使館文書」の目録作成事業も継続し、出版を見据えた活動を開始した。

e) 2012年度に導入した『申報』データベースを東洋文庫の閲覧室にて一般の利用者が利用できる体制を整えた。

E. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

(1) 研究成果公開促進費(データベース等)

①「東洋学多言語貴重資料のマルティメディア情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

本プロジェクトは、東洋文庫が90年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数500,000件、冊数1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌デー

タのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルティメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは1994年度に入力を開始して以来、約19年を経て、647,000件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降は、デジタル撮影の手法によるマルティメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行なってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを超える貴重書フィルム(35mm)を所蔵している。これをスキャナーにより画像にとりこみ、全頁データーベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関するVideo資料を動画データベースとして公開する計画も一部実行して来ている。これらの努力の結果、2002年度において毎月2000件であったアクセス数は、2013年3月末の段階で、当初の120倍、240,000件に到達した。今後は、書誌データについては、分類による検索を付加して、利用者の検索を容易にし、画像データについては、引き続きデジタル撮影を継続して、その量的拡大とメタデータの充実をはかる。また、動画については、この3年間に400分(5時間)を公開したが、一層の充実を目指す。

[研究実施概要]

a) 画像データ

・地図(中国帝国図、江戸内府図など)	294点
・風景、浮世絵・美人画・奈良絵本・挿絵など	176点
・モリソン文庫(香港銅版画・水彩画など)	392点
・梅原末治考古資料画像データベース	15,343点
・中国祭祀演芸関係者写真資料データベース	28,692点

b) 全頁データ

・岩崎文庫(総合、古籍善本)	100点
・洋古書(宣教師文書、旅行記)、モリソンパンフレット	569点

c) 動画データ

・香港の祭祀と演劇(概観)

・香港広東正一派道士の儀礼

・中国(江西)の儺舞・儺戯
・目連戯

②「宋代中国の統治と文書」
［研究代表者：小林隆道(日本学術振興会特別研究員PD)］

ユーラシア大陸の両端において、王朝(国家)の統合と分裂の周期はある時期までほぼ同じであった。しかし、ある時期を境に大陸西端のヨーロッパは分裂のまま各国の勢力均衡へ向い、一方東端に位置する中国では前代の王朝の領域を受け継ぎ統一王朝が連続するようになる。本刊行物は、この中国側における現象の画期が10～13世紀の宋・金代にあると認識し、当該時期の中国の統治の特質を明らかにすることを目的とする。

宋代、士人たちは統治の理念と現実の双方に立ち統治を遂行した。官文書は、その様式に統治理念に従った制度設計が表現され、一方で統治現場で実際に運用される。そのため官文書は当時の統治の特質を体現する。中国統治という大きな問題を扱う本刊行物が、各章で主に官文書を巡る細かな具体事例を考察するのはそのためである。

また、理念的な制度設計と実際の制度運用との間に生じる際を析出し新たな知見を提示する。血液が人体の各組織を巡り物質をやり取りしてして生命を維持するように、文書は統治制度の「循環器系」として各官司間或いは民間施設との間を巡り必要な情報を受け渡しする。この視点により北京大学鄧小南教授が提唱する「活きた」制度史を描く。人が制度を動かす実際の統治現場となる文書行政を考察することで統治の特質が明らかとなるだろう。

［研究実施概要］
『宋代中国の統治と文書』1冊　汲古書院刊

(2) 基盤研究B

①「1910～1930年代における日本の中国認識―華北地域を中心に」
［研究代表者：本庄比佐子］(2009年度採用、5ヶ年間・最終年度)

1910～30年代に日本の各種研究調査機関が中国華北地域で実施した調査活動とその内容に関する資料、及び同時期の中国側資料や近年の研究成果な

どを比較検討することを通して、当該時期における華北地域の政治・経済・社会文化、そして日中関係の特質を歴史的・総合的に考察することを目的とする。

a) 我々がこれまでに行なった興亜院や青島守備軍の調査活動に関する研究成果を基礎に、満鉄北支経済調査所・東亜研究所などによる調査も含め、日本による華北調査の全体像を明らかにする。

b) 天津など沿海部中心に経済発展をみた近代華北に対し、1910年代以降日本は経済進出、30年代には侵略戦争で独自の体制を展開させたが、この華北地域の変化の過程及び地域概念の種々相を明らかにする。

［研究実施概要］

戦前戦中期における中国進出・侵略の過程で日本人が認識した華北の地域概念とその実態に関して、以下の各研究を行なった。

・日本の華北地域概念：特徴とその質的変遷、「外地」の日本人社会における華北認識、戦前期日本人研究者の華北概念

・華北農村の分析：村落祭祀を通じて見た華北農村、戦前期華北の農産物生産状況調査、現代華北農村部と都市・交通システム

・中国とドイツの華北地域概念：「西北」概念の歴史的変遷、ドイツの山東支配と華北概念

以上を通じて、近代の日中関係史において「華北」に対する認識は、地理的空間についても政治・経済・社会などの諸側面から捉えた地域概念においても固定的でなかったことを明らかにし得たと考える。

②「「モノ」の世界から見た中世イスラームの女性
～ガラス器と陶器を中心に～」

［研究代表者：真道洋子］(2011年度採用、4ヶ年間・第3年度)

考古学、美術史、建築史、文献史学の観点から「モノ」を対象として、物質文化史から垣間見られる中世イスラームの女性の生活についてアプローチすることを目的としている。物質資料から女性そのものを明らかとすることはなかなか困難な作業であるが、この研究では、当時の女性論やジェンダー論を論じるのではなく、女性の周囲に存在していたと想定される生活用品などから多角的に文化をとらえ、生活文化の復元を目指している。既定の学問領域の枠を超え、女性を中心にその時代に生きた生の人間像を意識して、中

世イスラーム時代の生活文化の諸相を解明しようとする新たな試みを提示したい。

［研究実施概要］

本年度は、現地調査として、連携研究者の深見奈緒子氏と研究協力者の宍戸克己氏とともに、トルコにおける建築および考古学、美術史的な観点を中心に現地調査を実施した。エディルネ、イスタンブル、ブルサ、アフヨン、コンヤ、カイセリ、アダナ、ガジアンテプ、ディアクバルなどを調査し、諸都市のモスクやメドレセなどの建築物や各地の考古学博物館などの諸博物館の収蔵品調査を実施した。さらに、セルジューク朝の宮殿址クダナバードおよびシリア国境近くのハランの都市の考古学的遺跡の踏査も行なった。

海外での資料調査としては、フランスにおいて二度にわたり、ルーヴル美術館をはじめとするイスラーム関連の資料調査および地中海地域の窓口であるマルセイユの港の調査を実施した。また、研究協力者の藤井慈子氏とともにルーブル美術館考古学者のRocco Rante氏と翌年度のウズベキスタンのブハラ近郊のイスラーム時代の遺跡の発掘調査に関する打ち合わせを行なった。この結果、出土ガラスを担当することとなった。

ガラスの復元研究に関連して、ベルギーのベルゼケ考古学博物館で開催された古代ガラス製造復元のイベントにも参加し、現在テーマとしているクフル用のガラス容器復元の打ち合わせを行なった。この復元には、ガラス作家の石田氏の協力を得て化粧用のガラス小瓶の復元研究および製作を進めてもらっており、特に小瓶へのカット装飾技法の研究が進展している。

国内では、5回の定例研究会と共催で2回のシンポジウムを実施した。広く他の研究者たちにも参加を呼び掛け、多角的で学際的な視点や研究手法からこの課題としている生活文化へのアプローチを行なった。今年度の研究成果は個人が論文や研究発表の形で行なっている。

③「イスラーム法の近代的変容に関する基礎研究：
オスマン民法典の総合的研究」
［研究代表者：大河原知樹］(2011年度採用、3ヶ年間・最終年度)

本研究の目的は、19世紀半ばにオスマン帝国によって編纂されたメジェッレ法典(Mecelle-i Ahkam-i ‘Adliye)の内容、性質および位置づけの再考を通じた、中東における近代の法制度改革と現代の法制度への影響の批判的検証

である。

本研究は、メジェッレ法典の総合的研究であり、そのためにまず法典の訳文を確定することを最大の目標とする。そのために、なるべく多くの研究会を開催し、条文ごとに訳語を確定する。最終的に公開できる段階まで達した条文には詳細な訳注を付して、刊行その他の手段によって公開する。当該分野や関連分野の研究者がこの研究成果を利用して、さらに当該分野の研究を発展させることが可能となる。

［研究実施概要］

本年度は、メジェッレ法典の第2篇「賃約」の残る条文部分の検討を引き続き進めた。定例の研究会を3回(4～6月)行ったほか、7月末に高知において研究会を実施し、これまでの懸案も含めて、賃約の最後まで訳文の検討を終えた。なお、高知の研究会では、メジェッレ法典のイスラーム世界における継受の事例として、マレーシアのジョホール王国のマジャラ・アフキャム・ジョホールに関する研究会も実施し、その比較法的、歴史的位置づけに関して討議を行なった。

10月以降、3月までの期間、大河原(研究代表者)がトルコの宗教財団イスラーム研究所、首相府オスマン文書局、イスタンブル・ムフティー局等において海外調査を実施し、メジェッレ法典に関する史資料や研究文献の閲覧収集に努めた。特に、メジェッレ法典のオスマン・トルコ語原本とされる貴重な手稿本をはじめ、多くの刊本や写本を複写することができた。これらの史資料は、今後、メジェッレ法典の研究を進めていくうえで、必要不可欠である。

また、大河原は、本研究とりまとめの一環として、ラホール(パキスタン)で行われた国際会議でメジェッレ法典に関する研究発表を行ない、日本におけるイスラーム法研究の実態を広く国際学会に向けて発信し、専門家との交流を実施した。

分担者および連携研究者との間で、最終的な訳文の確定に向けた話し合いを、主にメール等を通じて行なった。完成した訳文は、ウェブで公開することを予定している。

④「ワクフ(イスラーム寄進制度)の国際共同比較研究」

［研究代表者：三浦　徹］(2013年度採用、5ヶ年間・初年度)

本研究は、フランス国立科学研究院(CNRS)国際共同研究「ワクフ」(2011-15年、研究代表者Randi Deguilhemエクサンプロヴァンス・地中海人文科学研究所教授)と連携し、イスラーム地域(中東・中央アジア)において、ワクフ(イスラーム寄進制度)によって形成される社会経済関係を分析し、寄進財に関わる国家、集団、個人の3者の社会関係を明らかにする。CNRSの国際共同研究にはアラブ諸国を中心に10機関が連携し、東洋文庫研究部を中心に、トルコ・イラン・中央アジアの研究者、さらにヨーロッパ・中国・日本の寄進制度の研究者を組織した本研究計画を実施することによって、国際的なワクフ・寄進制度の社会機能に関する比較研究を行ない、宗教と経済が結びついた社会のあり方を分析する。

[研究実施概要]

本研究は、ワクフについて、国際的な連携(ネットワーク)によって協働してして行われる比較研究であり、①国内研究会と②国際研究集会(ワークショップ、シンポジウム)への参加・開催③海外史料調査を柱とする。②は、CNRS(フランス)国際ワクフ共同研究プログラムによって毎年開催される国際研究集会や他の国際研究集会に参加し、その成果を共有する。

2013年度は、①国内研究会として、ワクフおよびイスラーム金融の研究者であるMurat Cizakca教授(Global University Islamic Finance, マレーシア)を招聘し、International Seminar: Waqf and Islamic Economy(2014年2月8日、東洋文庫)を開催した。ディスカッサントとして、松原健太郎東京大学教授(中国法)を迎え、比較の観点から寄進と経済のあり方を検討した。②国際研究集会として、フランス・エクサンプロヴァンスでの国際ワークショップFrom Pratice to Norm- From Norm to Practice: Administering Waqf and Other Foundations(ワクフの経営と法制度、2013年7月6～7日、フランスCNRS国際共同研究プログラム主催)へ三浦徹、大河原和樹が参加し、研究発表を行い、研究動向の調査を行なった。

北米中東学会でのラウンドテーブルThe Need to Compare: Going beyond the Area Studies Approach for "Thinking Waqf"(寄進の比較史、10月11日)を、CNRS国際共同研究プログラムと共催によって開催し、三浦徹がヨーロッパ・中国・日本の寄進制度とワクフとの比較の視点から問題提起を行ない、ヨーロッパ中近世(J-P. Dedieu教授)、マレーシア(Tunku Alina Alias研究員)の発表とあわせ、総合討論を行なった。

⑤「江戸時代知識人の清朝史研究と近代日本における東洋史学」
［研究代表者：楠木賢道］(2011年度採用、4ヶ年間・第3年度)

本研究は、18世紀初めの荻生北渓・深見有隣、及び19世紀初めの志筑忠雄・馬場為八郎らをはじめとする江戸時代知識人の清朝史に関する研究の視角・成果・水準を明らかにし、それらがどのように内藤湖南をはじめとする日本の近代東洋史学者に影響を与えたか、そしてそれらがどのように満洲国期に変容していったのかを検討し、江戸時代以来の日本の清朝史研究の歴史を明らかにせんと試みるものである。本年度は、昨年度に引き続き、文化文政期から幕末期の日本の知識人たちを取り扱うとともに、近代東洋史学に与えた影響の見通しを立てる。あわせて、弘前藩で執り行われた「秋審」を例にとりながら、江戸時代の明律・清律研究が、各藩・幕府の法運用に影響を与えたか、不作に対する禁忌として「秋審」が運用されたのかを、明らかにする。

［研究実施概要］
本研究は、江戸時代の知識人による清朝史に関する研究を明らかにし、それが日本の近代東洋史学にどのような影響を与えたかを検討し、江戸時代以来の日本の清朝史研究の歴史を明らかにしようと試みるものである。
楠木は、まず秀吉の朝鮮出兵にまでさかのぼり、加藤清正らが、鴨緑江・豆満江北方の初期ヌルハチ政権の社会をどう見ていたかを、日本側の先行研究から整理した。また続くホンタイジの時代は、日本ではいわゆる「鎖国」が完成する時代にあたるが、ホンタイジは、屈服させた朝鮮王朝を介して、江戸幕府の使節を都、瀋陽まで連れてくるように要求したこと、その目的が、中華世界の実現ではなく、明朝と敵対する清朝が、日本を味方にする、少なくとも明朝の同盟勢力とならないようにするため、善隣外交を行なうことにあったことを、清朝側の史料を中心に明らかにした。さらに康熙帝の時代の満洲語文書史料『黒竜江将軍衙門衙門檔案』等を資料として、清朝を、満洲族、モンゴル族、チベット族、漢族が満洲人皇帝を戴く同君連合国家と考えることが妥当であること、そのことを康熙帝自身が意識していたことを明らかにした。また、康熙帝に仕えていたイエズス会士も同様の認識を持っていたことを、ジェルビオンの日記を英語版から読み進め、確認した。さらに、清朝に渡航したこともない荻生北渓(八代将軍徳川吉宗のブレイン)が、長崎貿易を通じて輸入された清朝の法制史史料の分析を通して、清朝を中華世界としては認識せず、同様に同君連合国家であるという理解に到達していたこ

とを明らかにした。

浪川は、弘前藩の文書史料の分析を通して、清朝の法運用の慣習である「秋審」を弘前藩が取り入れていたことを明らかにした。また清朝と江戸幕府の間に置かれていた琉球を江戸の知識人がどうとらえていたかの比較座標とするため、奄美の人々が首里をどう見ていたか、離島をどう見ていたか、初歩的な調査を行なった。

(3) 若手研究Ｂ

①「ジャウィ史料の利用によるマレー民族の形成過程の研究」
［研究代表者：坪井祐司］(2012 年度採用、4 ヶ年間・第 2 年度)

『カラム』を中心としたジャウィ(アラビア文字表記のマレー語)の定期刊行物の分析を通じて、脱植民地化期の島嶼部東南アジアにおけるマレー人という民族集団の形成過程を再検討する。1950、60 年代のシンガポールにおいてアラブ系の編集者により発行された月刊誌『カラム』(京都大学所蔵)の分析に加えて、海外におけるジャウィ定期刊行物の収集、分析により、マレー民族の形成に外来者が果たした役割を再検討する。これにより、マレーシア(マラヤ)のナショナル・ヒストリーの枠内で単線的にとらえられてきた従来のマレー民族概念を相対化し、その形成過程を島嶼部東南アジアの脱植民地化における多様な勢力の競合の結果として動態的に描くことを目指す。

［研究実施概要］

ジャウィの雑誌『カラム』に関する共同研究「脱植民地期化の東南アジアにおけるマレー・ムスリムの自画像と他者像」(京都大学地域研究統合情報センター)を組織した。その活動において、『カラム』のデジタル・アーカイブの試作版を公開した。2013 年 9 月にはマレーシアの出版社との提携により電子出版事業を立ち上げ、同誌の 51 タイトルの記事を復刻した。事業の発足に際してマレーシアで行なわれた国際会議では、『カラム』の位置づけに関する報告を行った。そして、マレーシアにおいて新たに発刊されたジャウィに関する学術雑誌(“Dari Warisan ko Wawasan”)に 1950 年のシンガポールのムスリム蜂起を扱った論文を寄稿した。また、同年 12 月のシンポジウム「イスラームと多元文化主義」において、『カラム』のデータベース化とそれを利用した研究に関するセッションを組織した。筆者は、イスラム教と政治の

かかわりをめぐり、『カラム』が多くのイスラム諸国の例を参照していたことを論じた。2014年3月には論集『『カラム』の時代V』を発行し、筆者は『カラム』が掲載した写真をもとに当時のマレー・ムスリムの世界観を分析した論文を執筆した。

同時に、1930年代に発行されたジャウィの新聞『マジュリス』の収集・分析を進めた。2013年7月に日本マレーシア学会関東地区研究会にて、マレー民族を論じた同紙の初期の記事を分析する予備的な報告を行なった。8月にはシンガポールに出張し、追加的な史料収集を行なった。収集した史料については、委託によるジャウィからローマ字への翻字を行なった。

その他の活動として、マラヤにおけるイギリスの植民地統治がもつ時代性及び近代性を論じた1編の論文(『マレーシア研究』)および2件の講演・報告(2013年6月の東洋文庫における招待講演、同年11月のオランダにおけるアジア研究に関する国際会議)がある。

②「衛星写真とスタイン・ヘディン地図を用いた探検隊調査地の解明に関する基礎的研究」

[研究代表者：西村陽子](2010年度採用、4ヶ年間・最終年度)

本研究は、20世紀初頭のシルクロード地域を探検したスタインやヘディンの古地図をデジタル化して解析することで、所在地が不明となっている探検隊の調査対象地点を系統的に解明することを目的とする。スタインらの地図には、作成技術上の制約から地域ごとに異なる誤差が存在する。そこで本計画では特に(1) スタイン地図上の誤差の発生状況を解明する。(2) (1)で判明した地図の誤差情報を用いて地図上に描かれた遺跡の近傍点の誤差を算出し、これによって遺跡の現在位置を推定する。次に現地文物局の研究者と協力し、Steinらが残した遺跡の写真・平面図と現況の照合を行なう。これを繰り返すことで20世紀初頭のシルクロード探険隊調査地の全貌解明を目指す。

[研究実施概要]

2013年度は、ヨーロッパや中国の研究者との相互連絡を緊密にし、今後の発展に向けた研究体制の構築に取り組んだ。

本研究では、これまで地理情報と遺跡同定を重視してきたが、データベースの本格的な構築が始まるにつれて、少人数だけでの研究だけでなく、シル

クロードに関するさまざまな専門家が参加しやすい研究体制が必要であることが明らかになってきた。そのため、特にヨーロッパ方面の学界に積極的に参加し、かつてのシルクロード探険隊を送り出した機関やシルクロード探険隊の将来品を所蔵・研究する機関と連絡をとりあい、これまでの成果を広めるとともに、今後のための共同研究計画を立てた。具体的には、ドイツが派遣した第一次・第二次ドイツ・トルファン探検隊が収集したウイグル語やソグド語の文書史料を所蔵・研究するBerlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Turfanforschungにおいて講演を行ない、これまでの成果をヨーロッパの学界に知らせるとともに、今後の研究の進め方について討論した。またドイツ・トルファン探検隊のグリューンウェーデルが所属していたMuseum fur Asiatische Kunstを訪問し、ドイツ隊が収集した写真や遺物の調査を行い、今後の共同研究計画を話し合った。また、西北科学考察団(Sino-Swedish-Expedition) に参加した黄文弼が撮影した古写真や日本の大谷探検隊が撮影した古写真についても調査を進めた。

この他、HedinのCentral Asia MapsおよびKarte von Ost Persienの位置合わせを行ない、KMLファイルを公開して今後の研究の展開に備えた。

(4) 研究活動スタート支援

③「隋唐洛陽城の水環境からみた穀倉と漕運の発展について」
［研究代表者：宇都宮美生］(2012年度採用、2ヶ年間・最終年度)

漕運と穀倉はそれぞれが大きなテーマであるため従来別々に研究されてきたが、漕運の発展は穀倉の発展に直接結びつくことになるため、本来同時に統合的に研究すべき課題である。本研究では両者を共に論じ、運送と保管のシステムをより詳細に解明して都城への経済的影響あるいは貢献を明らかにする。

(1) 文献史料記載の3倉の規模、設置場所、設置時期などの比較から、共通点や相違点を把握することで各倉の特徴を明らかにし、それにより史料に記載がなく設置時期や設置利用が不明の含嘉倉を考察して、同倉の情況を明確にする。さらに、洛陽城や河川との位置関係および4倉相互の位置関係を考え、食糧の保管の移動ルートや保管量の相違の理由なども明らかにする。

(2) 漕運ルート、形態、洛陽城内での運搬方法などの古代漕運の仕組みはい

まだ研究されておらず、穀倉と漕運の関係も未解明である。本研究では、江南からの食糧が穀倉に運搬されることから、揚州から洛陽までの漕運ルート全行程を明らかにし、未調査の洛陽城内の漕運ルート(旧運河)の復元を試みる。

[研究実施概要]

今年度は漕運を中心に研究し、江南地域から黄河までの旧運河の調査を行なうことで、洛陽の穀倉へ運搬するために利用された漕運の実態を考察、分析した。特に、漕運の発展は穀倉の発展に直接結びつくことになるため、前年度の倉の研究成果を踏まえ、運送と保管のシステムをより具体的に解明して都城への経済的影響あるいは貢献について考察した。まず、古地図や衛星写真の収集と分析、考古調査結果を踏まえて運河跡をめぐり、場所の比定および現在の地形との比較を試みた。汴河の終点である開封から出発し、その河道跡と思われる場所に沿って南下し、清代に黄河が流入して形成された洪沢湖の周辺と、淮河から揚州にいたるルート上に点在する運河遺跡と古城を調査して古代の運河の状況を把握した。この旧運河の幅や深さ、開鑿された場所の環境、発見された沈没船のサイズを把握することで、未調査の洛陽城内の漕運ルートを復元する参考資料とし、洛陽市東部の旧運河の位置を比定し、揚州から洛陽までのルートを再構築した。また、東アジア比較都城史研究会主催の調査旅行に参加し、現地情報だけでなく、日本史、考古学、朝鮮史および都城史の専門家の意見を得て、本研究の考察の参考とした。さらに、同地域の運河での貿易の数値データを用いてGIS地図を作成し、江南地域の運河の形態と発展過程についてより深く考える機会を得て、学会で発表した。洛陽地域の倉の設置場所が、単に水路に近いというだけでなく、地形や河川の性質などさまざまな地理的条件における共通点と相違点などを理解した。これらの成果は個人のウェブサイトを作成して、情報を開示している。

F. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷　佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原　佳之	中国明清時代環境史
青木　　敦	宋代の法と経済
青山　瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉　　淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田　進史	独中関係史
浅野　秀剛	日本版画美術の研究
天児　　慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井　政美	トルコ近代史
荒川　正晴	中央アジア古代史
飯尾　秀幸	中国古代国家史
飯島　明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島　武次	殷周時代の考古学研究
飯島　　渉	医療社会史
池田　　温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田　雄一	中国古代社会史
石川　　寛	南アジア史
石塚　晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋　崇雄	清朝政治史
磯貝　健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
市古　宙三	太平天国及び中国共産党の研究
井上　和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上　和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上野　英二	平安朝文学の研究
内田　知行	中華民国社会史
内山　雅生	近代中国華北農村経済史
宇都宮美生	古代中国都城史・古代中国水利史
梅田　博之	現代朝鮮語の記述的研究
梅原　　郁	宋元時代の法制制度の研究

研究員名	研究課題
梅村　　坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山　智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	トルコ社会経済史
遠藤　光暁	中国語音韻史・方言学
大江　孝男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
大河原知樹	19-20 世紀シリアの社会史・政治史
大澤　　肇	近現代中国における学校教育史
大澤　正昭	唐宋時代社会史
太田　啓子	アラビア半島・紅海文化圏の歴史
太田　信宏	南インド近世史
太田　幸男	秦墓竹簡の研究
大谷　俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡崎　礼奈	日本近代美術史
岡田　英弘	アジア史
尾形　洋一	近現代中国政治外交史
岡野　　誠	前近代中国の王権・国家・法／敦煌吐魯番文献
丘山　　新	中国仏教資料研究
小川　裕充	中国絵画資料研究
奥村　　哲	中国近現代史
尾崎　文昭	20-21 世紀中国の文学
小田　壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名　康之	インド・ムガル時代史
梶谷　　懷	中国の財政金融改革
粕谷　　元	トルコ現代史
糟谷　憲一	18-19 世紀朝鮮政治史
片桐　一男	日蘭文化交渉史の研究
片山　章雄	中央アジア古代史
片山　　剛	広東農村社会史研究
加藤　直人	清朝の民族統治政策・清代档案史料の研究
加藤　弘之	地域開発の現状と政策に関する実証研究
金子　修一	中国古代史
金丸　裕一	中国政治経済史・日中関係史
辛島　　昇	南アジア史

研究員名	研究課題
川井　伸一	中国企業研究
川合　　安	六朝貴族制の研究
川﨑　信定	チベット仏教の研究
川島　　真	近代中国外交史
貴志　俊彦	東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究
岸本　美緒	明清時代地方社会史
北川　香子	カンボジア史
北村　文夫	現代中東問題の研究
北本　朝展	デジタル・アーカイブ
橘堂　晃一	ウイグル古文献学
金　　鳳珍	東アジアの歴史・思想・国際関係
草野　　靖	中国王朝国家の発展と社会経済
楠木　賢道	清初の「民族」関係
久保　　亨	中国近現代史
窪添　慶文	魏晋南北朝時代史
久保田　淳	日本中世文学、和歌文学
熊本　　裕	イラン語史の研究
黒田　　卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	中国隋唐政治社会史
厳　　善平	中国の三農問題
黄　　東蘭	近代日中関係史
高野　太輔	初期イスラーム史
興梠　一郎	現代中国論・中国現代史
小嶋　芳孝	渤海文化の考古学的研究
小杉　　泰	現代イスラム政治の研究
後藤　　明	イスラム社会と政治の研究
小浜　正子	中国ジェンダー史、中国近現代社会史
小松　久男	中央アジア近代史
小南　一郎	中国藝能史研究
近藤　信彰	イラン史・ペルシア語文化圏史
齋藤真麻理	中世日本文学の研究
早乙女雅博	東アジア考古学の研究
櫻井　　徹	在留外国人のコミュニケーション誌の現況について

研究員名	研究課題
佐藤健太郎	マグリブ・アンダルス史
佐藤　慎一	中国近代政治資料研究
佐藤　　宏	農村経済社会の長期変動
佐藤　仁史	近現代江南農村社会史研究
澤江　史子	現代トルコ政治
塩沢　裕仁	中国古代歴史地理研究
設樂　國廣	オスマン帝国末期政治史
蔀　　勇造	南アラビア古代史
篠﨑　陽子	前近代中国文化史
斯波　義信	中国社会経済史
嶋尾　　稔	ベトナム史
島田　竜登	東南アジア経済史、海域アジア貿易史
清水　宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水　信行	古代の日本・大陸交流史
志茂　碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
城山　智子	近現代中国の通貨・金融システム
真道　洋子	イスラーム・ガラス文化史
新免　　康	中央アジア史
末成　道男	東アジア社会人類学
須川　英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉山　清彦	清朝政治社会史
鈴木　恵美	現代エジプト政治史
鈴木　　均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木　博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木　立子	元朝社会経済史
砂山　幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾　達彦	中国古代・中世都市史
關尾　史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本　照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曽田　三郎	中国近代政治・社会史
高田　幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体
高遠　拓児	清代における刑罰制度の研究
高橋　英海	西洋古典学

研究員名	研究課題
瀧下　彩子	近現代中国社会文化史
武内　紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内　房司	18-19 世紀を中心とする西南中国の歴史における社会・民間宗教研究
武田　幸男	朝鮮古代・近世史
田島　俊雄	中国農業・農家の経済計算と所得分配
多田　狷介	漢魏晋史
立川　武蔵	チベット密教教理の研究
田中　明彦	現代東アジア国際政治の研究
田仲　一成	中国演劇史
田中　時彦	日本の政治的近代化の研究
田中　　仁	中国近代政治史―初期中国共産党史
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史
田村　晃一	東北アジアの考古学研究
竺沙　雅章	中国仏教文化史
千葉　　畏	宋代宮廷史
P. ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原　東吾	科学史・科学哲学、ＳＴＳ
辻本　裕成	中古・中世日本文学の研究
土田　哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井　祐司	マレーシア近代史
鶴見　尚弘	明・清時代社会経済史
寺田　浩明	中国明清法制史
唐　　成	現代中国金融の研究
唐　　亮	現代中国政治史の研究
東條　哲郎	マレーシア近代社会経済史
徳原　靖浩	ペルシア文学、イラン思想史
戸倉　英美	中国古典文学資料研究
杤尾　　武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土肥　義和	西域出土漢文文書の研究
富澤　芳亜	中国近代経済史
鳥海　　靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究

研究員名	研究課題
長沢　栄治	近代エジプト社会経済史
永田　雄三	オスマン帝国社会経済史
中谷　英明	インド仏教学
長縄　宣博	帝政ロシアのムスリム社会と国家
中見　立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中村　元哉	中国近代政治史—憲政史・メディア史
新村　容子	近代中国におけるアヘン問題
西　英昭	中国・台湾の近現代法制史
西尾　寛治	マレーシア・インドネシア近世史
西村　陽子	中国五代の中央アジア史
延廣　眞治	江戸・明治の文芸
萩田　博	ウルドゥー語学・文学の研究
八尾師　誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命の研究
濱下　武志	中国近現代史
濵島　敦俊	中国近世社会経済史
濱田　正美	中央アジアにおけるイスラーム研究
濱本　真実	ロシア・ムスリム史
林　佳世子	オスマン朝期中東社会史
林　俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学の研究
原　實	インド古代文学の研究
原山　隆広	アッバース朝末期政治史
平勢　隆郎	中国考古資料研究
平野健一郎	近代東アジア国際関係論
平野　聡	中国党支配(国民党・共産党)の史的研究
弘末　雅士	インドネシア宗教社会史
廣瀬　紳一	漢字文化圏電子情報学の研究
深沢　眞二	連歌・俳諧の研究
藤井　昇三	現代日中関係史の研究
藤田　忠	中国古代政治・社会史
藤本　幸夫	朝鮮本研究
古田　和子	情報・流通ネット ワークの歴史的分析
古屋　昭弘	中国語史
弁納　才一	近現代中国農村経済史

研究員名	研究課題
竇劔　久俊	現代中国の農村社会経済変動の研究
星　　泉	チベット言語学
細谷　良夫	清朝政治史
堀川　　徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
牧野　元紀	ベトナムのキリスト教
松井　　太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の研究
松重　充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永　泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松濤　誠達	インド古代神話学の研究
松丸　道雄	殷周金文の研究
松村　　潤	東北アジア民族史
松本　　弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川　知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦　　徹	イスラム都市社会史
水野　善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田　昌彦	北インド中世史
御牧　克己	チベット宗義書の研究
宮崎　修多	近世近代漢詩文の研究
宮脇　淳子	モンゴル帝国史
村井　章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上　　衛	清末沿海経済史の研究
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里　和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野　英一	清末民初における対外経済関係
籾山　　明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川　知子	イラン・イスラーム史
森平　雅彦	朝鮮中世・近世史
森安　孝夫	古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史
矢島　洋一	中央アジア史
柳澤　　明	清代外交史・民族関係史
柳田　征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究

研究員名	研究課題
矢吹　晋	近現代中国経済
山内　弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内　民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口　瑞鳳	チベット学、仏教哲学
山口　元樹	オランダ領東インドにおけるアラブ人移住について
山村　義照	日本近現代史
山本　英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本　真	近現代華南農村の社会構造
山本　毅雄	東洋学研究資料のデジタル・アーカイブ化
湯浅　剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近現代史
吉田　伸之	日本近世都市社会史
吉田　光男	朝鮮近世史
吉田　豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
六反田　豊	朝鮮中世・近世史
和田　恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺　紘良	宋代社会史

（全248人）

2．研究資料出版

総合アジア圏域研究との連携の下に、超域アジア研究と歴史・文化研究に関する一次資料の解析と研究の成果は、継続してきた和文および欧文の紀要・雑誌・叢書として刊行され、順次オンライン公開を進めた。さらに今回、総合アジア圏域研究に伴う成果を新たにアジア研究に関する欧文の電子ジャーナルとして編集発行することにより発信力を高めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、研究情報ネットワークと結びつくことにより、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

A. 定期出版物刊行

(1)『東洋文庫和文紀要』(東洋学報)第95巻第1～4号
A5判　4冊(刊行済)

(2)『東洋文庫欧文紀要』
(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No. 71
B5判　1冊(刊行済)

(3)『近代中国研究彙報』第36号　A5判　1冊(刊行済)

(4)『東洋文庫書報』第45号　A5判　1冊(刊行済)

(5) *Modern Asian Studies Review*／新たなアジア研究に向けて　Vol. 5
オンラインジャーナル(刊行済)

(6) *Asian Research Trends New Series*　No. 8　A5判　1冊(刊行済)

B. 論叢等出版

(1)『華北の発見』東洋文庫論叢第76　A5判　1冊(刊行済)

(2)『中国近世の規範と秩序』　A5判　1冊(刊行済)

(3)『張家山漢簡「二年律令」の研究』東洋文庫論叢第77
A5判　1冊(刊行済)

(4)『西蔵仏教宗義研究　第10巻　トゥカン「一切宗義」ボン教の章』
B5判　1冊(刊行済)

(5)『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』　A5判　1冊(刊行済)

C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。
http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html

3．研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

（春期）　共通テーマ「東洋文庫と本の世界Ⅲ」

第535回　2013年6月17日(月)
「ラッフルズと海の東南アジアの“近代”」
東洋文庫研究員
立教大学非常勤講師　坪井　祐司　氏

第536回　2013年6月28日(金)
「軒瓦文様の伝播—唐から東へ—」
東洋文庫研究員
青山学院大学教授　清水　信行　氏

第537回　2013年7月4日(木)
「最近の韓流歴史ドラマと韓国の歴史認識—史料と史実のあいだ—」
東洋文庫研究員
放送大学副学長　吉田　光男　氏

（秋期）　共通テーマ「東洋文庫と本の世界Ⅳ」

第538回　2013年11月29日(金)
「長城のまもり—労榦と居延漢簡—」
東洋文庫研究員　籾山　明　氏

第539回　2013年12月6日(金)
「東洋文庫所蔵の奈良絵本・絵巻について」
慶應義塾大学教授　石川　透　氏

第540回　2013年12月13日(金)
「戦前戦中期の調査資料から見る日本人の中国認識」
東洋文庫研究員
宇都宮大学名誉教授　内山　雅生　氏

(2) 特別講演会

2013年6月13日(木)
「有法無天？ 20世紀中国法律文化的天演化及多重性格」
〔英語、中国語・通訳なし〕
香港科技大学人文学講座教授　蘇　基朗　氏

2013年11月21日(木)
「“経済革命”―宋代中国とイギリス」　〔英語・通訳あり〕
台湾淡江大学経済学系　Dr. Ronald A. EDWARDS

2013年12月24日(火)
公開シンポジウム「近現代中国農村と村落檔案史料」〔中国語・通訳なし〕
東洋文庫研究員
宇都宮大学名誉教授　内山　雅生　氏 ほか

2014年2月10日(月)
国際シンポジウム「毛沢東時代の経済制度と政策の評価」
〔中国語・通訳なし〕
東洋文庫研究員　中兼和津次　氏 ほか

2014年2月23日(日)
「近代華北集市(鎮)研究述評」
天津社会科学院歴史研究所教授　張　利民　氏
「民国年間冀中農村教育研究」
天津師範大学歴史学院教授　候　建新　氏
「労働与礼俗：女性主導下的上海社会関係建構」
華東師範大学社会発展学院教授　張　文明　氏
〔中国語・通訳なし〕

(3)東洋文庫談話会

2014年3月4日(火)
「清代都市演劇規制の展開―雍正帝と嘉慶帝―」
日本学術振興会特別研究員PD　村上　正和　氏

2014年3月6日(木)
「宋金代中国の統治と石刻「文書」」
日本学術振興会特別研究員PD　小林　隆道　氏

2014年3月15日(土)
「パピルス文書と初期イスラーム時代史研究」
日本学術振興会特別研究員PD　亀谷　学　氏

2014年3月31日(月)
「ナイル灌漑から見た15-16世紀エジプトの村落社会と国家」
日本学術振興会特別研究員PD　熊倉和歌子　氏

(4) 公開講座

〈マリー・アントワネットと東洋の貴婦人
―キリスト教文化をつうじた東西の出会い―〉

2013年6月8日(土)
「キリシタン時代における良心問題の事例集について
～ヨーロッパ版とキリシタン版」
慶應義塾大学教授　浅見　雅一　氏
「キリシタン時代の挿絵教理書にみる東西交流の痕跡」
上智大学教授、同キリシタン文庫長
川村　信三　氏

2013年7月6日(土)
「島原天草一揆と「切支丹」の記憶」
早稲田大学教授　大橋　幸泰　氏

「日本のキリシタン墓碑～全国調査から見えてきた墓碑の様相とその課題」
長崎歴史文化博物館研究員　　大石　一久　氏

2013年7月7日(日)
「パリ外国宣教会とキリシタンの宗教画」
東京大学助教　　岡　美穂子　氏
「細川ガラシャと同時代を生きたイタリア女性たち
～天正遣欧使節が出会った人、出会わなかった人」
学習院女子大学教授　　根占　献一　氏

2013年7月20日(土)
「キリシタン史の背景を考える～カラヴァッジョから平田篤胤まで」
フランス国立極東学院東京支部代表
彌永　信美　氏
「キリシタン大名の改宗と処世について」
東京大学名誉教授　　五野井隆史　氏

2013年7月28日(日)
「私の細川ガラシャ～花も花なれ人も人なれ」
細川護熙元内閣総理大臣夫人、
公益財団法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長、
認定NPO法人世界の子どもにワクチンを
日本委員会理事長　　細川佳代子　氏

細川ガラシャのオペラ　『気丈な貴婦人－Mulier Fortis』および
『サクラメンタ提要』の一部演奏・歌唱
東京藝術大学准教授　　大塚　直哉　氏(演奏)
東京藝術大学准教授　　野々下由香里　氏(歌唱)

2013年9月28日(土)・29日(日)・30日(月)
アジア資料学研究シリーズ
「西洋古典籍書誌講習会―西洋書籍と東洋研究―」
フランス国立極東学院東京支部代表
彌永　信美　氏

東京大学名誉教授・印刷博物館館長
樺山　紘一　氏
東洋文庫研究員・東京大学大学院准教授
高橋　英海　氏
東洋文庫研究員・京都大学人文科学研究所准教授
村上　　衛　氏
神戸大学大学院教授　塚原　東吾　氏
東洋文庫研究部長　濱下　武志　氏
東京藝術大学大学院教授　稲葉　政満　氏
龍谷大学名誉教授　江南　和幸　氏
東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授
石塚　晴通　氏

2013年10月18日(金)・19日(土)
アジア資料学研究シリーズ
「東洋のCodicology Ⅱ—文理融合型東洋写本・版本学(講習会)—」
東洋文庫研究部長　濱下　武志　氏
東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授
石塚　晴通　氏
信州大学准教授　白井　　純　氏
上智大学教授　豊島　正之　氏
東洋文庫研究員・弘前大学教授　松井　　大　氏
神戸市外国語大学客員研究員　岩尾　一史　氏

〈マルコポーロとシルクロード世界遺産の旅〉

2013年10月26日(土)
「求法僧の西域行記とそのヨーロッパ語訳—人々を敦煌へ誘った書物たち」
京都大学人文科学研究所教授　高田　時雄　氏

2013年10月27日(日)
「アンコール・ワットと『富貴真臘』
—アンコール王朝の繁栄とパクス・アンコール(アンコールの平和)」
上智大学特任教授・元学長　石澤　良昭　氏

2013年11月30日(土)
「暗殺者教団の神話―その歴史に見る「東洋学」の展開」
東京大学東洋文化研究所准教授　　森本　一夫　氏

2013年12月5日(木)
英国大使館・Japan400協賛
『ザ・ブリティッシュ・デイ(The British Day)』記念
「日本におけるジョン・セーリス：400年後の今から振り返る」
東洋文庫普及展示部長
国立公文書館アジア歴史資料センター長
平野健一郎　氏
「John Saris とその時代」
杏林大学副学長　　ポール・スノードン　氏

「ジョン・ダウランドからビートルズまで～英国音楽の魅力」
東京藝術大学副学長　　澤　　和樹　氏(演奏)
ほか東京藝術大学大学院在学生4名(演奏)

2014年3月8日(土)・9日(日)
≪総合アジア圏域研究国際シンポジウム≫(使用言語：英語)
State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society
Keynote Address:
KARASHIMA Noboru (Research Fellow, Toyo Bunko)
SESSION 1:
The State and Society in the Islamicate World (13th–16th Centuries)
Speakers, Titles:
Sunil KUMAR
(Professor, Department of History, University of Delhi, India)
"Transitions in the Relationship between Political Elites and Sufis under the Delhi Sultanate"
HIROSUE Masashi (Research Fellow, Toyo Bunko)
"The Rise of Muslim Coastal States in North Sumatra"
NISHIO Kanji (Research Fellow, Toyo Bunko)

"Melaka: A Model of Malay Islamic States"

Phillip B. WAGONER

(Professor of Art History and Archaeology, Wesleyan University, USA)

"Sanskritizing the Persian Cosmopolis: A Case Study from the Monetary History of the Deccan"

Commentator:

TANABE Akio

(Professor, Graduate School of Asian and African Area Studies; Director, Center for the Study of Contemporary India, Kyoto University)

SESSION 2:

Early Polity and Society as Revealed from Archaeological and Literary Evidence

Speakers, Titles:

YAMAGATA Mariko

(Project Professor, Center for Cultural Resource Studies, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University)

"Construction of Linyi Citadels: The Rise of Early Polity in Vietnam"

Rajan GURUKKAL

(Professor, Centre for Contemporary Studies, Indian Institute of Science, Bangalore, India)

"Antecedents of State (Polity) Formation in Early South India"

SESSION 3:

Formation of State and Society during the Period of the 5th–14th Centuries

Speakers, Titles:

FURUI Ryosuke

(Associate Professor, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo)

"Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the 5th to the 7th Century"

NITTA Eiji

(Professor, Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University)
"Formation of Cities and State of Dvaravati"

Pierre-Yves MANGUIN
(Professor Emeritus, École Française d'Extrême-Orient, France)
"At the Origins of Srivijaya: The Emergence of State and Cities in Southeast Sumatra"

R. CHAMPAKALAKSHMI
(Former Professor, Jawaharlal Nehru University, New Delhi, India)
"Ideology and the State under the Early Medieval Pallavas and Cholas: Puranic Religion and *Bhakti*"

MATSUURA Fumiaki (JSPS Research Fellow, Sophia University)
"Kingship and Social Integration in Angkor"

AOYAMA Toru
(Professor, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies)
"Social Integration in Majapahit as Seen in an Old Javanese Court Narrative"

MITA Masahiko (Research Fellow, Toyo Bunko)
"Sanskritized Imperialism and State Integration in Early Medieval North India (c.950-1200)"

Commentator:
Hermann KULKE
(Professor Emeritus, Chair of Asian History, Department of History, University of Kiel, Germany)

Closing Address:
HIROSUE Masashi

〈仏教—アジアをつなぐダイナミズム〉

2014年3月23日(日)
チベット映画上映会『静かなるマニ石』
東洋文庫研究員　　星　　泉　氏

(5) 各種研究会・講演会開催

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	10	11	19	11	4	11	5	4	5	2	3	8	93
参加人数	219	108	302	182	70	143	73	24	69	27	52	183	1452

B. データベース公開

2013年4月1日～2014年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ(日本語・英語)に対するオンライン検索アクセス状況については、Ⅱ　図書事業のグラフ(p. 20)に示す通りである。

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外来研究員の受入

Frédéric GIRARD (フランス国立極東学院教授)
「日本仏教」　(2012年9月21日～2013年9月20日、極東学院)

周　　艶 (南京大学図書館研究員)
「東洋文庫所蔵の善本調査」　(2013年4月1日～2013年6月16日)
[受入担当：田仲一成]

蘇　基　朗 (香港科技大学教授)
「中国近代出版文化史」　(2013年5月13日～2013年6月28日)
[受入担当：斯波義信]

呉　景　平 (復旦大学歴史系教授)
「中国歴史文献学」　(2013年5月17日～2013年5月31日)
[受入担当：岸本美緒]

彌永　信美（フランス国立極東学院東京支部長）
「日本仏教」　（2013年9月1日～2014年8月31日、極東学院）

宋　好　彬（高麗大学校民族文化研究院研究員）
「朝鮮本古典籍の調査」
（2013年9月1日～2014年9月30日、高麗大学校）
［受入担当：藤本幸夫］

(2) 2013年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

池尻　陽子（筑波大学大学院PD）
「チベット仏教僧の思想とネットワークが清代内陸アジア史に与えた影響に関する研究」
（2010年度採用、11・12年度・3ヶ年間）
［受入指導者・吉水千鶴子］
※育休中につき受入期間を延長。2014年度終了予定。

村上　正和（東京大学大学院PD）
「清代中国社会と演劇文化」　（2011年度採用、12・13年度・3ヶ年間）
［受入指導者・山本英史］

亀谷　　学（北海道大学大学院PD）
「パピルス文書による初期イスラーム時代統治システムの研究」
（2011年度採用、12・13年度・3ヶ年間）
［受入指導者・後藤　明］

小林　隆道（早稲田大学大学院PD）
「10-13世紀中国における統治と「文書」
―官文書分析による史料批判学の再構築―」
（2011年度採用、12・13年度・3ヶ年間）
［受入指導者・岸本美緒］

熊倉　和歌子（お茶の水女子大学大学院PD）
「14–16 世紀エジプトにおける徴税と村落社会：土地台帳をてがかりに」
（2012 年度採用、13・14 年度・3 ヶ年間）
［受入指導者・林佳世子］
※就職につき、2013 年度をもって身分を辞退。

小林　晃（北海道大学大学院PD）
「12 ～ 15 世紀中国における華北・江南の政治的統合過程」
（2012 年度採用、13・14 年度・3 ヶ年間）
［受入指導者・山本英史］

五味　知子（慶應義塾大学大学院PD）
「17 ～ 19 世紀中国基層社会における規範とジェンダー」
（2013 年度採用、14・15 年度・3 ヶ年間）
［受入指導者・岸本美緒］

〈外国人研究者への便宜供与〉

China
王為民［中国山西大学副教授］（ほか 15 名）

Iran
Mohammad Mahdi ALIMARDI［Professor, Adyan University］（ほか 9 名）

Taiwan
Peter LAVELLA［台湾中央研究院近代史研究所研究員］

Tunisia
Mahmoud TARCHOUNA［Professor, Universite Manouba］

Vietnam
SON Tran Duc Anh［ダナン社会経済研究所副所長］（ほか 2 名）

D. 国際交流

以前より研究協力協定を締結しているフランス極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館にくわえ、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)図書館と協力関係を結んだ。

また、3月8日(土)・9日(日)に≪総合アジア圏域研究国際シンポジウム≫として、"State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia" (The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks) を開催した。

4．研究員等の研究業績

期間：2013年4月1日～2014年3月31日まで
略号：①…雑誌論文　②…図書　③…学会発表

會谷　佳光

①「漢籍善本紹介　東洋文庫(3)」(『新しい漢字漢文教育』, 第56号, 5～8, 124～126頁, 全国漢文教育学会, 2013年5月).

①「漢籍善本紹介　東洋文庫(4)」(『新しい漢字漢文教育』, 第57号, 5～8, 105～107頁, 全国漢文教育学会, 2013年11月).

①翻訳「周艶編「東洋文庫所蔵漢籍善本解題目録　経部」」(『東洋文庫書報』, 第45号, 1～55頁, (公財)東洋文庫, 2014年3月).

②『仏教―アジアをつなぐダイナミズム』((公財)東洋文庫, 2014年, 28頁, [項目執筆：8～13, 20]).

相原　佳之

③「清代貴州省東南部的林業経営与白銀流通」(清水江文書与中国地方社会国際学術研討会, 於：貴州大学(貴陽), 2013年10月21日).

③「東洋文庫における地域研究資源の情報化・共有化の取り組み」(〈徳原靖浩〉, PNC Annual Conference and Joint Meeting 2013・NIHU企画セッション「人間文化研究資源の調査と情報化」, 於：京都大学, 2013年12月12日, [NIHU研究資源共有化事業委員会編『PNC2013　NIHU企画セッ

ション報告集』，85 ～ 101 頁，2014 年 3 月，［英訳“Computerization and Utilization of Area Studies Resources at Toyo Bunko（The Oriental Library）”, 183 ～ 195 頁］］）.

③「清代中国における『山』の資源管理―『清嘉慶朝刑科題本社会史料輯刊』の事例を中心に」（神奈川大学アジア研究センター・研究グループ「東アジア近代における伝統とその変容」，於：神奈川大学，2014 年 1 月 29 日）.

青木　敦

①「ユーラシアの近世・中国の近世」（『歴史評論』，763，18 ～ 30 頁，歴史科学協議会，2013 年 11 月）.

①「江西有珥筆之民―宋朝法文化与健訟之風」（『第四届漢学会議《近世中国的変与不変》論文集』，337 ～ 366 頁，上海古籍出版社，2013 年 11 月）.

①「地方における法の蓄積とその法典化―五代～宋の特別法をめぐって」（山本英史編『中国近世の規範と秩序』，3 ～ 28 頁，（公財）東洋文庫，2014 年 2 月）.

③ “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities”, in PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013 “Revolutions in the Studies in Pre-Mongolian Chinese Historiography: On the Ratio of Classics Digitalized”, Kyoto University, 10 Dec. 2013.

③「日本大学的教養教育―以青山学院大学“青山標準”為例」（長庚大学教養部講演，於：長庚大学（台湾亀山），2014 年 3 月 12 日）.

秋葉　淳

① “Ertuğrul Fırkateyni ile Japonya'ya Ulema Gönderme Girişimi”（『日本中東学会年報』，29-1，129 ～ 143 頁，日本中東学会，2013 年 7 月）.

①「タンズィマート以前のオスマン社会における女子学校と女性教師：18 世紀末～ 19 世紀初頭イスタンブルの事例から」（『オリエント』，56-1，84 ～ 97 頁，日本オリエント学会，2013 年 9 月）.

①「オスマン帝国における近代国家形成と教育・福祉・慈善」（広田照幸・岩下誠・橋本伸也編『福祉国家と教育―比較教育社会史の新たな展開に向けて』，141 ～ 157 頁，昭和堂，2013 年 11 月）.

③「カーディーの町，カーディーの村―18 世紀～ 19 世紀初頭オスマン社会における支配者層参入の道」（日本中東学会第 29 回年次大会，於：大阪大学豊中キャンパス，2013 年 5 月 12 日）.

③ “Uniformity and Diversity of Legal Practices in Late Eighteenth-Century Ottoman Anatolia: A Case Study on the Issue of Missing Husbands”, in the 47th Annual Meeting of the Middle East Studies Association, New Orleans, USA, 12 Oct. 2013.

浅田　進史

①「日中戦争期の青島経済―日本占領の経済的衝撃」(柳沢遊・木村健二・浅田進史編『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』, 297 ～ 326 頁, 慶應義塾大学出版会, 2013 年 10 月).

①「ドイツ統治期の青島経済にみる『公共』と『非公共』―山東農産品輸移出の流通を中心に」(高嶋修一・名武なつ紀編『都市の公共と非公共―20 世紀の日本と東アジア』, 23 ～ 56 頁, 日本経済評論社, 2013 年 10 月).

①「ドイツ・中国関係史からみた華北」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第 76)』, 57 ～ 77 頁, (公財)東洋文庫, 2013 年 12 月).

③「19 世紀グローバル化のなかのドイツ山東事業―物流と植民地権力の関係性を中心に」(ドイツ現代史学会第 36 回大会シンポジウムⅢ「ドイツと東アジア―日独比較史から独亜関係史へ」, 於：福岡大学, 2013 年 9 月 22 日).

浅野　秀剛

①「錦絵が絵本になる時―鱗形屋・蔦屋とその周辺」(『詩歌とイメージ』, 97 ～ 120 頁, 勉誠出版, 2013 年 5 月).

①「吉原の女芸者の誕生」(『シリーズ遊廓社会 1　三都と地方都市』, 19 ～ 45 頁, 吉川弘文館, 2013 年 8 月).

①「写楽役者版下絵の検討」(『國華』, 1416, 7 ～ 23 頁, 國華社, 2013 年 10 月).

①「司馬江漢の錦絵」(『大和文華』, 126, 13 ～ 31 頁, 大和文華館, 2014 年 1 月).

②『特別展　宮川長春』(大和文華館, 2013 年, 154 頁, [図録]).

天児　慧

②『日中対立―習近平の中国を読む』(筑摩書房, 2013 年, 270 頁).

②『中華人民共和国史　新版』(岩波書店, 2013 年, 232 頁).

③「日中関係」(アジア政経学会東日本大会共通論題：中国の外交と近隣諸国，2013年10月12日).

荒川　正晴

① "The Transportation of Tax Textiles to the North-West as Part of the Tang-Dynasty Military Shipment System", *Journal of the Royal Asiatic Society*, 23-2, pp. 245–261, Apr. 2013.

① Bookreview "Valerie Hansen, *The Silk Road: A New History*, New York: Oxford University Press, USA, 2012", *International Journal of Asian Studies*, 11-1, Cambridge University Press, Jan. 2014.

③「李柏文書研究の現段階―主に古文書研究の立場から」(国際シンポジウム「広域アジアにおける大谷光瑞の活動」，於：西本願寺・伝道院，2013年10月5日).

③「唐帝国の中央アジア支配とキャラヴァン交易の変質」(大阪歴史科学協議会12月例会「交通と国家」，於：天満橋，2013年12月15日).

③「唐朝の対外交流と通行証」(『日本古代の外交文書』出版記念シンポジウム「古代東アジア・東ユーラシアの対外交通と文書」，於：國學院大学，2014年1月26日).

飯尾　秀幸

①「雲夢睡虎地・荊州張家山調査報告記　付「張家山漢簡」実見と学術交流の記録」(東洋文庫古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究(東洋文庫論叢第77)』，5～16頁，(公財)東洋文庫，2014年3月).

①「中国古代土地所有問題に寄せて―張家山漢簡『二年律令』における田宅地規定をめぐって」(東洋文庫古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究(東洋文庫論叢第77)』，17～62頁，(公財)東洋文庫，2014年3月).

飯島　明子

①「ラワ―タイ関係をめぐるナラティブとメタ・ナラティブ」(クリスチャン・ダニエルス編『東南アジア大陸部　山地民の歴史と文化』，55～106頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2014年3月).

飯島　武次

①「東アジア文明の黎明」(『駒沢史学』，82，55～82頁，駒沢史学会，

2014年3月).
①「二里頭類型第4期の青銅器と二里岡下層文化の青銅器」(『駒澤大学文学部研究紀要』, 72, 119～135頁, 駒澤大学, 2014年3月).
②『中華文明の考古学』(同成社, 2014年, 487頁).
③「西周王朝成立期の周形土器と殷形土器」(一般社団法人日本考古学協会第79回総会・講演会, 於：駒澤大学, 2013年5月25日, [『一般社団法人日本考古学協会第79回総会研究発表要旨』, 13～14頁, 一般社団法人日本考古学協会]).
③「二里頭類型第4期与二里岡下層文化的青銅器」(中国社会科学院考古研究所主催「夏商都邑考古暨紀念偃師商城発掘30年国際学術討論会」, 於：中国河南省偃師市, 2013年10月28日).

飯島　渉
①「大鶴正満と台北帝国大学―ある寄生虫学者の軌跡」(酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』, 407～436頁, ゆまに書房, 2014年2月).
①「資料翻刻　大鶴正満訪中日誌(1957年)(2)」(〈本村育恵, 井上弘樹, 久保田明子, 徐慧, 藤野真帆, 星加美沙子, 森田英太郎〉, 『青山史学』, 32号, 107～136頁, 青山学院大学, 2014年3月).
③ "A Hidden Anti-schistosomiasis Iaponica Network in the Twentieth Century Japan, China and Philippines", in History of Medicine of Southeast Asia Conference, Ateneo de Manila University, 11 Jan. 2014.

池田　美佐子
①「解説(エジプト議院内規)」(八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』, 31～44頁, (公財)東洋文庫, 2014年3月).
①翻訳「エジプト議会・議院内規(上院・下院)」(〈高岩伸任, 石黒大岳〉, 八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』, 103～156頁, (公財)東洋文庫, 2014年3月).
①「エジプト立憲王制時代の議会議事録―史料的価値とデータベース化」(『明日の東洋学』, 31, 2～5頁, 2014年3月).
②『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』(〈八尾師誠, 粕谷元〉, (公財)東洋文庫, 2014年, 411頁).
③ "The Uneasy Road to Parliamentary Development in Egypt"(チュニ

ジア—日本文化・科学・技術学術会議(TJASSST 2013)，於：チュニジア：ハマメット，2013年11月16日).

池田　雄一

①「秦漢時代の戸籍について」(東洋文庫古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究(東洋文庫論叢第77)』，63～103頁，(公財)東洋文庫，2014年3月).

石川　寛

①書評「ナヴィナ・ナジャトハイダル，マリカ・サルダール編『南インドのスルタン達—デカン諸王国の宮廷芸術　1323-1687』」(『東洋学報』，95-3，027～035頁，(公財)東洋文庫，2013年9月).

①「前期チャールキヤ朝史の再検討(その2)—第5代ヴィクラマーディティヤ1世の治世を中心に」(『東洋学研究』，51号，175～190頁，東洋大学東洋学研究所，2014年3月).

石塚　晴通

①「従Codicology的角度来看敦煌漢文文献」(〈唐煒〉，『中国敦煌吐魯番学会成立三十周年国際学術研討会論文集』，第一組，135～140頁，中国敦煌吐魯番学会，2013年8月).

①「岩崎本日本書紀の訓点」(『国宝　岩崎本日本書紀』，勉誠出版，2013年11月，[解説]).

②『敦煌学・日本学　続編』(上海辞書出版社，2013年，460頁).

③「コディコロジーからみる東洋・西洋・日本」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2013年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究」，於：(公財)東洋文庫，2013年9月29日).

③「コディコロジー：漢字文献と非漢字文献」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2013年度・東洋のコディコロジー(Codicology)Ⅱ「非漢字文献」，於：(公財)東洋文庫，2013年10月18日).

石橋　崇雄

①「“満洲”(manju)王朝論—清朝国家論序説」(『明清時代史的基本問題』，260～288頁，商務印書館(北京)，2013年8月).

① “The Nature and Significance of Manchu-Language Documents of the

Qing Era", *Modern Asian Studies Review*, Vol. 5, pp. 1–15, The Toyo Bunko, Mar. 2014.
①「国士舘文学部と《漢学》の伝統―『東洋道徳教本』と『樹人』から」(『国士舘大学人文学』，第4号(通巻46号)，123～135頁，2014年3月).

今西　祐一郎
①「画像の効用」(『DHjp 新しい知の創造』，No. 1，30～34頁，勉誠出版，2014年2月).
①「版本『九相詩』前夜」(『書物学』，1，16～22頁，勉誠出版，2014年3月).
①「通俗と啓蒙―江戸時代出版史一斑」(『成城国文学』，30，01～19頁，成城国文学会，2014年3月).
③「骸骨の東西―「死の舞踏」と「一休骸骨」」(イタリア日本学協会(Associazione Italiana Studi Giapponesi)2013度年総会，於：国際交流基金ローマ日本文化会館，2013年9月19日).
③「王権と文学―『伊勢物語』の場合」(国際交流基金パリ日本文化会館講演会，於：国際交流基金パリ日本文化会館，2013年9月21日).

上野　英二
①「源氏物語と長恨歌　其二・其三」(『成城・国文学論集』，第36輯，63～86頁，成城大学大学院文学研究科，2014年3月).

内山　雅生
①「戦時期日本の中国農村研究と華北」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』，177～200頁，(公財)東洋文庫，2013年12月).
①「農村から見る現代中国社会の変動」(『経済史研究』，17号，1～21頁，大阪経済大学日本経済史研究所，2014年1月).
②『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』(〈本庄比佐子，久保亨〉，(公財)東洋文庫，2013年，355頁).
③「日本・インドの土地改革から見た中国の土地改革」("土地改革与中国郷村社会"学術研討会，於：山西大学中国社会史研究中心，2013年8月10日，[招待講演]).
③「戦前戦中期の調査資料から見る日本人の中国認識」(東洋文庫2013年

度秋期東洋学講座，於：(公財)東洋文庫，2013年12月13日，[『東洋学報』，95-4，91～92頁，(公財)東洋文庫，2014年3月])．

梅村　坦

①「中国へ入った外来の文字」(梅村坦・江上綏編『《図録》文字から見る歴史と文化—江上波夫蒐集品を中心に』，106～113頁，山川出版社，2013年11月)．

②『《図録》文字から見る歴史と文化—江上波夫蒐集品を中心に』(〈江上綏〉，山川出版社，2013年，iii + 153頁)．

宇山　智彦

① "The Changing Religious Orientation of Qazaq Intellectuals in the Tsarist Period: Sharīʿa, Secularism, and Ethics", Niccolò Pianciola and Paolo Sartori eds., *Islam, Society and States across the Qazaq Steppe (18th–Early 20th Centuries)*, pp. 95–118, Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2013.

②『比較研究の愉しみ：国立大学附置研究所・センター長会議第3部会シンポジウム報告』(北海道大学スラブ研究センター，2014年，58頁)．

③「権威主義体制論の新展開：旧ソ連地域研究からの貢献」(2013年度日本比較政治学会研究大会，於：神戸大学，2013年6月23日)．

③ "Repression of Kazakh Intellectuals as a Sign of Weakness of Russian Imperial Rule: The Paradoxical Role of Governor A. N. Troinitskii in the Kazakh National Movement", in Biennial Conference of the European Society for Central Asian Studies (ESCAS), Astana, Kazakhstan, 6 Aug. 2013.

江川　ひかり

①「オスマン帝国における遊牧民の墓地と墓標—19・20世紀初頭西北アナトリアにおけるヤージュ・ベディルの事例から」(『明治大学人文科学研究所紀要』，74，37～72頁，明治大学人文科学研究所，2014年3月)．

① "Osmanlı Döneminde Yörüklerin İltizam Sistemine Girmesi: Yağcı Bedir Yörükleri Örneği", İlhan Şahin, Baktıbek İsakov, Cengiz Buyar eds., *Cièpo Interim Symposium: The Central Asiatic Roots of Ottoman Culture*, pp. 275–283, İstanbul, 2014 [Interim Symposium of the International

Committee for Pre-Ottoman and Ottoman Studies (CIÉPO), Bişkek, Kyrgyz, 24–29 Aug. 2009 における発表論文に加筆修正].

大澤　肇

①書評「岩間一弘『上海近代のホワイトカラー』」(『歴史学研究』, 907, 52～54頁, 歴史学研究会, 2013年6月).

①「近年日本歴史学界的口述歴史研究現状：以日本当代史, 中国当代史与当代日中関係史為中心」(邵軒磊等編『戦後日本的中国研究—口述知識史』, 第二冊, 258～279頁, 国立台湾大学政治学系, 2013年12月).

①「毛沢東の復権？—毛沢東とその時代を現在の中国社会はどう捉えているか」(『アリーナ』, 16, 400～408頁, 中部大学, 2013年12月).

③ "School Education and Social Integration in the 1950s in the People's Republic of China", in Asian Studies Conference Japan 2013, J. F. Oberlin University, Tokyo, 29 June 2013.

③「中国の資料デジタル化プロジェクトCADALとは？」(2013年度第2回愛知大学図書館セミナー, 於：愛知大学名古屋キャンパス, 2013年12月9日).

大澤　正昭

①「女親分(ボス)もいた—南宋豪民の実態」(上智大学史学科編『歴史家の窓辺』, 141～161頁, SUP上智大学出版会, 2013年6月).

①「唐末から宋初の基層社会と在地有力者—郷土防衛・復興とその後」(『上智史学』, 58号, 17～72頁, 2013年11月).

①「浙江省北・中部歴史調査報告：『清明集』的世界の地理的環境と文化的背景〈杭州・金華・蘭渓編〉」(〈佐々木愛, 石川重雄, 原瑠美, 松浦晶子〉, 『上智史学』, 58号, 145～175頁, 2013年11月).

①「南宋判語に見る在地有力者, 豪民」(山本英史編『中国近世の規範と秩序』, 29～65頁, (公財)東洋文庫, 2014年2月).

太田　信宏

①「マイソール王国におけるプラブ—近世南インド国家と領主的権力」(『アジア・アフリカ言語文化研究』, 86, 81～113頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2013年9月).

③「植民地期南インドにおける歴史記述をめぐる諸問題」(人間文化研究機

構プログラム「現代インド地域研究」東京外国語大学拠点 2013 年度第 3 回研究会「歴史から紐解く現代インド―象徴とテクスト」，於：東京外国語大学本郷サテライト 4 階セミナー室，2013 年 11 月 4 日）.
③書評「Aya Ikegame, Princely India Re-imagined (Routledge. 2012)」(第 11 回インド社会運動研究会，於：東京外国語大学本郷サテライト 4 階セミナー室，2014 年 1 月 13 日）.

太田　幸男
①「秦漢出土法律文書にみる『田』・『宅』に関する諸問題」(東洋文庫古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究(東洋文庫論叢第 77)』，187 ～ 224 頁，(公財)東洋文庫，2014 年 3 月）.
②『張家山漢簡『二年律令』の研究(東洋文庫論叢第 77)』(〈東洋文庫古代地域史研究〉，(公財)東洋文庫，2014 年，520 + 61 頁）.

大谷　俊太
①「後水尾院述・近衛基凞記『法皇御説聞書』攷」(『国文論藻』，13，京都女子大学大学院文学研究科，2014 年 3 月）.
②『近世上方文壇における人的交流の研究(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書，研究代表者：飯倉洋一)』(〈飯倉洋一〉，2014 年，573 頁）.

岡崎　礼奈
②『東洋学の歩いた道』(〈学習院大学・(公財)永青文庫・(公財)東洋文庫〉，2013 年，133 + vi頁，［項目執筆：第 3 章「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅―西洋生まれの東洋学」，コラム 2，Ⅲ-1 ～ 2，5 ～ 7，10 ～ 18，20，22 ～ 23］）.
②『仏教―アジアをつなぐダイナミズム』((公財)東洋文庫，2014 年，28 頁，［項目執筆：「仏教の誕生と広がり」，「上座仏教概説」，「大乗仏教概説」，5 ～ 7，14 ～ 19，21 ～ 23，25 ～ 27］）.
③「本の展示における試み～「知」と「遊」の融合を目指して」(アート・ドキュメンテーション学会第 59 回見学会・第 82 回研究会，於：(公財)東洋文庫，2014 年 2 月 15 日）

岡田　英弘

①「『日本書紀』はどのように創られたか　⑤飯豊皇女はじつは天皇だった」,「⑥ホムツワケ皇子は建皇子」(『新潮 45』, 5 月号, 174 ～ 181 頁；6 月号, 254 ～ 261 頁, 新潮社, 2013 年 4 月；2013 年 5 月).

①「ハズルンド「トレグト・ラレルロ」解読」(〈宮脇淳子〉, Kim Juwon and Ko Dongho eds., *Current Trends in Altaic Linguistics: A Festschrift for Professor Seong Baeg-in on His 80th Birthday*, pp. 421–454, Altaic Society of Korea, 2013).

②『岡田英弘著作集Ⅰ　歴史とは何か』(藤原書店, 2013 年, 430 頁).

②『岡田英弘著作集Ⅱ　世界史とは何か』(藤原書店, 2013 年, 518 頁).

②『岡田英弘著作集Ⅲ　日本とは何か』(藤原書店, 2014 年, 556 頁).

岡野　誠

① 書評「大津透編『律令制研究入門』」(『唐代史研究』, 16 号, 113 ～ 122 頁, 唐代史研究会, 2013 年 8 月).

①「東洋法制史文献目録(平成 24 年・2012 年)」(〈共編〉, 『法制史研究』, 63, 39 ～ 89 頁, 法制史学会, 2014 年 3 月).

① 書評「辻正博「敦煌・トルファン出土唐代法制文献研究の現在」」(『法制史研究』, 63, 272 ～ 273 頁, 法制史学会, 2014 年 3 月).

①「唐玄宗期の県令誡励二碑と公文書書式について―山東臨沂「勅処分県令碑」と陝西乾県「令長新誡碑」」(『明大アジア史論集』, 18 号(氣賀澤保規先生退休記念号), 207 ～ 224 頁, 明治大学東洋史談話会, 2014 年 3 月).

奥村　哲

①「戦後歴史学とわれわれ―中国近現代史研究の立場からのコメント」(『史潮』, 新 73 号, 60 ～ 66 頁, 歴史学会, 2013 年 7 月).

②『人びとの社会主義(21 世紀歴史学の創造　5)』(〈南塚信吾, 古田元夫, 加納格〉, 有志舎, 2013 年, 375 頁［執筆部分：第 2 部「毛沢東主義の意識構造と冷戦」, 145 ～ 220 頁］).

②『国際シンポジウム　東アジア史の比較・連関からみた中華人民共和国初期の国家・基層社会の構造的変動』(〈中国基層社会史研究会(代表：奥村哲)〉, 汲古書院, 2014 年, 119 頁).

③「中国近現代の商業・金融研究に対する提案―比較社会論的視角」(2013 年第 19 回成均館大学現代中国研究所国際学術会議「中国近代時期(1911–

1949)的金融発展」，於：成均館大学(韓国，ソウル)，2013年5月27日［『中国近代時期(1911–1949)的金融発展』，1～10頁］).
③「中国の社会主義体制と冷戦」(東洋史研究会大会，於：京都大学，2013年11月3日，［『東洋史研究』，第72巻3号，166頁，東洋史研究会，2013年］).

尾崎　文昭
①「周作人の『中国新文学の源流』論と「儒家」論について」(伊藤徳也編『周作人と日中文化史(アジア遊学164)』，214～220頁，勉誠出版，2013年5月).
①「魯迅と周作人　中国文化の近代的転型の象徴」(趙景達編『「社会」の発見と変容(講座 東アジアの知識人3)』，115～131頁，有志舎，2013年12月).
①「伊藤徳也氏の反論に応答し，あわせて周作人の新文学源流論と儒家論を補論する」(『飆風』，52，37～54頁，飆風の会，2014年2月).

小名　康之
①書評「Osamu KONDO, *The Early Modern Monarchism in Mughal India, with a Bibliographical Survey*」(『東洋史研究』，第72巻3号，2013年12月).
①「イギリス東インド会社とアウラングゼーブの「ファルマーン」」(『青山史学』，第32号，71～88頁，2014年1月).

梶谷　懐
①「『中国モデル』とグローバリゼーション」(『新しい歴史学のために』，283，34～49頁，京都民科歴史部会，2013年10月).
①「中国経済をめぐる「不確実性」と日系企業の戦略」(『東亜』，559，30～38頁，(公財)霞山会，2014年1月).
①「なぜ中国経済論は収斂しないのか—アセモグル・ロビンソンの制度論から考える」(『JRIレビュー』，3月13日，8～24頁，日本総研，2014年3月).
②『中国経済史』(〈岡本隆司〉，名古屋大学出版会，2013年，346頁).
②『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』(〈中兼和津次〉，国際書房，2014年，466頁).

粕谷　元

①「トルコ大国民議会内規の歴史とその研究意義」(八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』, 45 ～ 60 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 3 月).

① 翻訳「トルコ大国民議会内規」(〈宇野陽子, 岩坂将充〉, 八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』, 157 ～ 216 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 3 月).

②『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』(〈八尾師誠, 池田美佐子〉, (公財)東洋文庫, 2014 年, 411 頁).

③「トルコはいかにして「政教分離国家」になったのか―トルコにおける政教関係の歴史」(日本トルコ文化交流会第 31 回セミナー, 於：トルコ文化センター, 2013 年 7 月 13 日).

③「オスマン帝国はいつ滅亡したか？」((公財)東洋文庫現代イスラーム研究班研究会, 於：(公財)東洋文庫, 2014 年 2 月 21 日).

糟谷　憲一

①「「韓国併合条約」の無効性と「併合詔書」」(〈和田春樹, 内海愛子, 金泳鎬〉, 李泰鎮編『日韓歴史問題をどう解くか―次の 100 年のために』, 92 ～ 109 頁, 岩波書店, 2013 年 12 月).

①「20 世紀初頭の朝鮮における権力構造に関する考察― 1899 ～ 1910」(『日韓歴史共同研究プロジェクト第 15 回・第 16 回シンポジウム報告書』, 38 ～ 63 頁, 日韓相互認識研究会, 2014 年 3 月).

片桐　一男

①「杉田玄白と長崎屋―その, 狙いと行動」)(『杏雨』, 16 号, 30 ～ 49 頁, (公財)武田科学振興財団, 2013 年 4 月).

①「上杉鷹山の医師遊学の奨励」(『洋学史研究』, 30 号, 4 ～ 26 頁, 洋学史研究会, 2013 年 4 月).

②『蘭学家老・鷹見泉石の来翰を読む(蘭学篇)』(2013 年, vii + 218 頁, [製作：岩波ブックセンター, 発行：鷹見本雄]).

片山　章雄

① "Recent Trends in the Study of the "Otani Expeditions"", *Asian Research Trends New Series*, No. 8, pp. 23–41, The Toyo Bunko, 2013.

片山　剛

①「華南地方社会与宗族—清代珠江三角洲的地縁社会・血縁社会・図甲制」(森正夫等編『明清時代史的基本問題』，422 ～ 449 頁，商務印書館(北京)，2013 年 8 月，［訳：欒成顕］).

①「対自然的擁有形態的多重結構」(日本人間文化研究機構現代中国区域研究項目編『当代日本中国研究』，第 1 輯　歴史・社会，200 ～ 225 頁，社会科学文献出版社(北京)，2013 年 9 月，［訳：袁広泉］).

①「20 世紀前半，長江中洲の開発をめぐる社会史：南京江心洲の場合」(森時彦編『長江流域社会の歴史景観』，103 ～ 126 頁，京都大学人文科学研究所，2013 年 10 月).

②『近代東アジア土地調査事業研究　ニューズレター　第 5 号』(大阪大学文学研究科，2014 年，130 頁).

③「20 世紀前半，長江中洲の開発と開発農民の具体像：南京付近の中洲を中心に」(近代東アジア土地調査事業研究第 4 回ワークショップ，於：大阪大学文学研究科，2013 年 12 月 14 日，［『近代東アジア土地調査事業研究　ニューズレター』，第 5 号，39 ～ 57 頁，大阪大学文学研究科，2014 年 3 月］).

加藤　弘之

①「中国は『中国モデル』から訣別できるか」(渡辺利夫・21 世紀政策研究所・大橋英夫編『ステート・キャピタリズムとしての中国』，3 ～ 34 頁，勁草書房，2013 年).

①「地域開発政策—新しい経済地理学の観点から」(中兼和津次編『中国はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』，55 ～ 83 頁，国際書院，2014 年 2 月).

①「腐敗は中国の成長を制約するか」(『東亜』，No. 561，10 ～ 17 頁，2014 年 3 月).

①「包括的制度，収奪的制度と経済発展—アセモグルとロビンソンの『国家はなぜ衰退するのか』を読む」(神戸大学経済経営研究所年報『経済経営研究』，63 号，137 ～ 159 頁，2014 年 3 月).

②『「曖昧な制度」としての中国型資本主義(世界のなかの日本経済—不確実性を超えて 3)』(NTT出版，2013 年，291 頁).

金丸　裕一

①「『尖閣』問題をめぐる思索／祈り」(『福音と世界』, 68-7, 38～41頁, 新教出版社, 2013年6月).

③「近代史研究与話語／概念：現代歴史思維的陥穽」(中央研究院近代史研究所学術演講会, 於：台北中央研究院近代史研究所, 2014年3月28日).

辛島　昇

① "Coordinators' Report: The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks. State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society", 〈Hirosue Masashi〉, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 5, pp. 49–54, The Toyo Bunko, Mar. 2014.

③「カレーから学びとるインドの知恵」(NHKラジオ深夜便「明日へのことば」, 2014年1月21日, [ラジオ放送]).

③ "Tamil History is Different from That of Dravidian History", and "Politics Was Part of World Tamil Conference", in Tamil Program, Audio and Language Content, SBS (Australian National Broadcasting Corporation), 26, 27, and 28 Jan. 2014. [ラジオインタビュー(by Raymond Selvaraj, Executive Producer)] .

③ "Keynote Address", in the Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks. State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, Toyo Bunko, 8 Mar. 2014.

川合　安

①書評「福原啓郎著『魏晋政治社会史研究』」(『唐代史研究』, 第16号, 105～112頁, 2013年8月).

③「南朝の士庶区別について」(東北史学会大会, 於：東北大学, 2013年10月13日).

川崎　信定

① "Obituary: In Memory of Professor Jikido Takasaki (September 6, 1926–May 4, 2013)", *The Indian International Journal of Buddhist Studies*, 14, pp. 197–199, Varanasi, India, Dec. 2013.

川島　真

①「思想としての対中外交—外交の現場から見る蔣介石・中華民国・台湾」(酒井哲哉編『日本の外交　第3巻　外交思想』, 257～280頁, 岩波書店, 2013年4月).

①「近代中国的型塑与『伝統』—以対冊封朝貢之解釈為中心」(呉淑鳳・薛月順・張世瑛編『近代国家的型塑—中華民国建国一百年国際学術討論会論文集』, 上冊, 69～82頁, 国史館, 2013年6月).

②『日中関係史』(〈国分良成, 添谷芳秀, 高原明生〉, 有斐閣, 2013年, 286頁).

②『対立と共存の歴史認識—日中関係150年』(〈劉傑〉, 東京大学出版会, 2013年, 445頁).

③「東アジアの歴史研究の方向と展望—歴史共同研究・歴史教育・歴史と社会」(第4回東アジア日本研究フォーラム, 於:Haeundae Grand Hotel(韓国, 釜山), 2013年12月7～8日).

貴志　俊彦

②『東アジア流行歌アワー—越境する音 交錯する音楽人(岩波現代全書15)』(岩波書店, 2013年, 288頁).

②『中国占領地の社会調査2(政治・経済編)』(第28巻～第36巻(都市 インフラ調査①～⑨), 総5704頁, 近現代資料刊行会, 2014年, [監修]).

岸本　美緒

①「中国史研究におけるアクチュアリティとリアリティ」(歴史学研究会編『歴史学のアクチュアリティ』, 3～21頁, 東京大学出版会, 2013年5月).

①書評「深谷克己『東アジア法文明圏の中の日本史』」(『歴史評論』, 759号, 82～86頁, 2013年7月).

①「銀のゆくえ—近世の広域銀流通と中国」(竹田和夫編『歴史のなかの金・銀・銅—鉱山文化の所産』, 27～40頁, 勉誠出版, 2013年7月).

①「『中国』和『外国』—明清両代歴史文献中涉及国家与対外関係的用語」(陳熙遠主編『第四届国際漢学会議論文集　覆案的歴史—檔案考掘与清史研究』, 下冊, 357～393頁, 中央研究院, 2013年12月).

①「清代前期定例集の利用について」(山本英史編『中国近世の規範と秩序』, 166～200頁, (公財)東洋文庫, 2014年2月).

北川　香子

①「ポー・ヴィエル寺の選択――寺院史から見た「返還」前後のバット・ダムバーン」(『南方文化』, 40, 1～23頁, 天理大学, 2013年12月).

①「18世紀クメール語書簡の発見―近藤重蔵関係史料『外国関係書簡』から」(『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』, 64, 2～14頁, 東京大学, 2014年1月).

橘堂　晃一

① "Khitan Influence on the Uighur Buddhism", Imre Galamboss ed., *Studies in Chinese Manuscripts: From the Warring States Period to the 20th Century*, pp. 225–248, Budapest: Institute of East Asian Studies, Eötvös Loránd University, 2013.

①「ベゼクリク石窟のウイグル仏教史における歴史的意義」(『トルファンの仏教徒美術―ウイグル仏教を中心に』, 153～172頁, 龍谷大学アジア仏教文化研究センター, 2013年).

③「ウイグル語『金光明最勝王経』をめぐる諸問題」(第50回野尻湖クリルタイ, 於：藤屋旅館, 2013年7月12～15日).

金　鳳珍

③「박근혜의 리더십/론(朴槿恵のリーダーシップ/論)」(延辺大学政治与公共管理学院主催国際会議, 於：延辺大学, 2013年8月19日, [『従現代視角看東亜思想史上的理想人学』, 134～153頁, 延辺大学, 2013年8月]).

③「정약용의 형법 사상에 나타난 공공성(丁若鏞の刑法思想にみる公共性)」(韓国学中央研究院主催国際会議, 於：韓国学中央研究院, 2013年10月1日, [『조선왕조의 공공성(朝鮮王朝の公共性)』, 35～60頁, 韓国学中央研究院, 2013年10月]).

③「崔漢綺的気学与政治論」(中国人民大学主催国際会議, 於：人民大学, 2013年12月1日, [『儒教思想与政治理想』, 157～167頁, 人民大学, 2013年12月]).

③「예에서 만국공법으로: 대일개국 전야에서 신사유람단까지(礼から万国公法へ：対日開国前夜から紳士遊覧団まで)」(韓国国際政治学会・東北亜歴史財団共同主催, KAIS2013年例学術大会, 於：国立外交院, 2013年12月13日, [「동아시아 전통질서의 재해석　과 한반도(東アジア伝統秩序の再解釈と韓半島)」, 17～57頁, 東北亜歴史財団, 2013年12月)]).

楠木　賢道

①「『清朝史叢書』の現代的意義」(〈宮脇淳子，杉山清彦〉，『環(歴史・環境・文明)』，53，222～249頁，藤原書店，2013年).

①書評「『国民国家』と同君連合としての清朝」(『環(歴史・環境・文明)』，55，226～229頁，藤原書店，2013年，[『岡田英弘著作集』第1冊の書評]).

①「満文檔案所見噶爾丹死後清廷・蒙古王公及蔵伝仏教的関係」(『紀念王鍾翰先生百年誕辰学術文集』，426～435頁，中央民族大学出版社，2013年).

①「江戸時代享保年間日本有関清朝及満語研究」(『満語研究』，13-1，75～83頁，黒竜江大学満語研究所，2013年).

久保　亨

①「華北地域概念の形成と日本」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』，5～33頁，(公財)東洋文庫，2013年12月).

②『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』(〈本庄比佐子，内山雅生〉，(公財)東洋文庫，2013年，355頁).

窪添　慶文

①「北魏における弘農楊氏」(『墓誌を通した魏晋南北朝史研究の新たな可能性(科学研究費中間成果報告書，課題番号：22242022，研究代表者：伊藤敏雄)』，62～89頁，2013年5月).

久保田　淳

①「有心と幽玄―俊成と定家の美的理念」(『別冊太陽　百人一首への招待(日本のこころ213)』，146～147頁，平凡社，2013年12月).

②『西行全歌集』(〈吉野朋美〉，岩波書店，2013年，524頁，[校注]).

②『はたらく(人生をひもとく日本の古典2)』(〈佐伯真一，鈴木健一，高田祐彦，鉄野昌弘，山中玲子〉，岩波書店，2013年，157頁).

黒田　卓

③"Some Remarks on Prof. Christian Bromberger's Lecture, "The Jangali Networks: Localism and Internationalism in Gilan Revolutionary Movement (1915–1921)""(羽田記念館特別講演会，於：京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター，2013年12月15日).

③「インド在住ムスリム官僚ミールザー・アブー・ターレブ・ハーン(1753

～1806)の訪欧旅行記をめぐって」(文部科学省共同利用研究・共同研究拠点事業共同研究課題「旅行記史料が結ぶ近世アジアとムスリムの世界観」第2回研究会，於：東京大学法文1号館，2014年2月23日).

氣賀澤　保規

①「房山雲居寺石経事業和"巡礼"—唐代後半期的社会諸相与信仰世界」(復旦大学中華文明国際研究中心訪問学者工作坊第六期『神聖的空間和空間的神聖—中古中国宗教中空間因素的構成与展開論文集』，64～84頁，復旦大学中華文明国際研究中心，2013年8月).

①「隋唐時代への彷徨40年—私が歩んだ中国史：附「氣賀澤保規教授主要業績目録」」(『明大アジア史論集』，18，ii～xvi頁，明治大学東洋史談話会，2014年3月).

②『房山雲居寺石経題記資料集稿Ⅲ—「巡礼題記」拓本・録文篇』(明治大学東アジア石刻文物研究所，2014年，150頁).

②『絢爛的世界帝国　隋唐時代（A History of China 06)』(広西師範大学出版社，2014年，479頁［訳：石暁軍］).

③「東アジアにおける「日本」の始まり—近年発見の百済人「祢軍(でいぐん)墓誌」の理解をめぐって」(東洋大学白山史学会，於：東洋大学，2013年11月30日).

厳　善平

①「中国における少子高齢化とその社会経済への影響—人口センサスに基づく実証分析」(『JRIレビュー』，No. 4，21～41頁，日本総研，2013年3月).

①「教育公平与戸籍身分—基於上海市中小学生問卷調査的実証分析」(〈周海旺〉，『中国人口科学』，第2期，110～117頁，中国社会科学院，2013年4月).

①「流動人口の住宅問題—上海市の事例を中心に」(南亮進・牧野文夫編『中国経済の転換点』，173～194頁，東洋経済新報社，2013年).

①「人口・労働移動政策—農民工の市民化は進むか」(中兼和津次編『中国経済はどう変わったか』，345～378頁，国際書院，2014年1月).

②『中国労働力短缺・工資上漲的現状和原因(中国学　第3輯)』(上海人民出版社，2013年).

黄　東蘭

①「吾国無史乎？—従支那史・東洋史到中国史」(孫江・劉建輝編『亜洲概念史研究』，第1巻，129～158頁，三聯書店(北京)，2013年4月).

①「地域概念の受容と変容—東洋史のなかの『東洋』」(平野健一郎・古田和子・土田哲夫・川村陶子編『国際文化関係史研究』，79～103頁，東京大学出版会，2013年4月).

①「一部没有「開化」的開化史—田口卯吉『支那開化小史』的歴史叙述」(『近代中国知識転型与知識伝播1600-1949—翻訳与概念形成』，1～24頁，中央研究院近代史研究所(台北)，2013年10月，[シンポジウム論文集論文]).

①「歴史学」(『中国年鑑　2013』，222～226頁，社団法人中国研究所発行，毎日新聞社，2013年，[年鑑項目]).

小杉　泰

①「現代イスラームの宗教文化と政治・社会」(『学士会会報』，903，34～45頁，2013年).

①「イスラーム的身体観と生命倫理の再構築—グローバル化時代におけるその意義」(『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』，241～250頁，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター・同附属現代インド研究センター，2013年).

①「イスラームはどう世界につたえられたか」(『広がり続けるイスラームの秘密』，9～81頁，宗教情報センター，2014年1月).

②『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター・同附属現代インド研究センター，2013年，250頁).

③ "Forming a New Stage of Islamic Studies in the Global Age: Asian Initiatives", in 2nd UBD-KU Joint International Seminar: New Horizons in Islamic Studies, 於：スルターン・オマル・アリー・サイフッディーン・イスラーム研究センター(SOASCIS)，ブルネイ・ダールッサラーム大学，25 Nov. 2013.

小浜　正子

②『アジアの出産と家族計画—「産む・産まない・産めない」身体をめぐる政治』(〈松岡悦子〉，勉誠出版，2014年，286頁).

③ "Birth Planning in Socialist China: The Cases of Two Villages from

the 1950s to the 1970s", in 24th International Congress of History of Science, Technology and Medicine (ICHSTM 2013), Manchester, United Kingdom, 23 July 2013.
③「中国農村計画生育的普及—囲繞生殖的技術与権力」("社会文化与近代中国社会転型"五届中国近代社会史国際学術討論会，於：襄陽，2013年8月25日).

小松　久男
①「2012年の歴史学界　回顧と展望　総説」(『史学雑誌』，122-5，1～5頁，2013年5月).
①「タシュケントのアメリカ人」(『れにくさ』，5月2日，250～260頁，2014年3月).
②『ジャポンヤ—イブラヒムの明治日本探訪記』(〈共訳〉，岩波書店，2013年，520頁).

小南　一郎
①「中国の都市革命」(『泉屋博古館紀要』，29輯，1～36頁，泉屋博古館，2013年9月).
①「『白蛇伝』与宋代的杭州」(『国際中国文学研究叢刊』，第2集，11～22頁，上海古籍出版社，2013年10月，[訳：池睿]).
①「杜甫の秦州詩」(『中国文学報』，第83冊，75～95頁，2013年10月).
①「初期の宝巻—銷釈金剛科儀を中心に」(『中国江南唱導文芸研究(科学研究費報告書)』，5～14頁，2014年3月).
②『唐代伝奇小説論—悲しみと憧れと』(岩波書店，2014年，257頁).

近藤　信彰
① "Between Tehran and Sulṭāniyya: Early Qajar Rulers and Their Itinerates", 〈David Durand-Guédy〉, *Turko-Mongol Rulers, Cities and City Life*, pp. 385–416, Leiden: Brill, 2013.
①「アフガニスタンの司法改革—イスラーム法裁判制度を中心に」(大江泰一郎・堀川徹・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国—近代中央ユーラシアの法と社会』，188～208，294～295頁，臨川書店，2014年).
③「サファヴィー朝後期の中央・地方関係—『王達の慣わし』新写本に基づいて」(日本中東学会第29回年次大会，於：大阪大学豊中キャンパス，

2013年5月12日).
③ "Judicial Reform and Sharia in 19th Century Iran", in NIHU Program for Islamic Area Studies, Fourth International Conference "New Horizons in Islamic Area Studies: Encounters, Reflections and Collaborations", Lahore University of Management Sciences, 4 Nov. 2013.
③ "State and Religious Authority in Practice: Vaqf Administration under the Safavids and the Qajars", in International Conference "Mapping Safavid Iran", Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 30 Nov. 2013.

早乙女　雅博

①「小拓紙から見た広開土王碑拓本の分類と年代」(古瀬奈津子編『広開土王碑拓本の新研究』, 47～80頁, 同成社, 2013年7月).
①「お茶の水女子大学本の調査と小拓紙貼り合わせから見た年代」(〈橋本繁〉, 古瀬奈津子編『広開土王碑拓本の新研究』, 141～152頁, 同成社, 2013年7月).
①「高松塚古墳壁画の特別公開」(『史学雑誌』, 122-11, 28～30頁, 史学会, 2013年11月, [コラム]).
①「高句麗東山洞壁画古墳出土青磁獅子形燭台について」(飯島武次編『中華文明の考古学』, 319～331頁, 同成社, 2014年3月).
③「高松塚古墳と高句麗壁画古墳」(於：明治大学, 2013年9月5日, [講演]).

佐藤　健太郎

①「イブン・ハルドゥーン自伝6」(〈中町信孝, 橋爪烈, 原山隆広, 吉村武典　訳・註〉,『イスラーム地域研究ジャーナル』, Vol. 6, 31～49頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2014年3月, [註]).
①「17世紀モリスコの旅行記：ハジャリーのイスラーム再確認の旅」(長谷部史彦編『地中海世界の旅人―移動と記述の中近世史』, 25～53頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2014年3月).
③ "Ibn Khaldun Studies in Japan", in NIHU Program for Islamic Area Studies, Fourth International Conference "New Horizons in Islamic Area Studies: Encounters, Reflections and Collaborations", Lahore University of Management Sciences, 2–4 Nov. 2013.

③「16～18世紀フェスの遺産相続：東洋文庫所蔵獣皮紙文書から」(慶應義塾大学言語文化研究所公募研究「「断絶」と「新生」―キリスト教世界とイスラーム世界におけるその多様なあらわれ」研究会，於：慶應義塾大学，2014年1月11日).

佐藤　宏

①「擺脱城市化的低水平均衡」(『復旦大学学報(社会科学版)』，2013年第3期，48～64頁，復旦大学，2013年3月).

①「民族視角下社会資本対収入的影響―以寧夏回族自治区為例」(『民族研究』，2013年第3期，51～59頁，中国社会科学院民族学・人類学研究所，2013年5月).

① "Escaping Low-Level Equilibrium of Urbanization: Institutional Promotion, Social Interaction and Labor Migration", *China Economist*, 9-1, pp. 68–85.

②『中国収入差距変動分析：中国居民収入分配研究Ⅳ』(人民出版社(北京)，2013年，629頁).

② *Rising Inequality in China: Challenge to a Harmonious Society*, 〈Li Shi, Terry Sicular〉, New York and Cambridge: Cambridge University Press, 2013, 499p.

佐藤　仁史

①「従地方報看江南市鎮社会在1920年代的嬗変―以新南社的活動為中心」(連玲玲編『万象小報―近代中国城市的文化・社会与政治』，307～408頁，中央研究院近代史研究所，2013年9月).

①「近代江南における村落社会と芸能―宣巻と堂名を中心に」(氷上正ほか編著『近現代中国の地域社会と芸能―皮影戯・京劇・説唱』，1～30頁，好文出版，2013年11月).

①「日本的近現代中国基層社会史研究与田野調査」(邵軒磊・石之瑜・何培忠編『戦後日本的中国研究―口述知識史(第二冊)』，229～255頁，国立台湾大学政治学系中国大陸暨両岸関係教学与研究中心，2013年11月).

①「民間信仰からみる江南農村と華北農村」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』，201～226頁，(公財)東洋文庫，2013年12月).

①「近代江南の漁民と天主教」(『歴史評論』，765，37～46頁，2014年1月).

澤江　史子

①「トルコとインドの国民統合と世俗主義」(唐亮・松里公孝編『ユーラシア地域大国の統治モデル』，239～259頁，ミネルヴァ書房，2014年).

塩沢　裕仁

①「大青山北麓の六鎮関連遺跡」(『大青山一帯の北魏城址の研究(平成22～25年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書，課題番号：22320142，研究代表者：佐川英治)』，67～123頁，2013年6月).

②『後漢魏晋南北朝都城境域研究』(雄山閣，2013年，374頁).

②『東方文化学院旧蔵建築写真目録』(〈平勢隆郎，関紀子，野久保雅嗣〉，東京大学東洋文化研究所付属東洋学研究情報センター，2014年，347頁).

③「中国歴代帝陵の現状と課題」(法政大学史学会，於：法政大学外濠校舎S405教室，2013年6月1日).

斯波　義信

②『中国都市史：A History of Chinese Towns and Cities』(北京大学出版社，2013年，257頁，[訳：布和]).

嶋尾　稔

①「「売亭文契」に関する覚書　其の二」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，45，259～281頁，慶應義塾大学言語文化研究所，2014年3月).

③「江戸時代の日本人のベトナムに関する知識とイメージ」(シンポジウム「越日関係史の回顧と展望：中部ベトナムの視点から」，於：ベトナム・ダナン市，2013年11月23日，[『シンポジウム紀要』，60～68頁]).

島田　竜登

①「海域アジアにおける日本銅とオランダ東インド会社」(竹田和夫編『歴史のなかの金・銀・銅―鉱山文化の所産(アジア遊学166)』，48～58頁，勉誠出版，2013年7月).

①「近世ジャワ砂糖生産の世界史的位相」(秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー:「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』，148～171頁，ミネルヴァ書房，2013年11月).

① "Economic Links with Ayutthaya: Changes in Networks between Japan, China, and Siam in the Early Modern Period", *Itinerario:*

International Journal on the History of European Expansion and Global Interaction, 37(3), pp. 92–104, Dec. 2013.

① "The Long-term Pattern of Maritime Trade in Java from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century", *Southeast Asian Studies*, 2(3), pp. 475–497, Dec. 2013.

① "Cross-Cultural Migrations in Japan in a Comparative Perspective, 1600–2000", 〈Leo Lucassen, Osamu Saito〉, Jan Lucassen and Leo Lucassen eds., *Globalising Migration History: The Eurasian Experience (16th–21st Centuries)*, Brill Academic Publishers, Mar. 2014.

清水　信行

③「軒瓦文様の伝播—唐から東へ」(東洋文庫 2013 年度春期東洋学講座「東洋文庫と本の世界Ⅲ」, 於：(公財)東洋文庫, 2013 年 6 月 28 日, [『東洋学報』, 95-2, 61 ～ 63 頁, (公財)東洋文庫, 2013 年 9 月]).

真道　洋子

①「中東の美術工芸品に見られるナツメヤシ意匠」(石山俊・縄田浩志編『アラブのなりわい生態系 2　ナツメヤシ』, 94 ～ 100 頁, 臨川書店, 2013 年 12 月).

①「フスタート遺跡出土エナメル彩装飾ガラスをめぐって」(『第 20 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』, 28 ～ 36 頁, ヘレニズム～イスラーム考古学研究会, 2013 年 12 月).

③「フスタート遺跡出土品に見る水と容器～都市と水：ナイルから家庭へ～」(シンポジウム「水を巡るイスラームの生活と美」, 於：早稲田大学, 2013 年 10 月 5 日).

③「日本調査隊によるエジプト, フスタート遺跡の発掘調査」(国立科学博物館企画展『砂漠を生き抜く—人間・動物・植物の知恵』関連講演会, 於：国立科学博物館, 2013 年 12 月 15 日).

③「The Past and Present of Museum of Islamic Museum of Art in Cairoカイロ・イスラーム芸術博物館の歴史と現状」(早稲田大学高等研究所国際セミナー：イスラーム美術コレクションの形成—ヨーロッパ, アジア, エジプト, 於：早稲田大学, 2014 年 2 月 18 日).

新免　康

①「新疆の文字」(梅村坦・江上綏編『文字から見る歴史と文化—江上波夫蒐集品を中心に』, 133 ～ 135 頁, 山川出版社, 2013 年 11 月).

① "Buzurg Khan Tora and His Mausoleum at the Katta Kenagas Village", 〈Kawahara Yayoi〉, Shinmen Yasushi, Sawada Minoru and Edmund Waite eds., *Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang*, pp. 107–125, Paris: Librairie d'Amerique et d'Orient, Jean Maisonneuve Successeur, 2013.

①「20 世紀前半期の新疆におけるムスリム住民の活動とスウェーデン伝道団」(『アフロ・ユーラシア大陸の都市と国家(中央大学人文科学研究所研究叢書 59)』, 397 ～ 468 頁, 中央大学出版部, 2014 年).

②*Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang*, 〈Sawada Minoru, Edmund Waite〉, Paris: Librairie d'Amerique et d'Orient, Jean Maisonneuve Successeur, 2013, xvi + 242p.

杉山　清彦

①「『清朝史叢書』の現代的意義」(『環(歴史・環境・文明)』, 53, 222 ～ 249 頁, 藤原書店, 2013 年 4 月).

①「歴史を見る眼と歴史から見る眼　『岡田英弘著作集　第一巻　歴史とは何か』を読んで」(『環(歴史・環境・文明)』, 55, 229 ～ 233 頁, 藤原書店, 2013 年 10 月).

①「大清帝国の支配秩序と宮廷演劇—マンジュ王朝の祝祭と王権」(磯部彰編『清朝宮廷演劇文化の研究』, 613 ～ 640 頁, 勉誠出版, 2014 年 2 月).

鈴木　恵美

①「エジプト再民主化プロセスにみる「軍事共和制」の強化」(『国際問題』, 629 号, 5 ～ 16 頁, 国際問題研究所, 2014 年).

②『エジプト革命—軍とムスリム同胞団, そして若者たち(中公新書)』(中央公論新社, 2013 年, 270 頁).

鈴木　均

①「アフガニスタン」(『アジア動向年報 2013』, 573 ～ 598 頁, ジェトロ・アジア経済研究所, 2013 年 5 月).

①「中東政治経済レポート：中東アラブ諸国の流動化と混迷化の深まり」

(『中東レビュー』，準備号，1～2頁，ジェトロ・アジア経済研究所，2013年9月).
①「中東政治経済レポート:中東政治の変容とイスラーム主義の限界」(『中東レビュー』，1，3～4頁，ジェトロ・アジア経済研究所，2014年2月).
①「ロウハーニー大統領の登場から核協議の進展へ：米国オバマ政権の対イラン外交の転換と日本」(『中東レビュー』，1，46～61頁，ジェトロ・アジア経済研究所，2014年2月).
③ "A Critical Review of the History of Iranian Cinema: Searching for Their Own Images"(日本中東学会第29回年次大会企画セッション Comparative Studies on Iranian Cinema and Its Social Contexts，於：大阪大学豊中キャンパス，2013年5月12日).

鈴木　立子
①「元朝における儒学的理念の浸透と教育」(山本英史編『中国近世の規範と秩序』，66～93頁，(公財)東洋文庫，2014年2月，[大島立子名義]).

砂山　幸雄
①「民族の相克と教育—満洲における教育改革の挫折と「排日教科書」批判」(平野健一郎・古田和子・土田哲夫・川村陶子編『国際文化関係史研究』，322～345頁，東京大学出版会，2013年4月).

妹尾　達彦
①「江南文化の系譜—建康と洛陽(一)」(『六朝学術学会報』，14，69～141頁，六朝学術学会，2013年).
① "Trends in the Comparative History of the Traditional Capitals in East Asia: Origins of "the Traditional Capitals Epoch"", *Asian Research Trends New Series*, No. 8, pp. 43–83, The Toyo Bunko, 2013.
①「隋唐長安の交通と城内外の土地利用」(橿原考古学研究所編『橿原考古学研究所論集第16』，284～290頁，八木書店，2013年).
①「太極宮から大明宮へ—唐長安における宮城空間と都市社会の変貌」(新宮学編『近世東アジア比較都城史の諸相』，17～59頁，白帝社，2014年).
①「東アジア都城時代の形成と都市網の変遷—四～十世紀」(『アフロ・ユーラシア大陸の都市と国家(中央大学人文科学研究所研究叢書59)』，73～217頁，中央大学出版部，2014年).

関尾　史郎

①「「呉嘉禾六(二三七)年四月都市史唐玉白収送中外估具銭事」試釈」(『東洋学報』, 95-1, 33 ～ 57 頁, (公財)東洋文庫, 2013 年 6 月).

①「河西磚画墓・壁画墓的空間与時間―読《甘粛出土魏晋唐墓壁画》一書後」(『敦煌吐魯番研究』, 13, 549 ～ 562 頁, 上海古籍出版社, 2013 年 8 月).

①「「前秦建元廿(三八四)年三月高昌郡高寧県都郷安邑里戸籍」新釈」(『東方学』, 127, 35 ～ 49 頁, 東方学会, 2014 年 1 月).

②『環東アジア地域の歴史と「情報」』(知泉書館, 2014 年, 296 頁).

③「木が紙にかわる時―古代中国, 西北地域の埋葬文書から」(関西大学東西学術研究所「非典籍出土資料研究班」研究会, 於：関西大学千里山キャンパス児島惟謙館, 2013 年 11 月 30 日).

曽田　三郎

①「近代寧波の商人と日中貿易」(高津孝編・小島毅監修『くらしがつなぐ寧波と日本(東アジア海域に漕ぎだす 3)』, 224 ～ 243 頁, 東京大学出版会, 2013 年 5 月).

②『中華民国の誕生と大正初期の日本人』(思文閣出版, 2013 年, 312 頁).

高田　幸男

①「『アジアのなかの明治大学』を探る」(『大学史紀要』, 18, 10 ～ 23 頁, 明治大学, 2014 年 3 月).

①書評「紀旭峰『大正期台湾人の「日本留学」研究』」(『大学史紀要』, 18, 209 ～ 219 頁, 明治大学, 2014 年 3 月).

高遠　拓児

①「学界回顧 2013(東洋法制史, 東アジア・内陸アジア・インド・東南アジア)」(『法律時報』, 2013-12, 334 ～ 336 頁, 日本評論社, 2013 年 11 月).

①「清初の坊刻則例集について―嵇永仁輯『集政備考』を中心に」(山本英史編『中国近世の規範と秩序』, 136 ～ 165 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 2 月).

①書評「鈴木秀光著「鎖帯鉄桿・鎖帯石礅と清代後期刑事裁判」」(『法制史研究』, 63, 266 ～ 268 頁, 法制史学会, 2014 年 3 月).

③「清初則例編纂考：会典前夜の清朝の例」(第 62 回東北中国学会, 於：岩手大学, 2013 年 5 月 26 日, [『集刊東洋学』, 110, 150 ～ 151 頁, 中国

文史哲研究会，2014年1月]).

高橋　英海

① "The Poems of Barhebraeus: A Preliminary Concordance", *Христианский Восток (Новая серия)*, Vol. 6, pp. 78–139, Государственный Эрмитаж/Российская академия наук, 2013.

① "Reception of Islamic Theology among Syriac Christians in the Thirteenth Century: The Use of Fakhr al-Dīn al-Rāzī in Barhebraeus", *"Candelabrum of the Sanctuary", Intellectual History of the Islamicate World*, Vol. 2, pp. 170–192, Brill, 2014.

③「西洋古典籍の古代・中世西アジアにおける受容」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2013年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究」，於：(公財)東洋文庫，2013年9月28日).

③ "Some Thoughts on Syriac Christianity in Asia: With a Report on Visits to Christian Sites in Uzbekistan and Kyrgyzstan", in Dipartimento di civiltà e forme del sapere, Università di Pisa, 11 Nov. 2013.

③ "Astronomie à l'époque islamique" & "Météorologie", in 11e Table ronde de la Société d'études syriaques «Les sciences en syriaque», Institut protestant de théologie, Paris, 15 Nov. 2013.

瀧下　彩子

①「旅先としての華北」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』，149～174頁，(公財)東洋文庫，2013年12月).

①「戦場のStarSystem：李凡夫の抗日戦争漫画」(『連環画研究』，3号，15～37頁，北海道大学連環画研究会，2014年3月).

③「満洲温泉案内記を読む」(国際善隣協会公開フォーラム，於：国際善隣協会，2014年3月7日).

武内　紹人

① "Glegs tshas: Writing Boards of Chinese Scribes in Tibetan-ruled Dunhuang", Brandon Dotson, Kazushi Iwao, and Tsuguhito Takeuchi eds., *Scribes, Texts, and Rituals in Early Tibet and Dunhuang*, pp. 101–110, Wiesbaden: Dr. Ludwig Reichert Verlag, 2013.

①「BumthangkhaとBrokkat—中央ブータン(ブムタン地域)における言

語調査報告」(『神戸外大論叢』, 64-3, 53 ～ 68 頁, 神戸市外国語大学研究会, 2014 年 3 月).

② *Current Issues and Progress in Tibetan Studies: Proceedings of the Third International Seminar of Young Tibetologists*, 〈Kazushi Iwao, Ai Nishida, Seiji Kumagai, Meishi Yamamoto〉, Journal of Research Institute, Kobe City University of Foreign Studies, 51, 2013, xi + 581p.

③ "Varieties of Tibetan Manuscripts and Xylographs from Khara-khoto and Etsin-gol", in Conference: Manuscript and Xylograph Tradition in the Tibetan Cultural Sphere Regional and Periodical Characteristics, University of Hamburg, 15–18 May 2013 [招待講演] .

③ "Old Tibetan sla and zla 'moon'", in The 13th Seminar of the International Association of Tibetan Studies, Ulaanbaatar, Mongolia, July 2013.

武内　房司

①「先天道からカオダイ教へ：ベトナムに根づく中国近代の民衆宗教」(武内房司編『戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教』, 265 ～ 289 頁, 有志舎, 2014 年 3 月).

①「西南中国のエコミュージアム：少数民族の文化保存と文化資源」(武内房司・塚田誠之編『中国の民族文化資源：南部地域の分析から』, 401 ～ 420 頁, 風響社, 2014 年 3 月).

②『戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教』(有志舎, 2014 年, 313 頁).

②『中国の民族文化資源：南部地域の分析から』(〈塚田誠之〉, 風響社, 2014 年, 432 頁).

武田　幸男

①「広開土王碑の真意をたずねて」(古瀬奈津子編『広開土王碑拓本の新研究』, 3 ～ 24 頁, 同成社, 2013 年 7 月).

①「「石灰拓本」着墨パターン法と「御茶の水女子大学本」」(古瀬奈津子編『広開土王碑拓本の新研究』, 153 ～ 173 頁, 同成社, 2013 年 7 月).

①「広開土王碑「宮崎県総合博物館本」の研究」(『宮崎県地域史研究』, 29, 1 ～ 18 頁, 宮崎県地域史研究会, 2014 年 3 月).

①「学習院大学所蔵「広開土王碑」拓本の研究」(『東洋文化研究』, 16, 283 ～ 324 頁, 学習院大学東洋文化研究所, 2014 年 3 月).

①「集安・高句麗二碑の研究に寄せて」(『プロジェクト研究』，121 ～ 129 頁，早稲田大学総合研究機構，2014 年 3 月).

多田　狷介

① 書評「『中共革命根拠地ドキュメント：一九三〇年代，コミンテルン，毛沢東，赤色テロリズム，党内大粛清』(小林一美著，御茶の水書房，2013 年，672 頁)」(『週刊読書人』，3029，2014 年 2 月).

立川　武蔵

② *Buddhist Fire Ritual in Japan*, 〈M. Kolhatkar〉, Vajra Publications, 2013, 198p.

②『ヨーガの哲学』(講談社，2013 年，220 頁).

②『聖なるもののかたち―ユーラシア文明を旅する』(岩波書店，2014 年，192 頁).

田仲　一成

①「中国近代都市における農村伝統祭祀の復元の目的とその効果」(呉秀卿編『東アジアの伝統祝祭の再発見』，115 ～ 133 頁，漢陽大学校東アジア文化研究所，2013 年 5 月，[原文：ハングル]).

①「従二十世紀香港潮人祭祀活動看中国伝統国学的界限」(『国学新視野』，2013 年冬季号，78 ～ 80 頁，香港中国文学院，2013 年 12 月).

①「清初朝鮮使節燕行路程上所見的商業演劇的形成」(『曲学』，第 1 巻，333 ～ 359 頁，上海戯劇学院曲学研究中心，2013 年 12 月).

①「元代仏典《仏説目連救母経》向《目連宝巻》与閩北目連戯的文学性演変」(『人文中国学報』，第 19 期，57 ～ 120 頁，香港浸会大学中文系，2013 年 12 月).

田中　仁

①「1980 年代における中共党史研究の再建と展開(1980 年代中共党史研究制度的重建与展開)」(『大阪大学中国文化フォーラムディスカッションペーパー』，2，2014 年).

②『日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」①　東アジアリスク社会―発展・共識・危機(OUFCブックレット・第 2 巻)』(〈大阪大学中国文化フォーラム〉，大阪大学中国文化フォーラム，2014 年，220 頁).

②『日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」② 21世紀の日中関係—青年研究者の思索と対話(OUFCブックレット・第3巻)』(〈大阪大学中国文化フォーラム〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2014年, 369頁).
②『日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」③ 中国革命・社会変容と世界—贛州会議中国語論文選(OUFCブックレット・第4巻)』(〈大阪大学中国文化フォーラム〉, 大阪大学中国文化フォーラム, 2014年, 93頁).
③「1980年代党史研究制度的重建和展開」(『第2届中国当代史研究工作坊—1950年代的中国』, 於:京都大学, 2013年12月8日).

田中 比呂志
①「戦時期華北在住日本人の華北認識」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』, 123～147頁, (公財)東洋文庫, 2013年12月).
①「集体化時代中国農村社会的家族:山西省L市G村社区宗族結合的展開」(山西大学中国社会史研究中心編『社会史研究』, 第三輯, 136～150頁, 商務印書館, 2013年12月).
①「華北農村訪問調査報告(5)—2012年8月, 山西省P県D村」(〈孫登洲, 古泉達矢〉, 『東京学芸大学紀要(人文社会科学Ⅱ)』, 65, 61～70頁, 東京学芸大学, 2014年1月).

C. A. ダニエルス
① "Introduction: Upland Peoples in the Making of History in Northern Continental Southeast Asia", *Southeast Asian Studies*, Vol. 2, No. 1, pp. 5–27, Apr. 2013.
① "Blocking the Path of Feral Pigs with Rotten Bamboo: The Role of Upland Peoples in the Crisis of a Tay Polity in Southwest Yunnan, 1792 to 1836", *Southeast Asian Studies*, Vol. 2, No. 1, pp. 133–170, Apr. 2013.
① Bookreview "Liew-Herres Foon Ming, Volker Grabowsky and Renoo Wichasin Chronicle of Sipsòng Panna: History and Society of a Tai Lü Kingdom Twelfth to Twentieth Century (Chiang Mai, Mekong Press, 2012). ISBN 978-616-9053-3-9", *Journal of the Siam Society*, Vol. 101, pp. 255–262, 2013.
②『東南アジア大陸部 山地民の歴史と文化』(言叢社, 2014年, 349頁).

田村　晃一

①「渤海王陵・貴族墓論(その2)『六頂山渤海墓葬』を読んで」(『青山史学』, 第32号, 2014年1月).

P. ツィーメ

① "Ein alttürkischer Maitreya-Hymnus und mögliche Parallelen", *Die Erforschung des Tocharischen und die alttürkische Maitrisimit. Symposium anlässlich des 100. Jahrestages der Entzifferung des Tocharischen. Berlin, 3. und 4. April 2008, hrsg. von Y. Kasai, A. Yakup, D. Durkin-Meisterernst* (Silk Road Studies 17), pp. 403–416, Turnhout: Brepols Publishers, 2013.

① ""Toyın körklüg": An Old Uigur Buddha Poem"(『内陸アジア言語の研究(Studies on the Inner Asian Languages)』, 28, 7～37頁, 神戸市外国語大学外国学研究所, 2013年).

① "Turkic Christianity in the Black City (Xaraxoto)", Li Tang and Dietmar W. Winkler eds., *From the Oxus River to the Chinese Shores: Studies on East Syriac Christianity in China and Central Asia*, pp. 99–104, Wien/Berlin: LIT Verlag, 2013.

① "Stifter und Texte von der Seidenstraße nach Zeugnissen des altuigurischen Buddhismus", *Stifter und Mäzene und ihre Rolle in der Religion: Von Königen, Mönchen, Vordenkern und Laien in Indien, China und anderen Kulturen, hrsg. von B. Schuler*, pp. 43–55, 190–193, Wiesbaden: Harrassowitz, 2013.

① "Paul Pelliot, les études turques et quelques notes sur la grotte B 464 de Mogao", J.-P. Drège and M. Zink eds., *Paul Pelliot: de l'histoire à la légende*, pp. 419–432, Paris: Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 2013.

塚原　東吾

①「〈帝国〉とテクノサイエンス」(『現代思想(特集ネグリ＋ハート:〈帝国〉・マルチチュード・コモンウェルス)』, 41(9), 189～199頁, 2013年7月).

①「中国での英字新聞に掲載された19世紀の気象記録」(『歴史地理学』, 55-5 (267), 74～86頁, 2013年12月).

① "The Meteorological Observations of the "Vereenigde Oost-Indische Compagnie (VOC)"—What can be learned from them?"(〈Gaston R. Demarée, Takehiko Mikami, Masumi Zaiki〉, 『歴史地理学』, 55-5(267),

99～106頁，2013年12月）.
①「幕末期（1859-1862年）のロシア領事館における気象観測記録と気象庁データの均質化にもとづく函館の気温の長期変動」（〈財城真寿美，木村圭司，戸祭由美夫〉，『地理学論集』，Vol. 89，No.1，20～25頁，北海道地理学会，2014年1月）.
③「科学史から見た西洋博物誌―日本との関係」（東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2013年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究」，於：（公財）東洋文庫，2013年9月29日）.

辻本　裕成
①「『医談抄』の誤脱をめぐって―『医談抄』注釈余滴」（『南山大学日本文化学科論集』，14，17～28頁，南山大学日本文化学科，2014年3月）.

土田　哲夫
①「中国抗戦的展開与宣戦問題」（『当代日本中国研究　第二輯　法律・対外関係』，87～123頁，中国社会科学文献出版社，2014年3月）.
①「宋美齢訪米外交成功の背後―蔣家政治と心身症」（齋藤道彦編『中国への多角的アプローチⅢ』，49～80頁，中央大学出版部，2014年3月）.
②『国際文化関係史研究』（〈平野健一郎，古田和子，川村陶子〉，東京大学出版会，2013年，572頁）.
③「近代中国的民間団体和国際関係：“世界和平聯合”中国分会的事例研究」（第五届中国近代社会史国際学術研討会，於：中国湖北省・襄陽，2013年8月24日，［『“社会文化与近代中国社会転型”―第五届中国近代社会史国際学術研討会論文集』，上冊，177～192頁］）.
③「開羅会議与日本」（紀念開羅宣言七十周年学術研討会，於：台北，2013年12月1日）.

坪井　祐司
①「英領マラヤにおけるマレー人像の相克：スランゴル州における対マレー人土地政策の展開」（『マレーシア研究』，2，72～87頁，日本マレーシア学会，2013年10月）.
②『『カラム』の時代Ⅴ：近代マレー・ムスリムの日常生活』（〈山本博之〉，京都大学地域研究情報統合センター，2014年，42頁）.
③「ラッフルズと海の東南アジアの「近代」」（東洋文庫2013年度春期東洋

学講座「東洋文庫と本の世界Ⅲ」，於：(公財)東洋文庫，2013年6月17日，[『東洋学報』，95-2，59～61頁，(公財)東洋文庫，2013年9月])．

寺田　浩明

①「非ルール型法論と近代法論―議論の次元の整理」(『Academia Juris Booklet』，33(2013)，4～39頁，北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター，2014年1月)．

③「現代中国"維権(権利擁護)"運動の法制史的考察」(国際シンポジウム「現代中国社会の歴史淵源」，於：京都大学，2014年2月22日)．

東條　哲郎

①「新刊紹介：岩崎育夫著『物語　シンガポールの歴史』」(『史学雑誌』，122-12，103頁，史学会，2013年12月)．

③「近代マレー半島ペラにおける華人錫採掘と非華人リース所有」(日本マレーシア学会第22回研究大会，於：同志社大学今出川キャンパス，2013年12月14日)．

徳原　靖浩

①「史料を探す，史料から学ぶ」(三浦徹編『イスラームを学ぶ―史資料と検索法(イスラームを知る3)』，58～87頁，山川出版社，2013年11月)．

③「東洋文庫における地域研究資源の情報化・共有化の取り組み」(〈相原佳之〉，PNC Annual Conference and Joint Meeting 2013・NIHU企画セッション「人間文化研究資源の調査と情報化」，於：京都大学，2013年12月12日，[NIHU研究資源共有化事業委員会編集『PNC2013　NIHU企画セッション報告集』，85～101頁，2014年3月，[英訳"Computerization and Utilization of Area Studies Resources at Toyo Bunko (The Oriental Library)"，183～195頁])．

戸倉　英美

①書評「古詩誕生の謎に挑む―柳川順子『漢代五言詩歌史の研究』」(季刊『創文』，2013夏(No. 10)，5～7頁，創文社，2013年7月)．

富澤　芳亜

①「論日本対中国棉紡織史研究的成果与課題」(『東海歴史研究集刊』，1，

187 ～ 226 頁，東海大学(台湾)，2013 年 9 月).
①「[コラム] 近代的企業」(岡本隆司編『中国経済史』，273 ～ 274 頁，名古屋大学出版会，2013 年 11 月).
①「1920 至 1930 年代厳裕棠家族経営的紡織企業」(李培徳編著『大過渡—時代変局中的中国商人』，142 ～ 183 頁，商務印書館(香港)，2013 年 11 月).
①「新聞記事から見る華北認識」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第 76)』，79 ～ 102 頁，(公財)東洋文庫，2013 年 12 月).
①「内外綿上海支店長の回顧—田中朋次郎氏(内外綿)インタビュー」(〈桑原哲也〉，『近代中国研究彙報』，第 36 号，23 ～ 57 頁，(公財)東洋文庫，2014 年 3 月).

鳥海　靖

②『もういちど読む山川日本近代史』(山川出版社，2013 年，265 頁).
③「東アジアと近代日本—国際協調から戦争の時代へ」(Jプレゼンスアカデミー Jシニアーズアカデミー，於：Jプレゼンスアカデミー青山一丁目教室，2013 年 8 月 26 日他 [全 7 回]).
③「近代日本の転機を考える—国際社会の中の日本の歩み」(朝日カルチャーセンター講座，於：朝日カルチャーセンター新宿教室，2013 年 4 月 9 日～ 2014 年 3 月 25 日 [全 22 回]).

中兼　和津次

① "Rural-Urban Divide and the Lewsian Turning Point in Japan and China", Xiaoming Huang ed., *Modern Economic Development in Japan and China: Developmentalism, Capitalism, and the World Economic System*, pp. 172–191, Palgrave, 2013.
① "China's Economic Development and Sino=Japanese Relationship: Beyond the Flying Geese Pattern Theory", *The Journal of Contemporary China Studies*, 2, pp. 29–54, Waseda Institute of Contemporary Chinese Studies, 2013.
①「価格制度—経済市場化の行方」(中兼和津次編『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』，4 ～ 7 頁，国際書院，2014 年 2 月).
① 書評「「曖昧な制度」とは何か—加藤弘之『「曖昧な制度」としての中国型資本主義』を読んで」(『中国経済研究』，11 月 1 日，47 ～ 59 頁，中国

経済学会，2014年3月).
②『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』(国際書院，2014年，466頁).

長沢　栄治
①「アラブ革命をめぐる研究文献の紹介」(『歴史と地理　世界史の研究』，236，35～38頁，山川出版社，2013年8月).
①「エジプトに彷徨う「ナセルの亡霊」—7月3日が突きつけた課題」(『世界』，849，243～247頁，岩波書店，2013年11月).
①「エジプト革命の課題—アラブ革命の展開の中で」(『現代思想』，47-17，190～195頁，青土社，2013年12月).
③「アラブ革命と中東の今後—エジプトを中心に」(山梨近代史の会，於：山梨県立大学，2014年1月17日).
③「再論：アラブ主義の現在」(早稲田大学イスラーム地域研究機構「中東政治・経済の構造変動とイスラーム・アラブの役割」研究会，於：京都大学，2014年3月9日).

永田　雄三
① "19. Yüzyıl Ortalarında Manisa Kazası ve Karaosmanoğulları", *Prof. Dr. Özer Ergenç'e Armağan*, pp. 256–276, İstanbul: Bilge Kültür Sanat, Sept. 2013.

中谷　英明
① "The Momenta behind Changes in Religious Currents in Ancient and Medieval India", *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, 58, pp. 127–131, (財)東方学会, 2013.
①「洞窟八詩篇訳注—八頌品(はちじゅぼん)の研究」(『奥田聖應先生頌寿記念　インド学仏教学論集』，526～542頁，佼成出版社，2014年3月).
②『ブッダの認識論，あるいはこころの可能性について—「闘諍篇」中核部(862–874)訳注』(龍谷大学現代インド研究センター，2014年，25頁).
③「仏教興起のモメンタム (The Momentum behind the Rise of Buddhism)」(第58回国際東方学者会議，於：日本教育会館，2013年5月24日).

長縄　宣博

② *Regional Routes, Regional Roots? Cross-Border Patterns of Human Mobility in Eurasia*, 〈So Yamane〉, Sapporo: Slavic Research Center, 2014, 111p.

③ "The Red Sea Becoming Red? The Bolsheviks' Commercial Enterprise in the Hijaz and Yemen, 1924–1938", in The 5th East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies, Osaka University of Economics and Law, 10 Aug. 2013.

③「協力者か攪乱者か？ロシア帝国のタタール人」(2013年度(第111回)史学会大会公開シンポジウム，於：東京大学本郷キャンパス，2013年11月9日，[『史学雑誌』，123-1，117～118頁，(公財)史学会，2014年1月]).

中見　立夫

①「メルセ—体制変動期における"モンゴル人"インテリゲンツィヤの軌跡」(趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編『講座　東アジアの知識人』，第3巻，82～98頁，有志舎，2013年12月).

① "Prof. EGAMI Namio and His Excavation at Olon Süme: The Search for Old Royal Palace-City of the Önggüt in Inner Mongolia", Verbiest Institute K. U. Leuven ed., *Christianity and Sino-Mongolian Studies: From Historical Aspects to New Perspectives* [Leuven Chinese Studies 28], pp. 73–82, Leuven: Ferdinand Verbiest Institute, 2013.

①「北京への途—外藩モンゴル王侯による「年班」と清朝宮廷文化の受容」(磯部彰編『清朝宮廷演劇文化の研究』，579～594頁，勉誠出版，2014年2月).

①「学習院における「東洋学」の形成と資料収集・出版をめぐって」(『東洋文化研究』，第16号，251～282頁，学習院大学東洋文化研究所，2014年3月).

③ "History of Mongol Studies in Japan and Collections of Mongolian Sources", in The International Conference "Cultural Heritage of the Mongols: Manuscript and Archival Collections in St. Petersburg and Ulaanbaatar", Russia, St. Petersburg, 19–20 Apr. 2013.

中村　元哉

①「相反する日本憲政観—美濃部達吉と張知本を中心に」(川島真・劉傑編『対立と共存の歴史認識—日中関係150年』，171～190頁，東京大学出版

会，2013年8月）.
③「日本学界的日記研究動向―従西川祐子的日記論談起」(「日記中的性別」工作坊会議，於：中央研究院近代史研究所(台北)，2013年8月2日).
③「戦時中国的憲法制定史」(中日戦争国際共同研究第五届学術研討会，於：中国西南大学(重慶)，2013年9月14日).
③「総裁批簽的公開対日本学界的影響」(新史料・新視野―総裁批簽与戦後中華民国史研究学術研討会，於：中正紀念堂(台北)，2013年11月22日).

新村　容子
③「アヘンと近代中国」(就実大学史学会2013年度公開学術講演会，於：就実大学，2013年11月30日，[招待講演]).

西　英昭
①「オランダ滞在記―図書館及び関連情報の私的備忘録」(『東洋法制史研究会通信』，24，1～5頁，東洋法制史研究会，2013年8月).
①「中華民国民法に至る立法過程の初歩的検討―夫婦財産制を素材に」(山本英史編『中国近世の規範と秩序』，279～329頁，(公財)東洋文庫，2014年2月).
①書評「(批評と紹介)黄源盛纂輯『大理院民事判例輯存』」(『東洋学報』，95-4，422～429頁，(公財)東洋文庫，2014年3月).

西尾　寛治
③ "Melaka: A Model of Malay Islamic States", in the Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks. State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, Toyo Bunko, 8 Mar. 2014 [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 5, pp. 60–64, The Toyo Bunko, Mar. 2014.].

西村　陽子
①「山西省代県所在の晋王墓群」(『アフロ・ユーラシア大陸の都市と国家(中央大学人文科学研究所研究叢書59)』，219～258頁，中央大学出版部，2014年3月).
①「高昌故城調査の統合による探検隊調査遺構の同定―地図史料批判に基づく都市遺跡・高昌の復原」(〈北本朝展〉，『高田時雄教授退職記念学術論

文集』，日英文分冊，219～258頁，臨川書店，2014年3月）．
③ “Criticism of Maps: Methodological Development for the Re-discovery of Silk Road Ruins and the Value of Sources; 地図史料批判：方法論の開拓によるシルクロード遺跡と史料価値の再発見”（〈Asanobu Kitamoto〉，第58回国際東方学者会議，於：日本教育会館，2013年5月24日）．
③ “Connecting Maps, Photographs and Satellite Images: Methodology for a New Documentation of Karakhoja Site”, 〈Erika Forte〉, in Collegium Turfanicum, Berlin, Germany, Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Turfanforschung, 16 Dec. 2013.
③「『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブ」とシルクロード調査への応用」（Japan Art Documentation Society（JADS）第59回見学会・第82回研究会　開かれた東洋文庫へ，於：（公財）東洋文庫，2014年2月15日）．

延廣　眞治
①「韓国人専家による日本近世文学研究と，日本人研究者による朝鮮古典文学味読」（『アジア遊学』，163号，14～28頁，勉誠出版，2013年4月）．
②『円朝全集』（〈二村文人〉，第5巻，岩波書店，2013年，536頁）．

八尾師　誠
①「イラン国民議会内規（Nezāmnāme-ye Dākhelī-ye Majles-e Shūrā-ye Mellī）の制定とその背景」（八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』，3～30頁，（公財）東洋文庫，2014年3月）．
①翻訳「国民議会内規」（〈遠藤健太郎，倉方慶明，為永憲司〉，八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』，63～101頁，（公財）東洋文庫，2014年3月）．
②『全訳　イラン・エジプト・トルコ議会内規』（〈池田美佐子，粕谷元〉，（公財）東洋文庫，2014年，411頁）．

濱下武志
③「モリソン・コレクション」（東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2013年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究」，於：（公財）東洋文庫，2013年9月29日）．

濵島　敦俊

①「明代江南は「宗族社会」なりしや」(山本英史編『中国近世の規範と秩序』, 94 ～ 135 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 2 月).

濱本　真実

③ "Islam in Holy Russia: Changes in Meaning of 'Being Muslim' in the Russian Orthodox Society in the 17th Century", in "The Moscow Patriarchate (1589–1721): Power, Belief, Image and Legitimacy", International and Interdisciplinary Conference, Leipzig, Germany, 19–20 Sept. 2013.

林　俊雄

①「遊牧国家における集落と都市—匈奴から柔然まで」(『大青山一帯の北魏城址の研究(平成 22 ～ 25 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書, 課題番号：22320142, 研究代表者：佐川英治)』, 161 ～ 207 頁, 2013 年).

① "The Birth and the Maturity of Nomadic Powers in the Eurasian Steppes: Growing and Downsizing of Elite Tumuli", *Ancient Civilizations from Scythia to Siberia*, 19, pp. 105–141, 2013.

①「ヤールホト(交河故城)溝西墓地発見の匈奴・サルマタイ様式装飾品」(高濱秀先生退職記念論文集編集委員会編『ユーラシアの考古学』, 155 ～ 169 頁, 六一書房, 2014 年).

①「2013 年西安発見迴鶻王子墓誌」(『創価大学人文論集』, 26, 1 ～ 11 頁, 2014 年).

③ "Fire-steels in Eastern and Western Eurasia", in Kőrösi Csoma Sándor mi a Magyar?, Kőrösi Csoma Sándor Közművelődési Egyesület, 4 Apr. 2014 [*Proceedings*, pp. 250–261] .

原山　隆広

①訳・註「イブン・ハルドゥーン自伝 6」(〈中町信孝, 橋爪烈, 吉村武典〉, 『イスラーム地域研究ジャーナル』, Vol. 6, 31 ～ 49 頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2014 年 3 月, [註：佐藤健太郎]).

平勢　隆郎

①「戦国楚王之自称」(羅運環主編『楚簡楚文科与先秦歴史文化国際学術研討会論文集』, 529 ～ 541 頁, 2013 年 8 月).

①「骨が語る中国史」(『O.li.v.e—骨代謝と生活習慣病の連関』, 50 ～ 51 頁, メディカルレビュー社, 2013 年 8 月).

②『東方文化学院旧蔵建築写真目録』(〈塩沢裕仁, 関紀子, 野久保雅嗣〉, 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター, 2014 年, 351 頁).

②『あらすじとイラストでわかる秦の始皇帝(宝島SUGOI文庫)』(宝島社, 2014 年, 224 頁, [監修]).

②『従城市国家到中華』(広西師範大学出版社, 2014 年, 489 頁, [訳:周潔]).

平野　健一郎

①「概念の文化触変—『〈国際〉社会』という日本語の登場と変遷」(平野健一郎・古田和子・土田哲夫・川村陶子編『国際文化関係史研究』, 2 ～ 22 頁, 東京大学出版会, 2013 年 4 月).

① 書評「宇野重昭著『北東アジア学への道』」(『中国 21』, 40, 253 ～ 260 頁, 愛知大学現代中国学会, 2014 年 3 月).

②『国際文化関係史研究』(〈古田和子, 土田哲夫, 川村陶子〉, 東京大学出版会, 2013 年, 572 頁).

③「日本におけるジョン・セーリス：400 年後の今からふりかえる」(東洋文庫ミュージアム「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅」展講演会, 於：(公財)東洋文庫, 2013 年 12 月 5 日).

弘末　雅士

①「九聖人(ワリ・ソンゴ)の聖墓参拝とジャワ世界」(愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会編『巡礼の歴史と現在—四国遍路と世界の巡礼』, 227 ～ 244 頁, 岩田書院, 2013 年 10 月).

① "Coordinators' Report: The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks. State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A comparative Study of Asian Society", 〈Karashima Noboru〉, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 5, pp. 49–54, The Toyo Bunko, Mar. 2014.

②『越境者の世界史—奴隷・移住者・混血者』(春風社, 2013 年, 310 頁).

③ "The Rise of Muslim Coastal States in North Sumatra: Coastal Rulers

and Powers over Hinterland Fertility", in the Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks. State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, Toyo Bunko, 8 Mar. 2014 [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 5, pp. 57–60, The Toyo Bunko, Mar. 2014.].

深沢　眞二

①「小倉ノ山院にて―芭蕉発句叢考」(『会報・大阪俳文学会』, 47 号, 1 ～ 5 頁, 大阪俳文学研究会, 2013 年 10 月).

①「宗因独吟「立年の」百韻注釈」(〈深沢了子〉, 『近世文学研究』, 5 号, 29 ～ 83 頁, 文学史探究の会, 2013 年 12 月).

②『連句の教室　ことばを付けて遊ぶ(平凡社新書 694)』(平凡社, 2013 年, 254 頁).

③「芭蕉と奈良の町」(日本近世文学会 2013 年度秋季全国大会, 於：三重大学, 2013 年 11 月 17 日).

藤田　忠

①「『秦律』・『漢律』(二年律令)に見える「三環」・「免老」について」(東洋文庫古代地域史研究編『張家山漢簡『二年律令』の研究(東洋文庫論叢第 77)』, 413 ～ 440 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 3 月).

藤本　幸夫

①「朝鮮の出版文化」(『韓国・朝鮮の知を読む』, 540 ～ 550 頁, CUON出版社, 2014 年 2 月).

① "The Current State of Research on Catalogues of Old Korean Books", *Acta Asiatica*, 106, pp. 45–68, The Toho Gakkai, Feb. 2014.

①「朝鮮の出版文化」(『東洋文化研究』, 16, 239 ～ 250 頁, 学習院大学東洋文化研究所, 2014 年 3 月).

③「日本現存癸未字活字印本『十七史纂古今通要』巻十一・十二について」(UC Berkeley America, 28 Sept. 2013).

③「日本現存朝鮮本とその研究」(於：国文学研究資料館, 2014 年 1 月 24 日, [講演]).

古田　和子

②『国際文化関係史研究』(〈平野健一郎，土田哲夫，川村陶子〉，東京大学出版会，2013年，572頁).

古屋　昭弘

②『デイリーコンサイス中日・日中辞典(第3版)』(〈杉本達夫，牧田英一〉，三省堂，2013年，1474頁).

弁納　才一

①「農業生産からみた華北農村経済の特質」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』，227～249頁，(公財)東洋文庫，2013年12月).

寳劔　久俊

①「中国におけるトウモロコシ増産の背景とトウモロコシ貿易の実態」(『農村と都市をむすぶ』，2013年10月号(第63巻10号，通巻744号)，19～28頁，2013年10月).

①「食糧—安価な食糧を生み出す流通制度と農業技術」(渡邉真理子編『中国の産業はどのように発展してきたか』，237～262頁，勁草書房，2013年).

①「土地流転与農業経営的変化—以浙江省奉化市為例」(〈蘇群〉，南亮進・牧野文夫・郝仁平編『中国経済的転折点：与東亜的比較』，176～196頁，社会科学文献出版社，2014年).

星　泉

②翻訳『チベット文学の現在　ティメー・クンデンを探して』(〈ペマ・ツェテン著，チベット文学研究会編，大川謙作共訳〉，勉誠出版，2013年，416頁).

②『チベット文学と映画制作の現在　SERNYA Vol. 1』(〈チベット文学研究会〉，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2013年).

③「小説家の描く現代チベット：アムド出身の二人の作家，タクブンジャとペマ・ツェテン」(〈海老原志穂〉，2013年度日本チベット学会，於：高野山大学，2013年11月17日).

③ “The Function of the Sentence Final Particle =pa in Middle Tibetan”, in The 13th Seminar of International Association of Tibetan Studies,

Ulaanbaatar, Mongolia, 2013.
③「ペマ・ツェテンとチベット映画の世界」(チベット映画上映会，(公財)東洋文庫，2014年3月24日，[講演]).

細谷　良夫
①「《欽定東放佐領則例》研究」(〈趙令志〉，『記念王鍾翰先生百年誕辰学術文集』，588～613頁，中央民族大学出版社，2013年6月).
①「再訪の海城・鉄嶺・開原・四平・葉赫―1986～88～96～2004～13年」(『アジア流域文化研究』，10号，55～82頁，東北学院大学アジア流域文化研究所，2014年3月).

堀川　徹
②『シャリーアとロシア帝国―近代中央ユーラシアの法と社会』(〈大江泰一郎，磯貝健一〉，臨川書店，2014年，276 + xxxiii頁).

本庄　比佐子
②『華北の発見(東洋文庫論叢第76)』(〈内山雅生，久保亨〉，(公財)東洋文庫，2013年，355頁).

牧野　元紀
① "Local Administrators and the Nguyễn Dynasties's Suppression of Christianity during the Reign of Minh Mạng 1820–1841", *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 71, pp. 109–139, The Toyo Bunko, 2013.
②『東洋学の歩いた道』(〈学習院大学・(公財)永青文庫・(公財)東洋文庫編〉，2013年，133 + vi頁，[項目執筆：第3章「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅―西洋生まれの東洋学」，75頁，コラム1，Ⅲ-3，4，8，9，19，21]).

松井　太
①「敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文に関する箚記」(『人文社会論叢(人文科学篇)』，29～50頁，弘前大学人文学部，2013年8月).
① "Ürümçi ve Eski Uygurca Yüründgçın üzerine", Hatice Şirin User and Bülent Gül eds., *Yalım Kaya Bitigi: Osman Fikri Sertkaya Armağanı*, pp. 427–

432, Ankara: Türk Kültürünü Araştırma Enstitüsü, 2013.
③ "Dating of the Old Uigur Administrative Orders from Turfan", in the 8th International Congress of Turclogy, Istanbul, Turkey, 30 Sept.–4 Oct, 2013.
③「中央アジアの非漢字文献—ウイグル文献とモンゴル文献」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ 2013 年度・東洋のコディコロジー(Codicology) Ⅱ「非漢字文献」, 於:(公財)東洋文庫, 2013 年 10 月 18 日).
③「敦煌莫高窟・楡林窟的回鶻文・蒙古文題記銘文続考」(蘭州大学敦煌文献講座, 於:蘭州大学敦煌研究所, 2013 年 12 月 21 日).

松重　充浩
①「朝鮮在住日本人の華北認識」(本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見(東洋文庫論叢第 76)』, 103 ～ 121 頁, (公財)東洋文庫, 2013 年 12 月).
①「日本の中国統治と中国人顧問—関東州・劉心田を事例として」(劉傑・川島真編『対立と共存の歴史認識—日中関係 150 年』, 151 ～ 170 頁, 東京大学出版会, 2013 年).
①「『朝鮮及満洲』に掲載された華北地域用語使用記事目録」(『近代中国研究彙報』, 第 36 号, 91 ～ 127 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 3 月).
③「世界史の中の満洲史とは何か」(社団法人国際善隣協会主催公開フォーラム「新しい世代が見た満洲」研究シリーズ第 2 集・第 1 回, 於:社団法人国際善隣協会ビル, 2013 年 9 月 19 日).
③「『二〇世紀満洲歴史事典』の趣旨・内容:政治」(満洲学会・東亜大学校主催『二〇世紀満洲歴史事典』韓日合同書評国際会議, 於:東亜大学校石堂博物館(韓国), 2014 年 3 月 14 日).

松永　泰行
①「第 11 期イラン大統領選挙を巡る国内政治過程—ロウハーニー当選の背景とその制度的意味合い」(『中東研究』, 518, 3 ～ 14 頁, (公財)中東調査会, 2013 年 10 月).

松本　弘
②『現代アラブを知るための 56 章』(明石書店, 2013 年, 313 頁).

丸川　知雄

① "Why are There So Many Automobile Manufacturers in China?", *China: An International Journal*, Vol. 11, No. 2, pp. 170–185, 2013.

① "Japan's High-Technology Trade with China and Its Export Control", *Journal of East Asian Studies*, Vol. 13, No. 3, pp. 483–502, 2013.

②『チャイニーズ・ドリーム　大衆資本主義が世界を変える』(筑摩書房, 2013 年, 253 頁).

②『現代中国経済』(有斐閣, 2013 年, xiv + 344 頁).

三浦　徹

①「もうひとつの世界システム：岩波人文書セレクションによせて」(J・L・アブー・ルゴド『ヨーロッパ覇権以前(岩波人文書セレクション)』, 201 ～ 210 頁, 岩波書店, 2014 年 1 月 24 日, [再刊]).

②『イスラームを学ぶ—史資料と検索法(イスラームを知る 3)』(山川出版社, 2013 年, 125 頁).

③ "A New Approach to Analyze the Waqf Donation from Transregional and Comparative Viewpoints", in MESA 2013 Roundtable, The 47th Annual Meeting of Middle East Studies Association of North America, New Orleans, Louisiana, USA, 11 Oct. 2013.

水野　善文

① "On and Around the Story of Candrahāsa: The Transmission of a Tale and Bhakti", Imre Bangha ed., *Bhakti beyond the Forest, Current Research on Early Modern Literatures in North India, 2003–2009*, pp. 105–123, Delhi: Manohar, July 2013.

①「極楽・龍宮・錬金術—インド諸文献の脈絡で」(『南アジア言語文化』, 第 8 号, 27 ～ 71 頁, 東京外国語大学南アジア言語文化研究会, 2014 年 3 月).

①「語り部としてのジャイナ教徒—『獅子座三十二話』を中心に」(『奥田聖應先生頌寿記念　インド学仏教学論集』, 369 ～ 381 頁, 佼成出版社, 2014 年 3 月).

三田　昌彦

①「アフロ＝ユーラシア世界と南アジア史—アンドレ・ウィンク『アル＝

ヒンド―インド＝イスラーム世界の形成』」(『歴史評論』, 757, 43 ～ 49 頁, 歴史科学協議会, 2013 年 5 月).
① 「10–12 世紀インドの地域王権とチャクラヴァルティン―地域神・統王・普遍主義」(『歴史の理論と教育』, 139, 19 ～ 34 頁, 名古屋歴史科学研究会, 2013 年 7 月).
③ 「インド中近世(8–18 世紀)城郭の構造的変遷：ラージャスターンを中心に」(名古屋歴史科学研究会 10 月例会, 於：名古屋大学, 2013 年 10 月 26 日).
③ 「中世初期ラージプートの政治システム」(科研費補助金基盤研究B「ユーラシア諸帝国における君主と軍事集団の展開(研究代表者：清水和裕)」第 4 回研究会, 於：神戸大学, 2014 年 3 月 30 日).
③ "Sanskritized Imperialism and State Integration in Early Medieval North India (c. 950–1200)", in the Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks. State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, Toyo Bunko, 9 Mar. 2014 [*Modern Asian Studies Review*, Vol. 5, pp. 91–94, The Toyo Bunko, Mar. 2014.].

御牧　克己
① 「「孔雀の口から流れ下る河」(rma bya kha 'bab) [I] ―四大河をめぐるインドの伝承」(『奥田聖應先生頌寿記念　インド学仏教学論集』, 502 ～ 513 頁, 佼成出版社, 2014 年 3 月).
② 『西蔵仏教宗義研究第十巻―トゥカン『一切宗義』「ボン教の章」(Studia Tibetica No. 47)』((公財)東洋文庫, 2014 年, xliii + 227 頁).

宮脇　淳子
① 東洋史エッセイ「「血染めの白鳥」とはコサックに殺された朝鮮人」「ムガル帝国の創設者はウズベキスタンの英雄」「楊貴妃を殺した唐の軍人は中央アジア出身」「広開土王碑の碑文が改竄されたという「大ウソ」」「元寇の司令官は朝鮮人」「金日成は何人もいた」(『歴史通』, 5 月号, 162 ～ 163 頁；7 月号, 164 ～ 165 頁；9 月号, 178 ～ 179 頁；11 月号, 98 ～ 99 頁；1 月号, 180 ～ 181 頁；3 月号, 112 ～ 113 頁, ワック出版, 2013 年 4 月；2013 年 6 月；2013 年 8 月；2013 年 10 月；2013 年 12 月；2014 年 2 月).
① 「岡田史学をどう読むか」(『環(歴史・環境・文明)』, 55, 186 ～ 222 頁,

藤原書店，2013年10月，［宮崎正弘，倉山満と鼎談］）．
①「ハズルンド「トレグト・ラレルロ」解読」（〈岡田英弘〉，Kim Juwon and Ko Dongho eds., *Current Trends in Altaic Linguistics: A Festschrift for Professor Seong Baeg-in on his 80th Birthday*, pp. 421–454, Altaic Society of Korea, 2013）．
②『真実の満洲史［1894–1956］』（〈岡田英弘監修〉，ビジネス社，2013年，317頁）．
②『韓流時代劇と朝鮮史の真実』（扶桑社，2013年，285頁）．

村井　章介
①「十五世紀朝鮮・南蛮の海域交流―成宗の胡椒種求請一件から」（森平雅彦編『中近世の朝鮮半島と海域交流（東アジア海域叢書14）』，265～291頁，汲古書院，2013年5月）．
①「「日本」の自画像」（『岩波講座日本の思想　第3巻　内と外―対外観と自己像の形成』，45～83頁，岩波書店，2014年2月）．
②『日本中世の異文化接触』（東京大学出版会，2013年，512頁）．
②『日本の対外関係5　地球的世界の成立』（〈荒野泰典，石井正敏〉，吉川弘文館，2013年，338頁）．
③「一五世紀日朝外交秘話―李藝と文渓正祐」（立正史学会，於：立正大学品川キャンパス，2013年6月23日）．

村上　衛
①「効かない証明書―19世紀末，鎮江における通過貿易問題」（森時彦編『長江流域社会の歴史景観』，81～101頁，京都大学人文科学研究所附属現代中国センター，2013年10月）．
① "A Comparison of the End of the Canton and Nagasaki Trade Control Systems", *Itinerario*, Vol. 37, Issue 3, pp. 39–48, Dec. 2013.
① "Two Bonded Labour Emigration Patterns in Mid-Nineteenth-Century Southern China: The Coolie Trade and Emigration to Southeast Aisa", Gwyn Campbell and Alessndro Stanziani eds, *Bonded Labour and Debt in the Indian Ocean World*, pp. 153–164, London: Pickering and Chatto, 2013.
①「植民地と移民ネットワークの相克―辛亥革命期，廈門における英領北ボルネオ華工募集事業を中心に」（『東洋史研究』，72-4，36～70頁，2014

年3月).
③「海の近代中国とモリソンパンフレット」(東洋文庫アジア資料学研究シリーズ2013年度・西洋古典籍書誌講習会「西洋書籍と東洋研究」, 於:(公財)東洋文庫, 2013年9月29日).

村田　雄二郎
①「超越"紀念史学":日本紀念辛亥革命一百周年国際会議記」(『開放時代』, 2013年第3期, 188～197頁, 広州市社会科学院, 2013年5月, [訳:張玉萍]).
① "The International Conference Commemorating the Centennial of the 1911 Revolution in China: Organization and Summary of the Tokyo Session's Proceedings", *Asian Research Trends New Series*, No. 8, pp. 1–21, The Toyo Bunko, 2013.
①「非対称な隣国:近代中国の自己像におけるロシア・ファクター」(望月哲男編『ユーラシア比較地域大国論6　ユーラシア地域大国の文化表象』, 105～127頁, ミネルヴァ書房, 2014年3月).
②『講座　東アジアの知識人』(〈趙景達, 原田敬一, 安田常雄〉, 全5巻, 有志舎, 2013年～2014年, 各380, 370, 362, 408, 420頁).
③「辛亥革命期の民族問題と中国ナショナリズム—康有為『大同書』をめぐって」in "The Life and Thought of Traditional Elite in East Asian Countries in Late 19th Century–Early 20th Century", Sungkyunkwan University, Seoul, 16 Aug. 2013.

毛里　和子
①「重建日中関係」(『日本学刊』, 2013年第4期, 18～31頁, 中国社会科学院日本研究所, [http://qk.cass.cn/rbxk/ldzb/201307/t20130709_43087.htm(中国語)]).
①「排他的ナショナリズム越えて」(『世界』, 2014年3月号(854号), 146～153頁, 岩波書店, 2014年3月).
① "Researchers Take a Small Step toward Improving Japan-China Ties March 27, 2014", *Asahi Digital, Forum 20140327*, Mar. 2014.
①「日中関係 和解の道, 学者から一歩」(『朝日新聞』20140329, NWフォーラム, 朝日新聞社, 2014年3月).
③「中日関係の仕切り直しのために—合せて日中韓三国関係を考える」(韓

国東北亜歴史財団・中韓日三国合作研討会，於：社会科学院日本研究所(北京)，2013年12月13日，[韓国東北亜歴史財団報告書『中韓日三国合作研討会』，2013年12月])．

本野　英一

①書評「究極の『偽』ブランド：広中一成『偽チャイナ』(社会評論社，2013年)」(『東方』，392，22～25頁，東方書店，2013年10月)．

①「買辦」(岡本隆司編『中国経済史』，名古屋大学出版会，2013年，[コラム])．

籾山　明

①「里耶秦簡中の刻歯簡と『数』中の未解読簡」(〈大川俊隆，張春龍〉，『大阪産業大学論集(人文・社会科学編)』，18，15～60頁，大阪産業大学，2013年6月)．

①「漢代結僤習俗考」(邢義田・劉増貴主編『古代庶民社会(第四届国際漢学会議論文集)』，149～170頁，中央研究院，2013年12月)．

③「長城のまもり—労榦と居延漢簡」(東洋文庫2013年度秋期東洋学講座，於：(公財)東洋文庫，2013年11月29日，[『東洋学報』，95-4，87～88頁，(公財)東洋文庫，2014年3月])．

③「簡牘文書学与法制史—以里耶秦簡為例」(「史料与法史学」学術研討会，於：中央研究院歴史語言研究所，2014年3月26日)．

守川　知子

①「サファヴィー朝の対シャム使節とインド洋—『スレイマーンの船』の世界」(『史朋』，46，1～34頁，2013年)．

①「地中海を旅した二人の改宗者—イラン人カトリック信徒とアルメニア人シーア派ムスリム」(長谷部史彦編『地中海世界の旅人—移動と記述の中近世史』，257～284頁，慶應義塾大学言語文化研究所，2014年3月)．

①「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥースィー著『被造物の驚異と万物の珍奇(7)』」(〈ペルシア語百科全書研究会・訳注〉，『イスラーム世界研究』，7，499～532頁，2014年3月，[監訳])．

③ "Siamese Court Culture through the Eyes of an Iranian Shi'ite Muslim: An Analysis on The Ship of Sulayman (Safina-yi Sulaymani)", in Panel Session: "The Iranians in Ayutthaya during the Early Modern

Period", ICAS 8 (The Eighth International Convention of Asia Scholars), The Venetian Macau Resort Hotel, Macao, 24 June 2013.
③ "A Shi'ite Armenian in the Late Seventeenth Century", in International Conference: Mapping Safavid Iran, ILCAA, Tokyo, 1 Dec. 2013.

森平　雅彦

①「朝鮮後期における漢江舟運の運航実例から：「朝鮮半島の水環境とヒトの暮らし」に関する予備的考察(2)」(『史淵』，第151輯，27～62頁，九州大学大学院人文科学研究院，2014年3月).
②『中近世の朝鮮半島と海域交流(東アジア海域叢書14)』(汲古書院，2013年，441頁).
②『モンゴル覇権下の高麗：帝国秩序と王国の対応』(名古屋大学出版会，2013年，513頁).
③「몽골시대 동아시아 해역과 한반도(モンゴル時代の東アジア海域と朝鮮半島)」(国際ワークショップ「朝鮮半島グローバルヒストリーの構築」，於：高麗大学校(韓国)，2013年11月23日).
③「高麗・宋間における使船航路の選択とその背景」(朝鮮史研究会，於：専修大学，2014年3月15日).

森安　孝夫

①「東ウイグル=マニ教史の新展開」(『東方学』，126，142～124頁(逆頁)，(公財)東方学会，2013年7月).
①「黄文弼発現的《摩尼教寺院経営令規文書》」(栄新江編『黄文弼所獲西域文献論集』，136～176頁，科学出版社(北京)，2013年10月，[訳：白玉冬]).

矢島　洋一

①「法隆寺香木パフラヴィー文字刻銘再考」(『奈良女子大学文学部研究教育年報』，第10号，09～14頁，奈良女子大学文学部，2013年12月).
①「ロシア統治下トルキスタン地方の審級制度」(堀川徹・大江泰一郎・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国—近代中央ユーラシアの法と社会』，166～187，xxiii～xxvi頁，臨川書店，2014年3月).
③「モグール・ウルスとトゥグルク・テムル」(東洋史研究会大会，於：京都大学，2013年11月3日，[『東洋史研究』，72巻3号，163～164頁，

東洋史研究会，2013年12月]).
③「ブハラとヒヴァの婚姻認証文書」(第12回中央アジア古文書研究セミナー，於：京都外国語大学，2014年3月22日).

柳澤　明
① "Relocation of Oyirad Groups to Manchuria and Hulun Buir", I. Lkhagvasuren and Yuki Konagaya eds., *Oirat People: Cultural Uniformity and Diversification*, Senri Ethnological Studies 86, pp. 89–101, Osaka: National Museum of Ethnology, 2014.
③「関于清朝遣俄使節的幾個問題」(紀念王鍾翰先生百年誕辰暨清史民族史国際学術研討会，於：北京，2013年8月28日，[『紀念王鍾翰先生百年誕辰学術文集』，116～126頁，中央民族大学出版社，2013年8月，[訳：呉忠良]]).

柳田　征司
②『日本語の歴史4　抄物，広大な沃野』(武蔵野書院，2013年，205頁).

柳谷　あゆみ
①「ザカリヤー・ターミル『酸っぱいブドウ』」(『Phases』，4，4～16頁，首都大学東京大学院人文科学研究科表象文化論分野，2013年12月).
①「現地語資料の入手」(三浦徹編『イスラームを学ぶ—史資料と検索法(イスラームを知る3)』，88～116頁，山川出版社，2013年12月).
①「3 in 1」(『紛争地域から生まれた演劇5　アラブ・イスラム世界の現代戯曲(国際演劇年鑑2014別冊)』，5～42頁，国際演劇協会日本センター，2014年3月).
③「現代シリアの短編小説:ザカリヤー・ターミルを読む／春のはざま」(文学から見たシリアの人々：ザカリヤー・ターミルの世界，於：鹿児島大学国際島嶼研究センター会議室，2014年2月21日).
③「都市住民の降伏—549/1154年ダマスカスの事例から」(第55回日本オリエント学会大会，於：京都外国語大学，2013年10月27日，[『オリエント』，第56巻第2号，119頁，日本オリエント学会，2014年3月]).

矢吹　晋
①「米中新型の大国関係と尖閣問題」(21世紀中国総研編『中国情報ハン

ドブック 2013』，98 ～ 131 頁，蒼蒼社，2013 年 7 月）．
①「当代中日関係史専家矢吹晋教授訪談記」（『国際中国研究動態』，2013 年 12 月号，4 ～ 10 頁，中国社会科学院国外中国学研究中心，2013 年 12 月）．
① "The Origin of the Senkaku/Diaoyu Dispute between China, Taiwan and Japan", *The Asia-Pacific Journal: Japan Focus*, Vol. 12, No. 3, pp. 1–12, 13 Jan. 2014, [with an introduction by Mark Selden].
①「米中新型大国関係の形成と展望」（『中国研究月報』，2014 年 1 月号，14 ～ 27 頁，一般社団法人中国研究所，2014 年 1 月）．
②『尖閣衝突は沖縄返還に始まる』（花伝社，2013 年，230 頁）．

山内　民博
①「屠牛と禁令―19 世紀朝鮮における官令をめぐって」（関尾史郎編『環東アジア地域の歴史と「情報」』，151 ～ 174 頁，知泉書館，2014 年 3 月）．
③「19 世紀末 20 世紀初の戸口調査と新式戸籍―地方社会における実施状況と対応」（朝鮮史研究会第 50 回大会，明治大学，2013 年 10 月 27 日）．

山口　元樹
①「東南アジア（回顧と展望　2012 年の歴史学界）」（『史学雑誌』，122-5，267 ～ 273 頁，史学会，2013 年 5 月）．
③「オランダ領東インドにおけるアラブ人コミュニティの教育活動―1920 年以降の停滞と対応」（東南アジア学会関東例会，於：東京外国語大学，2013 年 6 月 22 日）．
③「東インド・イスラーム会議とアラブ人―1920 年代後半におけるインドネシアのムスリム社会の構築」（ワークショップ「アジアのムスリムと近代―1930 年代を中心に」，於：上智大学，2013 年 11 月 10 日）．
③「オランダ領東インドにおけるアラブ人コミュニティの教育活動―1920 年代以降の展開とアイデンティティの形成」（東南アジア学会第 90 回研究大会，於：東京外国語大学，2013 年 12 月 7 日）．
③「インドネシアのムスリム社会とアラブ地域の定期刊行物―エジプトの『ファトフ』誌を事例として」（南山大学外国語学部主催，アジア・太平洋研究センター・東南アジア学会中部例会共催セミナー「世界史の中のインドネシアを考える」，於：南山大学，2014 年 3 月 28 日）．

山本　英史
①「光棍例の成立とその背景―清初における秩序形成の一過程」（山本英史

編『中国近世の規範と秩序』, 201 ～ 246 頁, (公財)東洋文庫, 2014 年 2 月).
②『中国近世の規範と秩序』((公財)東洋文庫, 2014 年, 330 頁).
③「光棍条例的成立及其背景―清初秩序形成的一個過程」(南開大学中国社会史研究中心学術講座, 於：南開大学(天津市), 2013 年 12 月 23 日).
③「近代蘇松地方郷村役的地域性」(南開大学中国社会史研究中心学術講座, 於：南開大学(天津市), 2013 年 12 月 24 日).
③「近代蘇州基層社会復元の試み―郷村管理者に関する聴き取り調査」(北海道大学第 264 回東洋史談話会, 於：北海道大学, 2014 年 2 月 11 日).

山本　真
①「20 世紀初頭の福建南西部客家社会と革命運動―宣教師文書から読み解く」(『歴史評論』, 765, 47 ～ 57 頁, 民主主義科学者協会, 2014 年 1 月).
①「20 世紀前半, 福建省福州, 興化地区から東南アジアへの移民とその社会的背景―キリスト教徒の活動に着目して」(『21 世紀東アジア社会学』, 6, 31 ～ 47 頁, 日中社会学会, 2014 年 3 月).
①「晏陽初と陶行知―平民教育から農村改良へ」(村田雄二郎ほか編『講座東アジアの知識人 4　戦争と向き合って』, 66 ～ 83 頁, 有志舎, 2014 年 3 月).
③「中日戦争時期的福建省戦時体制・糧食管理与厳家淦」(厳家淦先生与台湾経済発展国際学術討論会, 於：台湾国史館, 2013 年 12 月 16 日).
③「福建的社会結構与革命・動員」(シンポジウム「近現代中国農村与村落档案史料」, 於：(公財)東洋文庫, 2013 年 12 月 24 日).

湯浅　剛
①「中央アジアにおけるロシア主導の多国間協力―集団防衛と経済統合の展開」(『防衛研究所紀要』, 16-2, 53 ～ 72 頁, 2014 年 2 月).
①「ロシアにとってのシリア内戦―イスラーム要因と対外政策の展開」(『中東研究』, 第 519 号, 22 ～ 28 頁, (財)中東調査会, 2014 年 2 月).
①「上海協力機構(SCO)―欧米との相克と協調」(吉川元・首藤もと子・六鹿茂夫・望月康恵編『グローバル・ガヴァナンス論』, 106 ～ 117 頁, 法律文化社, 2014 年 2 月).
②『平和構築へのアプローチ―ユーラシア紛争研究の最前線』(〈伊東孝之監修, 広瀬佳一, 湯浅剛編〉, 吉田書店, 2013 年, 440 頁).
③「上海協力機構―テロ対処・領土保全・経済協力をめぐる論理と実践」(日

本国際政治学会 2013 年度研究大会　部会 2「変容する地域安全保障共同体比較—OSCE，ASEAN，SCO」，於：新潟コンベンションセンター，2013 年 10 月 25 日）.

吉澤　誠一郎

①「梁啓超—国家主義と世界主義のはざまで」（原田敬一ほか編『講座東アジアの知識人 2　近代国家の形成』，有志舎，2013 年 11 月）.

①「「西北」概念の変遷」（本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見（東洋文庫論叢第 76）』，35 ～ 55 頁，（公財）東洋文庫，2013 年 12 月）.

③「清末中国における男性性の構築と日本」（中国社会文化学会，於：東京大学文学部，2013 年 7 月 7 日）.

③「近代中国的亜洲主義：其特徴与影響力」「東亜共同体—伝統与現代的観点」（国際学術研討会，於：中央研究院近代史研究所，2013 年 11 月 27 日）.

③「近代天津の貿易とその後背地—羊毛輸出を中心に」（東アジア都市における集団とネットワーク—伝統都市から近現代都市への文化的転回，於：大阪市立大学，2013 年 12 月 6 日）.

吉田　光男

③「最近の韓流歴史ドラマと韓国の歴史認識—史料と史実のあいだ」（東洋文庫 2013 年度春期東洋学講座「東洋文庫と本の世界Ⅲ」，於：（公財）東洋文庫，2013 年 7 月 4 日，[『東洋学報』，95-2，63 ～ 65 頁，（公財）東洋文庫，2013 年 9 月]）.

吉田　豊

①「バクトリア語文書研究の近況と課題」（『内陸アジア言語の研究』，28，39 ～ 65 頁，中央ユーラシア学研究会，2013 年 9 月）.

① “What Has Happened to Suδāšn's legs? Comparison of Sogdian, Uighur and Mongolian Versions of the Vessantara Jātaka”, E. S. Tokhtasev and P. Lurje eds., *Commentationes Iranicae: Vladimiro f. Aaron Livschits nonagenario donum natalicum*, pp. 398–414, St. Petersburg, 2013.

① “Buddhist Texts Produced by the Sogdians in China”, M. Maggi et al. eds., *Buddhism among the Iranian Peoples of Central Asia*, pp. 155–179, Vienna, 2013.

①「中国江南製作のマニ教絵画によるトルファン出土史料の再解釈」（『奥

田聖應先生頌寿記念　インド学仏教学論集』, 1056 ～ 1065 頁, 佼正出版社, 2014 年 3 月).

吉水　千鶴子

① "Reasoning-for-others in Candrakīrti's Madhyamaka Thought", *Journal of International Association of Buddhist Studies*, 35, 1–2, pp. 413–444, 2013.

③ "Transmission of the Mūlamadhyamakakārikā and the Prasannapadā to Tibet from Kashmir", in Conference: Around Abhinavagupta. Aspects of the Intellectual History of Kashmir from the 9th to the 11th Centuries, University of Leipzig, 10 June 2013.

③ "Early Tibetan Commentaries on the Chapters of the Mūlamadhyamakakārikā", in International Conference on Tibetan History and Archaeology, Religion and Art (7th–17th C.), 四川大学中国蔵学研究所, 14 July 2013.

吉村　慎太郎

①「第 11 回イラン大統領選挙と中東情勢」(『小日本』, 15, 15 ～ 17 頁, 坂の上の雲ミュージアム, 2013 年 8 月).

①「イラン「核開発」疑惑の背景と展開―冷徹な現実の諸相を見据えて」(高橋伸夫編『アジアの「核」と私たち―フクシマを見つめながら』, 201 ～ 229 頁, 慶應義塾大学東アジア研究所, 2014 年 3 月」.

①「ハサン・ロウハーニーと 2013 年イラン大統領選挙」(『アジア社会文化研究』, 15, 1 ～ 20 頁, アジア社会文化研究会, 2014 年 3 月).

六反田　豊

①「朝鮮前近代史研究と「海」―韓国学界の動向と「海洋史」を中心として」(『朝鮮史研究会論文集』, 51, 53 ～ 78 頁, 朝鮮史研究会, 2013 年 10 月).

①「興原倉小考―その所在地と移転問題」(高倉洋彰編『東アジア古文化論攷 1』, 393 ～ 412 頁, 中国書店, 2014 年 3 月).

① "The Historical Significance of the Uniform Land Tax Law and the Realities of Its Implementation", *Acta Asiatica*, 106, pp. 21–44, The Toho Gakkai, 2014.

②『中近世の朝鮮半島と海域交流』(〈森平雅彦〉, 汲古書院, 2013 年, 441 頁).

②『朝鮮王朝の国家と財政』(山川出版社, 2013 年, 98 頁).

Ⅳ　普及・展示事業

1．展示

一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

A. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし(中学生程度の歴史知識を前提)、これらの利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

B. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

C. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

D. 展示スケジュール

常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

(1) 常設展は国宝と浮世絵を中心に構成されており、保存と集客の観点から、毎月初めに展示資料の入れ替えを行なった。
(2) 企画展は一年に3回の頻度で行なっている。本年度は以下の企画展を実施した。
　①「マリー・アントワネットと東洋の貴婦人―キリスト教をつうじた東西の出会い―」(2013年3月20日～2013年7月28日)
　②「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅―西洋生まれの東洋学―」(2013年8月7日～2013年12月26日)
　③「仏教―アジアをつなぐダイナミズム―」(2014年1月11日～4月13日)
(3) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なものわかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。
(4) 上記企画展会期中に公開講座(企画展示記念講座)を開催した。
講演者と演題はpp. 68～71。
(5) 公益財団法人日本医師会と共催で「幕末から明治初期の医学関係文書」と題し、東洋文庫藤井尚久文庫を中心とした医学関連の貴重書特別展示会を開催した。
　会期：2013年11月22日(金)～24日(日)
　会場：東洋文庫2F講演室

E. ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、館内ガイドツアーを実施し、好評を得た(開館期間は毎日15時に開催している)。

F. 学校連携

東京藝術大学との協力協定により、記念コンサートを何度かミュージアム内にて開催し、多数の来場者を得た。

G. 博物館連携

学習院大学史料館、公益財団法人永青文庫と三館連携展示「東洋学の歩い

た道」を企画し、各館で共有のテーマに基づいた展示を実施した(東洋文庫は「マルコ・ポーロとシルクロード世界遺産の旅—西洋生まれの東洋学—」を開催)。また、三館連携の記念シンポジウムを学習院大学百周年講堂にて開催した。

H. 入場者数

2013年4月1日～2014年3月31日における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入場者数	1,612人	1,678人	1,696人	2,095人	879人	985人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1,109人	1,924人	1,755人	858人	757人	1,332人	16,590人

2. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への普及を目指し、学校連携活動も行なった。

A. 報道実績

ミュージアムに関しての報道実績の主なものを以下に挙げる(50音順)。

新　聞：全国紙『朝日新聞』、『読売新聞』、『日本経済新聞』、『毎日新聞』など

雑　誌：『マンスリー三菱』、『歴史読本』、『目の眼』、『東京人』、『BCCJ ACUMEN』など

テレビ：映画『図書館戦争』の公開イベントをミュージアムで開催し、各メディアで紹介された。

B.『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員ＯＢほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

C. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信している。

D. 近隣の中学・高校とのミュージアム・フリーパス連携

(1) 2012年度より施行された小石川中等教育学校とのミュージアム・フリーパス連携を引き続き締結し、同校の新入生対象のオリエンテーション(見学会)などを開催した。
(2) 村田女子中学校とミュージアム・フリーパス連携を締結し、全校生徒を対象とした見学会を開催した。

E. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民むけ講座を下記のとおり実施した。

講座名	講師(所属)	期間	人数
探検！書物の森	會谷佳光(東洋文庫)・牧野元紀(東洋文庫)	2013年4月9日	2
漢文入門	會谷佳光	2013年4月11日～6月6日	4
探検！書物の森	會谷佳光・牧野元紀	2013年5月7日	2
初心者のための漢詩講座・作詩法	伊藤忠綱(二松学舎大学非常勤講師)	2013年5月8日～7月10日	2
トルコ語の世界(初級編)	齋藤久美子(慶應義塾大学非常勤講師)	2013年5月8日～7月10日	3

講座名	講師(所属)	期間	人数
探検！書物の森	會谷佳光・牧野元紀	2013年7月2日	5
中国鉄道史入門	佐野実(国立公文書館アジア歴史資料センター調査員)	2013年7月5日～8月9日	3
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子(トルコ細密画専門家)	2013年7月8日～9月23日	3
江戸の書物	清水信子(北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部客員研究員)	2013年7月11日～8月15日	7
原書で読む『イエズス会士書簡集』	牧野元紀	2013年7月9日～7月23日	4
チベット仏教の世界	吉水千鶴子(東洋文庫研究員・筑波大学教授)・西沢史仁(東京大学研究員)	2013年9月4日～9月18日	11
丸の内の原風景	佐久間健(国立公文書館アジア歴史資料センター研究員)	2013年9月7日～9月21日	7
ドリュール	中村美奈子(Les fragments de M)	2013年9月7日～9月21日	8
チベット民族の20世紀(その1)	小林亮介(筑波大学非常勤講師)	2013年9月25日～10月9日	9
トルコ語の世界(中級編)	齋藤久美子	2013年10月2日～12月18日	3
ペルシア語書道に親しむ	角田ひさ子(拓殖大学語学研究所講師)	2013年10月5日～12月21日	7
探検！書物の森	會谷佳光・岡崎礼奈(東洋文庫)	2013年10月8日	4
チベット民族の20世紀(その2)	大川謙作(東京大学学術研究員)	2013年10月16日～10月30日	6
G.E.モリソン博士と東洋文庫(I)	濱下武志(東洋文庫研究部長)	2013年10月17日～10月31日	9
イスラーム美術写本挿絵入門	青木節子	2014年1月13日～3月24日	2
シーボルトの再検討	塚原東吾(東洋文庫研究員・神戸大学教授)	2014年1月14日～1月28日	8

講座名	講師(所属)	期間	人数
江戸の書物2	清水信子	2014年1月30日 ～3月6日	3
探検！書物の森	會谷佳光・岡崎礼奈	2014年2月4日	2
中東・北アフリカ地域の都市と都市計画史	松原康介(筑波大学准教授)	2014年2月14日 ～4月17日	3

V 業 務 報 告

1．総務報告

A．会議事項

(1) 理事会

2013年度第一回通常理事会　開催日　2013年5月27日（月曜日）
出席者　槇原　稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、濱下武志、平野健一郎、中根千枝、福澤　武、三木繁光、西村敏行、原　　實

2013年度第一回臨時理事会　開催日　2013年6月13日（木曜日）
出席者　槇原　稔、山川尚義、斯波義信、鶴見尚弘、濱下武志、平野健一郎、福澤　武、三木繁光、西村敏行、原　　實

2013年度第二回通常理事会　開催日　2014年2月13日（木曜日）
出席者　槇原　稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、濱下武志、平野健一郎、中根千枝、福澤　武、西村敏行、原　　實

(2) 評議員会

2013年度定時評議員会　開催日　2013年6月13日（木曜日）
出席者　梅村　坦、岸本美緒、草原克豪、久保正彰、東條和彦、瀬谷博道、長尾真、増田信行

(3) 東洋学連絡委員会

前　　期　開催日　2013年5月14日（火曜日）
出席者　尾崎　康、斯波義信、中根千枝、吉田順一
議　題　1. 2012年度財団法人東洋文庫事業報告書について

2. その他

後　　期　開催日　2014年1月29日（水曜日）
出席者　斯波義信、尾崎康、中根千枝、間野英二、吉田順一
議　題　1. 2013年度公益財団法人東洋文庫事業中間報告書について
2. 2014年度公益財団法人東洋文庫事業計画書(案)について
3. その他

B. 設備・営繕事項

建替計画が終了してから2年経過後、2年次検査を実施した。建築・設備面における不具合箇所を施工業者とともに点検し、是正工事を実施した。

2. 人事報告

A. 役員

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2013. 6.13	評議員	長尾　真	退任	
〃	〃	大滝則忠	就任	

B．職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2013. 4. 1	研究員	小名康之	委嘱	
〃	〃	熊本裕	〃	
〃	〃	P．ツィーメ	〃	
〃	〃	戸倉英美	〃	
〃	〃	藤田忠	〃	
〃	研究員(兼任)	土田哲夫	〃	
〃	〃	六反田豊	〃	
2014. 3.31	〃	関本照夫	退任	
〃	〃	平野健一郎	〃	
〃	嘱託職員	古谷野まり恵	退職	

C．客員研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2013. 4. 1	研究員(客員)	糟谷憲一	委嘱	
〃	〃	高橋英海	〃	
〃	〃	西村陽子	〃	
2013.10. 1	〃	島田竜登	〃	
〃	〃	東條哲郎	〃	
〃	〃	山口元樹	〃	
2014. 1. 1	〃	橘堂晃一	〃	
〃	〃	塚原東吾	〃	
〃	〃	山本真	〃	
2014. 3.23	〃	庄垣内正弘	逝去	
2014. 3.31	〃	飯島武次	退任	
〃	〃	金子修一	〃	
〃	〃	新免康	〃	
〃	〃	新村容子	〃	
〃	〃	西村陽子	〃	
〃	〃	濱本真美	〃	
〃	〃	山口元樹	〃	

3．会計報告

A．一般会計

一　般　会　計　貸　借　対　照　表

2014年3月31日現在　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	28,945,411		
未収収益	3,715,078		
未収金	792,765		
立替金	149,020		
商　　品	9,696,158		
前払費用	343,875		
流動資産合計	43,642,307		
2．固定資産			
(1) 基本財産			
図書資料	3,583,541		
基本財産合計	3,583,541		
(2) 特定資産			
土地	110,494		
建物	2,482,484,558		
構築物	147,394,902		
什器備品	316,477,116		
図書資料	1,324,127,389		
ソフトウェア	5,659,603		
事業運営積立資産	2,842,663,122		
退職給付引当資産	62,682,995		
建物設備修繕引当資産	198,941,861		
ＰＣＢ引当資産	24,615,515		
長期前払費用	1,217,956		
特定資産合計	7,406,375,511		
(3) その他固定資産			
構築物	130,812		
什器備品	3,099,082		
ソフトウェア	1,559,995		
電話加入権	364,000		
長期前払費用	389,849		
その他固定資産合計	5,543,738		
固定資産合計	7,415,502,790		
資産合計	7,459,145,097		

Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	3,899,929		
預り金	1,270,569		
賞与引当金	7,614,910		
流動負債合計	12,785,408		
2．固定負債			
退職給付引当金	62,682,995		
ＰＣＢ引当金	24,605,000		
固定負債合計	87,287,995		
負債合計	100,073,403		
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
寄付金	3,181,491,800		
補助金	229,955,469		
分担金	35,671,597		
固定資産受贈額	24,439,883		
指定正味財産合計	3,471,558,749		
（うち基本財産への充当額）	(　　0)		
（うち特定資産への充当額）	(3,471,558,749)		
2．一般正味財産	3,887,512,945		
（うち基本財産への充当額）	(　3,583,541)		
（うち特定資産への充当額）	(3,847,528,767)		
正味財産合計	7,359,071,694		
負債及び正味財産合計	7,459,145,097		

※当事業年度は「公益法人会計基準」(平成 20 年 4 月 11 日内閣府公益認定等委員会公表)適用初年度のため、前年度欄及び増減欄については記載していません。

一　般　会　計　正　味　財　産　増　減　計　算　書

2013年4月1日から2014年3月31日まで　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	86,294,420		
受取寄付金	232,642,366		
受取寄付金	90,960,000		
受取寄付金振替額	141,682,366		
受取会費	585,000		
受取分担金	11,656,708		
受取分担金振替額	11,656,708		
事業収益	24,462,558		
受取補助金等	87,873,219		
受取補助金等振替額	87,873,219		
雑収益	5,111,075		
経常収益計	448,625,346		
(2) 経常費用			
事業費	429,417,191		
調査研究費	23,214,970		
資料収集・整理費	15,391,559		
研究資料出版費	21,221,045		
普及活動費	27,658,786		
学術情報提供費	25,321,558		
地域研究プログラム費	11,205,747		
人件費	114,371,584		
役員報酬	19,032,000		
給料手当	69,857,422		
賞与引当金繰入	6,391,453		
退職給付費用	4,973,125		
福利厚生費	14,117,584		
事務費	191,031,942		
設備保守修繕費	5,806,772		
水道光熱費	18,061,366		
賃借料	87,318		
業務委託費	11,274,712		
減価償却費	144,538,734		
諸雑費	11,263,040		
管理費	24,209,967		
人件費	18,114,921		
役員報酬	4,618,000		
給料手当	9,002,654		
賞与引当金繰入	1,223,457		
退職給付費用	880,140		
福利厚生費	2,390,670		
事務費	6,095,046		
設備保守修繕費	58,654		
水道光熱費	182,438		
謝金	2,669,060		
減価償却費	1,583,377		
諸雑費	1,601,517		
経常費用計	453,627,158		
当期経常増減額	△ 5,001,812		

2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈額	552,082		
経常外収益計	552,082		
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	8,088		
経常外費用計	8,088		
当期経常外増減額	543,994		
税引前当期一般正味財産増減額	△ 4,457,818		
法人税、住民税及び事業税	70,000		
当期一般正味財産増減額	△ 4,527,818		
一般正味財産期首残高	3,892,040,763		
一般正味財産期末残高	3,887,512,945		
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取補助金等	110,000,000		
受取分担金	14,000,000		
固定資産受贈額	108,819		
一般正味財産への振替額	△ 241,764,375		
当期指定正味財産増減額	△ 117,655,556		
指定正味財産期首残高	3,589,214,305		
指定正味財産期末残高	3,471,558,749		
Ⅲ正味財産期末残高	7,359,071,694		

※当事業年度は「公益法人会計基準」(平成 20 年 4 月 11 日内閣府公益認定等委員会公表)適用初年度のため、前年度欄及び増減欄については記載していません。

一般会計正味財産増減計算書内訳表

2013年4月1日から2014年3月31日まで　（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引控除	当年度
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	73,634,655	12,659,765	0	86,294,420
受取寄付金	222,371,718	10,270,648	0	232,642,366
受取寄付金	81,945,000	9,015,000	0	90,960,000
受取寄付金振替額	140,426,718	1,255,648	0	141,682,366
受取会費	585,000	0	0	585,000
受取分担金	11,656,708	0	0	11,656,708
受取分担金振替額	11,656,708	0	0	11,656,708
事業収益	24,462,558	0	0	24,462,558
受取補助金等	87,873,219	0	0	87,873,219
受取補助金等振替額	87,873,219	0	0	87,873,219
雑収益	4,599,968	511,107	0	5,111,075
経常収益計	425,183,826	23,441,520	0	448,625,346
(2) 経常費用				
事業費	429,417,191	0	0	429,417,191
調査研究費	23,214,970	0	0	23,214,970
資料収集・整理費	15,391,559	0	0	15,391,559
研究資料出版費	21,221,045	0	0	21,221,045
普及活動費	27,658,786	0	0	27,658,786
学術情報提供費	25,321,558	0	0	25,321,558
地域研究プログラム費	11,205,747	0	0	11,205,747
人件費	114,371,584	0	0	114,371,584
役員報酬	19,032,000	0	0	19,032,000
給料手当	69,857,422	0	0	69,857,422
賞与引当金繰入	6,391,453	0	0	6,391,453
退職給付費用	4,973,125	0	0	4,973,125
福利厚生費	14,117,584	0	0	14,117,584
事務費	191,031,942	0	0	191,031,942
設備保守修繕費	5,806,772	0	0	5,806,772
水道光熱費	18,061,366	0	0	18,061,366
賃借料	87,318	0	0	87,318
業務委託費	11,274,712	0	0	11,274,712
減価償却費	144,538,734	0	0	144,538,734
諸雑費	11,263,040	0	0	11,263,040
管理費	0	24,209,967	0	24,209,967
人件費	0	18,114,921	0	18,114,921
役員報酬	0	4,618,000	0	4,618,000
給料手当	0	9,002,654	0	9,002,654
賞与引当金繰入	0	1,223,457	0	1,223,457
退職給付費用	0	880,140	0	880,140
福利厚生費	0	2,390,670	0	2,390,670
事務費	0	6,095,046	0	6,095,046
設備保守修繕費	0	58,654	0	58,654
水道光熱費	0	182,438	0	182,438
謝金	0	2,669,060	0	2,669,060
減価償却費	0	1,583,377	0	1,583,377
諸雑費	0	1,601,517	0	1,601,517
経常費用計	429,417,191	24,209,967	0	453,627,158
当期経常増減額	△ 4,233,365	△ 768,447	0	△ 5,001,812

2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産受贈額	552,082	0	0	552,082
経常外収益計	552,082	0	0	552,082
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	8,088	0	0	8,088
経常外費用計	8,088	0	0	8,088
当期経常外増減額	543,994	0	0	543,994
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,689,371	△ 768,447	0	△ 4,457,818
法人税、住民税及び事業税	0	70,000	0	70,000
当期一般正味財産増減額	△ 3,689,371	△ 838,447	0	△ 4,527,818
一般正味財産期首残高				3,892,040,763
一般正味財産期末残高				3,887,512,945
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	110,000,000	0	0	110,000,000
受取分担金	14,000,000	0	0	14,000,000
固定資産受贈額	108,819	0	0	108,819
一般正味財産への振替額	△ 240,508,727	△ 1,255,648	0	△ 241,764,375
当期指定正味財産増減額	△ 116,399,908	△ 1,255,648	0	△ 117,655,556
指定正味財産期首残高				3,589,214,305
指定正味財産期末残高				3,471,558,749
Ⅲ正味財産期末残高				7,359,071,694

〈一般会計財務諸表に対する注記〉

当事業年度から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日　平成21年10月16日改正　内閣府公益認定等委員会)を採用しています。

(1) 重要な会計方針

①有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券
償却原価法(定額法)を採用しております。
②棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。
③固定資産の減価償却方法
a)有形固定資産
定額法を採用しております。
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。
建物　30～50年
構築物　15～20年
什器備品　3～15年
b)無形固定資産
定額法を採用しております。
なお、耐用年数は次のとおりであります。
自社利用のソフトウェア　5年
④引当金の計上基準
a)賞与引当金
役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。
b)退職給付引当金
退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする小規模企業等における簡便法を適用しています。
c)役員退職慰労引当金
常勤役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当期末退職

慰労金の要支給額を退職給付引当金に含めて計上しております。

d) ＰＣＢ引当金

ＰＣＢ(ポリ塩化ビフェニル)の処分等にかかる支出に備えるため、今後発生すると見込まれる額を計上しております。

④消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

(2) 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	0	1,038,124,471	3,583,541
土地	110,494	0	110,494	0
投資有価証券	2,842,500,275	0	2,842,500,275	0
預金	163,122	0	163,122	0
小　計	3,884,481,903	0	3,880,898,362	3,583,541
特定資産				
土地	0	110,494	0	110,494
建物	2,575,839,130	0	93,354,572	2,482,484,558
構築物	159,177,272	0	11,782,370	147,394,902
什器備品	350,646,333	1,172,997	35,342,214	316,477,116
図書資料	261,749,870	1,062,377,519	0	1,324,127,389
ソフトウエア	7,844,463	0	2,184,860	5,659,603
事業運営積立資産	0	2,842,663,122	0	2,842,663,122
退職給付引当資産	56,829,730	5,853,265	0	62,682,995
建物設備修繕引当資産	180,176,651	22,287,572	3,522,362	198,941,861
ＰＣＢ引当資産	24,612,381	3,134	0	24,615,515
長期前払費用	1,635,541	0	417,585	1,217,956
小　計	3,618,511,371	3,934,468,103	146,603,963	7,406,375,511
合　　計	7,502,993,274	3,934,468,103	4,027,502,325	7,409,959,052

(3) 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

（単位：円）

科　　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
図書資料	3,583,541	0	(3,583,541)	0
小　計	3,583,541	0	(3,583,541)	0
特定資産				
土地	110,494	(110,494)	0	0
建物	2,482,484,558	(2,482,484,558)	0	0
構築物	147,394,902	(147,394,902)	0	0
什器備品	316,477,116	(316,477,116)	0	0
図書資料	1,324,127,389	(286,002,918)	(1,038,124,471)	0
ソフトウエア	5,659,603	(5,659,603)	0	0
事業運営積立資産	2,842,663,122	(202,000,000)	(2,640,663,122)	0
退職給付引当資産	62,682,995	0	0	(62,682,995)
建物設備修繕引当資産	198,941,861	(30,211,202)	(168,730,659)	0
ＰＣＢ引当資産	24,615,515	0	(10,515)	(24,605,000)
長期前払費用	1,217,956	(1,217,956)	0	0
小　計	7,406,375,511	(3,471,558,749)	(3,847,528,767)	(87,287,995)
合　　計	7,409,959,052	(3,471,558,749)	(3,851,112,308)	(87,287,995)

(4) 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

（単位：円）

科　　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	2,793,532,666	△ 311,048,108	2,482,484,558
構築物	179,828,553	△ 32,433,651	147,394,902
什器備品	418,940,615	△ 102,463,499	316,477,116
ソフトウエア	10,924,304	△ 5,264,701	5,659,603
小　計	3,403,226,138	△ 451,209,959	2,952,016,179
その他固定資産			
構築物	136,500	△ 5,688	130,812
什器備品	40,487,791	△ 37,388,709	3,099,082
ソフトウェア	12,352,010	△ 10,792,015	1,559,995
小　計	52,976,301	△ 48,186,412	4,789,889
合　　計	3,456,202,439	△ 499,396,371	2,956,806,068

(5) 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時　価	評価損益
債券(事業運営積立資産)			
利付国債	2,500,000	2,500,213	213
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	300,000,000	317,382,000	17,382,000
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	1,000,000,000	1,042,460,000	42,460,000
三菱UFJ証券ホールディングスクレッジットリンク債	500,000,000	516,985,000	16,985,000
三菱UFJ証券クレッジットリンク債	500,000,000	511,045,000	11,045,000
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	500,000,000	516,320,000	16,320,000
第20回共同発行市場公募地方債	40,000,000	40,365,600	365,600
債券(建物設備修繕引当資産)			
第21回共同発行市場公募地方債	20,180,300	20,190,000	9,700
第13回大阪府公募公債	29,996,000	29,981,100	△ 14,900
政府保証第855回公営企業債券	30,491,725	30,522,000	30,275
政府保証第27回本州四国連絡橋債券	34,585,948	34,622,200	36,252
合　　計	2,957,753,973	3,062,373,113	104,619,140

(6) 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 科学研究費補助金 (特定奨励費)	文部科学省	207,828,688	110,000,000	87,873,219	229,955,469	指定正味財産 (注)
合　　計		207,828,688	110,000,000	87,873,219	229,955,469	－

(注)当期末残高は、特定資産に計上されている図書資料及び固定資産に対応する指定正味財産相当額です。

(7) 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

内　　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	98,682,774
減価償却費計上による指定解除額	142,529,519
経常外収益への振替額	
減価償却費計上による指定解除額	552,082
合　　計	241,764,375

(8) 退職給付に係る注記

①採用している退職給付制度の概要

従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しています。

退職一時金制度では、退職給付として給与と勤務時間に基づいた一時金を支給しています。

また、退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

②確定給付制度

a)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	56,829,730 円
退職給付費用	5,853,265 円
退職給付の支払額	0 円
期末における退職給付引当金	62,682,995 円

b)退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	5,853,265 円

③役員退職慰労金に関する事項

役員退職慰労金 18,626,000 円を退職給付引当金に含めて計上しています。また、役員退職慰労引当金繰入額 1,206,000 円を退職給付費用に含めて計上しています。

(9) 金融商品関係

①金融商品の状況に関する事項

当法人は資金運用については短期的な預金及び元本償還の確実性の高い公社債等に限定しております。

②金融商品の時価等に関する事項

a)現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

b)事業運営積立資産

これらは預金及び前述(5)の債券で構成されております。

預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。
債券の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。
また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述5.に記載されているため、開示は省略しております。

c)退職給付引当資産
これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

d)ＰＣＢ引当資産
これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

e)建物設備修繕引当資産
これらは預金及び前述(5)の債券で構成されております。
預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。
債券の時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。
また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述(5)に記載されているため、開示は省略しております。

B. 財産目録

財　産　目　録

2014年3月31日現在　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金　額
（流動資産）	現金預金	現　　金　手元保管	運転資金として	372,874
		普通預金　三菱東京UFJ銀行 駒込支店	運転資金として	28,487,862
		振替口座　ゆうちょ銀行	運転資金として	84,675
			〈現金・預金計〉	**28,945,411**
	未収収益	有価証券利息	公益目的事業及び管理目的の財源として使用する資産の利息	3,715,078
			〈未収収益計〉	**3,715,078**
	未収金	株式会社ニチマイ他	公益目的事業の事業収益分である。	792,765
			〈未収金計〉	**792,765**
	立替金	役職員	公益事業目的の旅費	149,020
			〈立替金計〉	**149,020**
	商品	「東洋文庫の名品50選」 他計6,912冊	公益目的事業の在庫である。	2,943,300
		浮世絵複製他計28,560点		6,752,858
			〈商品計〉	**9,696,158**
	前払費用	職員	公益目的事業の業務を執行する職員の6ヶ月分定期代である。	58,590
		エムエスティ保険サービス㈱	役員賠償責任保険料	268,870
		㈱日本ビジネスリース他 計2件	公益事業目的の業務に使用している複写機リース料他	16,415
			〈前払費用計〉	**343,875**
			流動資産計	**43,642,307**
（固定資産）				
基本財産	図書資料	国宝・重要文化財・浮世絵 他計52,366件 和漢書80,064冊 洋　書20,018冊	公益目的財産であり、公益目的事業に供している不可欠特定財産である。	3,583,541
			〈基本財産計〉	**3,583,541**
特定資産	土地	所在　東京都文京区本駒込2丁目28番21号 地番　東京都文京区本駒込2丁目147番1号 地目　宅地 面積　3,687.63平方米	（共有財産） うち公益目的保有財産99％ うち管理目的の財源として使用する財産1％	110,494
	建物	所在　東京都文京区本駒込2丁目147、157-2 建物（本館）構造　鉄骨鉄筋コンクリート造 建築面積1,351.67平方米 延床面積6,698.12平方米 空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備	（共有財産） うち公益目的保有財産99％ うち管理目的の財源として使用する財産1％	2,302,152,416
		建物（付属棟）構造　鉄骨造 建築面積216.45平方米 延床面積408.14平方米 空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備		180,332,142

	構築物		(共有財産) うち公益目的保有財産 99 % うち管理目的の財源として使用する財産 1 %	147,394,902
	什器備品	ＰＣ一式他事務用機器及び事務所付帯設備 161 点	公益目的財産	316,477,116
	図書資料	和漢書　460,146 冊 洋　書　368,720 冊 複写資料　29,800 点 マイクロフィルム等　948 冊	公益目的財産	1,324,127,389
	ソフトウェア	図書館システム他計 16 点	公益目的財産	5,659,603
	事業運営積立資産	投資有価証券 利付国債他 5 銘柄	公益目的保有財産。運用益を公益目的事業の財源に使用している。	2,342,500,000
		投資有価証券 三菱UFJセキュリティーズインターナショナルクレジットリンク債	運用益を管理費の財源として使用している。	500,000,000
		普通預金 三菱東京UFJ銀行駒込支店	(共有財産) うち公益目的保有財産 18 % うち管理目的の財源として使用する財産 82 %	163,122
	退職給付引当資産	普通・定期預金 三菱東京UFJ銀行駒込支店	役職員退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	62,682,995
	建物設備修繕引当資産	普通・定期預金 三菱東京UFJ銀行駒込支店	長期修繕計画により、建物・設備の修繕に限定して使用する引当資産であり特定費用準備資金として管理している。	83,687,888
		共同発行市場公募地方債他 4 銘柄		115,253,973
	ＰＣＢ引当資産	普通・定期預金 三菱東京UFJ銀行駒込支店	ＰＣＢ(ポリ塩化ビフェニル)の処分等にかかる支出額を引当資産として管理している。	24,615,515
	長期前払費用	㈱東方書店	研究文献Ｗｅｂ版アクセス権	1,217,956
			〈特定資産計〉	**7,406,375,511**
その他固定資産	構築物		(共有財産) うち公益目的保有財産 99 % うち管理目的の財源として使用する財産 1 %	130,812
	什器備品	ＰＣ一式他事務用機器及び事務所付帯設備計 131 点	(共有財産) うち公益目的保有財産 95 % うち管理目的の財源として使用する財産 5 %	3,099,082
	ソフトウェア	会計ソフト他計 11 点	(共有財産) うち公益目的保有財産 80 % うち管理目的の財源として使用する財産 20 %	1,559,995
	電話加入権	03-3942-0121 他 5 回線	(共有財産) うち公益目的保有財産 80 % うち管理目的の財源として使用する財産 20 %	364,000
	長期前払費用	エムエスティ保険サービス㈱	建物火災保険料	389,849
			〈その他固定資産計〉	**5,543,738**
固定資産合計				**7,415,502,790**
資産合計				**7,459,145,097**

(流動負債)	未払金	㈱日相印刷他計５件	公益目的事業に於ける印刷物等である。	490,512
		東京海上日動ファシリティーズ㈱他計７件	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する事務所の設備管理等である。	2,185,658
		文京年金事務所	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の健康・厚生年金保険料４月納付金である。	971,412
		職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の３月勤務分時間外手当である。	252,347
			〈未払金計〉	**3,899,929**
	預り金	役職員他	源泉所得税	850,642
		役職員	地方税(住民税)	409,600
		役職員	雇用保険料	10,327
			〈預り金計〉	**1,270,569**
	賞与引当金	役職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の賞与の引当金である。	7,614,910
			〈賞与引当金計〉	**7,614,910**
			流動負債合計	12,785,408
(固定負債)	退職給付引当金	役職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する役職員の退職給付金の引当金である。	62,682,995
			〈退職給付引当金計〉	**62,682,995**
	ＰＣＢ引当金		PCB(ポリ塩化ビフェニル)の処分等にかかる支出額の引当金である。	24,605,000
			〈ＰＣＢ引当金計〉	**24,605,000**
			固定負債合計	**87,287,995**
			負債合計	**100,073,403**
			正味財産	**7,359,071,694**

〈財産目録附属明細書〉

(1) 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記の「(2)基本財産及び特定資産の増減及びその残高」において開示しているため、附属明細での記載を省略します。

(2) 引当金の明細

①賞与引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	7,459,017	7,614,910	7,459,017	0	7,614,910

②退職給付引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	56,829,730	5,853,265	0	0	62,682,995

③ＰＣＢ引当金

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
ＰＣＢ引当金	24,605,000	0	0	0	24,605,000

Ⅵ　役　職　員　名　簿

2014年3月31日現在の公益財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1．役　　員

役職名	氏名	現職
理事長	槇原　稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
専務理事	山川尚義	東洋文庫専務理事
理事	斯波義信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田仲一成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴見尚弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	中根千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	濱下武志	東洋文庫研究部長 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー
〃	平野健一郎	東洋文庫普及展示部長 国立公文書館アジア歴史資料センター長 東京大学名誉教授 早稲田大学名誉教授
〃	福澤　武	三菱地所株式会社相談役
〃	三木繁光	株式会社三菱東京UFJ銀行相談役
監事	西村敏行	三菱金曜会事務局長
〃	原　實	日本学士院会員 東京大学名誉教授

2．評　議　員

役職名	氏名	現職
評議員	荒蒔康一郎	キリンホールディングス株式会社相談役
〃	有馬朗人	武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	梅村坦	中央大学教授
〃	大崎仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	大滝則忠	国立国会図書館館長
〃	岸本美緒	お茶の水女子大学教授
〃	草原克豪	拓殖大学元副学長
〃	久保正彰	東京大学名誉教授
〃	後藤明	東京大学名誉教授
〃	瀬谷博道	旭硝子株式会社相談役
〃	東條和彦	三菱商事株式会社顧問
〃	増田信行	三菱重工業株式会社相談役
〃	間野英二	京都大学名誉教授

3．東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	槇原稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
委員	尾崎康	慶應義塾大学元教授
〃	興膳宏	京都大学名誉教授
〃	斯波義信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	中根千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	間野英二	京都大学名誉教授

役職名	氏名	現職
委員	御牧克己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	森本公誠	東大寺長老
〃	吉田順一	早稲田大学名誉教授

4．名誉研究員

氏名	所属機関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
GERNET, Jacques	Collége de France
韓永愚	Seoul大学校 (Prof. Emeritus)
黄寛重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California (Prof. Emeritus)
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
KYCHANOV, E. I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
李伯重	清華大学人文社会科学学院経済学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History (Prof. Emeritus)
SAHIN, Ilhan	Kırgızistan-Türkiye Manas Üniversitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

5．職員・研究員

部名	職名	氏名	現職
	理事長	槇原　稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
	文庫長	斯波義信	研究員を兼務
	専務理事	山川尚義	総務部長を兼務
総務部	課長	柴代淳子	
〃	参事	牧　祐紀子	
〃	〃	堀井　亮	
普及展示部	部長	平野健一郎	研究員を兼務
〃	主幹研究員	牧野元紀	
〃	研究員	岡崎礼奈	
〃	参事	長谷川茂広	
〃	〃	藤代和卓	
〃	嘱託職員	池山洋二	
〃	〃	児玉真起子	
〃	〃	古谷野まり恵	
図書部	部長	田仲一成	研究員を兼務
〃	課長	會谷佳光	研究員を兼務
〃	研究員	櫻井　徹	
〃	〃	篠崎陽子	
〃	〃	山村義照	
〃	参事	橘　伸子	
研究部	部長	濱下武志	研究員を兼務
〃	主幹研究員	瀧下彩子	
〃	研究員	原山隆広	
〃	〃	相原佳之	現代中国研究資料室派遣研究員
〃	〃	徳原靖浩	イスラーム地域研究資料室派遣研究員
〃	〃	宇都宮美生	
〃	〃	太田啓子	
〃	〃	池田　温	東京大学名誉教授 創価大学名誉教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研　究　員	池　田　雄　一	中央大学名誉教授
〃	〃	石　塚　晴　通	北海道大学名誉教授
〃	〃	市　古　宙　三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	梅　田　博　之	麗澤大学名誉教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	梅　原　　郁	京都大学名誉教授
〃	〃	大　江　孝　男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太　田　幸　男	東京学芸大学名誉教授
〃	〃	岡　田　英　弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	尾　崎　文　昭	東京大学名誉教授
〃	〃	小　田　壽　典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	小　名　康　之	青山学院大学元教授
〃	〃	片　桐　一　男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	辛　島　　昇	東京大学名誉教授 大正大学名誉教授
〃	〃	北　村　文　夫	
〃	〃	草　野　　靖	熊本大学元教授
〃	〃	窪　添　慶　文	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	久保田　　淳	東京大学名誉教授
〃	〃	熊　本　　裕	東京大学元教授
〃	〃	後　藤　　明	東京大学名誉教授
〃	〃	設　樂　國　廣	立教大学名誉教授
〃	〃	蔀　　勇　造	東京大学名誉教授
〃	〃	清　水　宏　祐	九州大学名誉教授
〃	〃	志　茂　碩　敏	
〃	〃	末　成　道　男	
〃	〃	曽　田　三　郎	広島大学名誉教授
〃	〃	武　田　幸　男	岐阜聖徳学園大学元教授
〃	〃	多　田　狷　介	日本女子大学名誉教授
〃	〃	立　川　武　蔵	国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	田　中　時　彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田　村　晃　一	青山学院大学名誉教授
〃	〃	竺　沙　雅　章	京都大学名誉教授

部名	職名	氏名	現職
研究部	研究員	千葉　斐	学校法人桐朋学園元理事長
〃	〃	P．ツィーメ	
〃	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	〃	戸倉英美	東京大学元教授
〃	〃	杤尾　武	成城大学名誉教授
〃	〃	土肥義和	國学院大学名誉教授
〃	〃	鳥海　靖	東京大学名誉教授
〃	〃	中兼和津次	東京大学名誉教授
〃	〃	永田雄三	明治大学元教授
〃	〃	延廣眞治	東京大学名誉教授
〃	〃	濵島敦俊	(台湾)国立暨南国際大学教授
〃	〃	原　實	東京大学名誉教授
〃	〃	藤井昇三	電気通信大学名誉教授
〃	〃	藤田　忠	国士舘大学名誉教授
〃	〃	細谷良夫	東北学院大学名誉教授 東北学院大学アジア流域文化研究所客員研究員
〃	〃	本庄比佐子	
〃	〃	松濤誠達	大正大学名誉教授
〃	〃	松丸道雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松村　潤	日本大学名誉教授
〃	〃	御牧克己	京都大学名誉教授
〃	〃	毛里和子	早稲田大学名誉教授
〃	〃	籾山　明	埼玉大学元教授
〃	〃	柳田征司	奈良大学元教授
〃	〃	矢吹　晋	横浜市立大学名誉教授
〃	〃	山口瑞鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山本毅雄	情報・システム研究機構 国立情報学研究所名誉教授
〃	〃	渡辺紘良	獨協医科大学名誉教授
研究部	研究員(兼任)	青木　敦	青山学院大学教授
〃	〃	石橋崇雄	国士舘大学教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(兼任)	今　西　祐一郎	国文学研究資料館館長
〃	〃	内　山　雅　生	宇都宮大学名誉教授，特任教授
〃	〃	梅　村　　坦	中央大学教授
〃	〃	遠　藤　光　暁	青山学院大学教授
〃	〃	太　田　信　宏	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
〃	〃	粕　谷　　元	日本大学准教授
〃	〃	加　藤　直　人	日本大学教授
〃	〃	岸　本　美　緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	楠　木　賢　道	筑波大学元教授
〃	〃	高　野　太　輔	大東文化大学准教授
〃	〃	小　松　久　男	東京外国語大学大学院特任教授
〃	〃	嶋　尾　　稔	慶應義塾大学教授
〃	〃	清　水　信　行	青山学院大学教授
〃	〃	関　本　照　夫	国立民族学博物館特任教授
〃	〃	妹　尾　達　彦	中央大学教授
〃	〃	高　田　幸　男	明治大学教授
〃	〃	武　内　房　司	学習院大学教授
〃	〃	土　田　哲　夫	中央大学教授
〃	〃	長　沢　栄　治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中　見　立　夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	八尾師　　誠	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	林　　佳世子	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	弘　末　雅　士	立教大学教授
〃	〃	深　沢　眞　二	和光大学教授
〃	〃	三　浦　　徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	水　野　善　文	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	柳　澤　　明	早稲田大学教授
〃	〃	山　本　英　史	慶應義塾大学教授
〃	〃	吉　田　光　男	放送大学教授，副学長
〃	〃	吉　水　千鶴子	筑波大学教授
〃	〃	六反田　　豊	東京大学大学院准教授

6．客員研究員

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	青　山　瑠　妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋　葉　　淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅　田　進　史	駒澤大学准教授
〃	〃	浅　野　秀　剛	大和文華館館長
〃	〃	天　児　　慧	早稲田大学教授
〃	〃	新　井　政　美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒　川　正　晴	大阪大学大学院教授
〃	〃	飯　尾　秀　幸	専修大学教授
〃	〃	飯　島　明　子	天理大学教授
〃	〃	飯　島　武　次	駒沢大学教授
〃	〃	飯　島　　渉	青山学院大学教授
〃	〃	池　田　美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	石　川　　寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	磯　貝　健　一	追手門学院大学准教授
〃	〃	井　上　和　枝	鹿児島国際大学教授
〃	〃	井　上　和　人	明治大学大学院特任教授
〃	〃	上　野　英　二	成城大学教授
〃	〃	内　田　知　行	大東文化大学教授
〃	〃	宇　山　智　彦	北海道大学スラブ研究センター教授
〃	〃	江　川　ひかり	明治大学教授
〃	〃	大河原　知　樹	東北大学大学院准教授
〃	〃	大　澤　　肇	中部大学講師
〃	〃	大　澤　正　昭	上智大学特別契約教授
〃	〃	大　谷　俊　太	京都女子大学教授
〃	〃	尾　形　洋　一	早稲田大学講師
〃	〃	岡　野　　誠	明治大学教授
〃	〃	丘　山　　新	浄土真宗本願寺派・総合研究所副所長
〃	〃	小　川　裕　充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	奥　村　　哲	首都大学東京教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	梶　谷　　懐	神戸大学大学院准教授
〃	〃	糟　谷　憲　一	一橋大学名誉教授，特任教授
〃	〃	片　山　章　雄	東海大学教授
〃	〃	片　山　　剛	大阪大学大学院教授
〃	〃	加　藤　弘　之	神戸大学教授
〃	〃	金　丸　裕　一	立命館大学教授
〃	〃	川　井　伸　一	愛知大学教授
〃	〃	川　合　　安	東北大学大学院教授
〃	〃	川　﨑　信　定	筑波大学名誉教授 東洋大学東洋文化研究所客員研究員
〃	〃	川　島　　真	東京大学大学院准教授
〃	〃	貴　志　俊　彦	京都大学地域研究統合情報センター教授
〃	〃	北　川　香　子	東京大学大学院助教
〃	〃	北　本　朝　展	情報・システム研究機構 国立情報学研究所准教授
〃	〃	橘　堂　晃　一	ベルリン・ブランデンブルグ科学アカデミー トルファン研究所客員研究員
〃	〃	金　　鳳　珍	北九州市立大学教授
〃	〃	久　保　　亨	信州大学教授
〃	〃	黒　田　　卓	東北大学大学院教授
〃	〃	氣賀澤　保　規	明治大学教授
〃	〃	厳　　善　平	同志社大学大学院教授
〃	〃	黄　　東　蘭	愛知県立大学教授
〃	〃	興　梠　一　郎	神田外語大学教授
〃	〃	小　嶋　芳　孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小　杉　　泰	京都大学教授
〃	〃	小　浜　正　子	日本大学教授
〃	〃	小　南　一　郎	泉屋博古館館長 京都大学名誉教授
〃	〃	近　藤　信　彰	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	齋　藤　真麻理	人間文化研究機構 国文学研究資料館准教授
〃	〃	早乙女　雅　博	東京大学教授
〃	〃	佐　藤　健太郎	北海道大学大学院准教授
〃	〃	佐　藤　慎　一	東京大学教授
〃	〃	佐　藤　　宏	一橋大学教授
〃	〃	佐　藤　仁　史	一橋大学大学院教授
〃	〃	澤　江　史　子	東北大学大学院准教授
〃	〃	塩　沢　裕　仁	法政大学准教授
〃	〃	島　田　竜　登	東京大学大学院准教授
〃	〃	城　山　智　子	一橋大学大学院教授
〃	〃	真　道　洋　子	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員
〃	〃	須　川　英　徳	横浜国立大学教授
〃	〃	杉　山　清　彦	東京大学大学院准教授
〃	〃	鈴　木　恵　美	早稲田大学イスラーム地域研究機構准教授
〃	〃	鈴　木　　均	アジア経済研究所地域研究センター上席主任調査研究員
〃	〃	鈴　木　博　之	山形短期大学講師 東北学院大学講師
〃	〃	鈴　木　立　子	愛知大学大学院教授
〃	〃	砂　山　幸　雄	愛知大学教授
〃	〃	關　尾　史　郎	新潟大学教授
〃	〃	高　遠　拓　児	中京大学准教授
〃	〃	高　橋　英　海	東京大学大学院准教授
〃	〃	武　内　紹　人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田　島　俊　雄	東京大学教授
〃	〃	田　中　明　彦	独立行政法人 国際協力機構理事長
〃	〃	田　中　　仁	大阪大学大学院教授
〃	〃	田　中　比呂志	東京学芸大学教授
〃	〃	C. A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	塚　原　東　吾	神戸大学大学院教授
〃	〃	辻　本　裕　成	南山大学教授
〃	〃	坪　井　祐　司	立教大学非常勤講師
〃	〃	寺　田　浩　明	京都大学大学院教授
〃	〃	唐　　成	桃山学院大学教授
〃	〃	唐　　亮	早稲田大学教授
〃	〃	東　條　哲　郎	愛媛大学特定研究員
〃	〃	富　澤　芳　亜	島根大学教授
〃	〃	中　谷　英　明	関西外国語大学教授 東京外国語大学名誉教授
〃	〃	長　縄　宣　博	北海道大学スラブ研究センター准教授
〃	〃	中　村　元　哉	津田塾大学准教授
〃	〃	新　村　容　子	岡山大学大学院教授
〃	〃	西　　英　昭	九州大学准教授
〃	〃	西　村　陽　子	中央大学兼任講師
〃	〃	西　尾　寛　治	防衛大学校教授
〃	〃	萩　田　　博	東京外国語大学准教授
〃	〃	濱　田　正　美	龍谷大学教授
〃	〃	濱　本　真　美	東京大学大学院客員研究員
〃	〃	林　　俊　雄	創価大学教授
〃	〃	平　勢　隆　郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平　野　　聡	東京大学准教授
〃	〃	廣　瀬　紳　一	国際大学准教授
〃	〃	藤　本　幸　夫	富山大学名誉教授 京都大学客員教授 麗澤大学客員教授
〃	〃	古　田　和　子	慶応義塾大学教授
〃	〃	古　屋　昭　弘	早稲田大学教授
〃	〃	弁　納　才　一	金沢大学教授
〃	〃	寶　劔　久　俊	アジア経済研究所研究員
〃	〃	星　　泉	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授

部名	職名	氏名	現職
研究部	研究員(客員)	堀川　徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松井　太	弘前大学教授
〃	〃	松重充浩	日本大学教授
〃	〃	松永泰行	東京外国語大学大学院教授
〃	〃	松本　弘	大東文化大学教授
〃	〃	丸川知雄	東京大学教授
〃	〃	三田昌彦	名古屋大学大学院助教
〃	〃	宮崎修多	成城大学教授
〃	〃	宮脇淳子	東京外国語大学非常勤講師
〃	〃	村井章介	立正大学教授
〃	〃	村上　衛	京都大学人文科学研究所准教授
〃	〃	村田雄二郎	東京大学大学院教授
〃	〃	本野英一	早稲田大学教授
〃	〃	守川知子	北海道大学大学院准教授
〃	〃	森平雅彦	九州大学大学院准教授
〃	〃	森安孝夫	近畿大学国際人文科学研究所特任教授 大阪大学名誉教授
〃	〃	矢島洋一	京都外国語大学非常勤講師
〃	〃	柳谷あゆみ	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	山内弘一	上智大学教授
〃	〃	山内民博	新潟大学准教授
〃	〃	山口元樹	
〃	〃	山本　真	筑波大学准教授
〃	〃	湯浅　剛	防衛省防衛研究所主任研究官
〃	〃	吉澤誠一郎	東京大学大学院准教授
〃	〃	吉田伸之	東京大学教授
〃	〃	吉田　豊	京都大学大学院教授
〃	〃	吉村慎太郎	広島大学大学院教授
〃	〃	和田恭幸	龍谷大学准教授

公益財団法人　東洋文庫年報　2013年度

2014年12月20日　発行
発行者　東京都文京区本駒込2丁目28番21号
公益財団法人　東洋文庫
槇原　稔
印刷所　株式会社　秀飯舎
発行所　東京都文京区本駒込2丁目28番21号
公益財団法人　東洋文庫

本書は公益財団法人東洋文庫に対する2014年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。